

裕イサオブログ 「ピアノは私だ」



パリで蠢くフリージャズピ
アニストの第三第四ブログ

プロローグ

本書は、私の第三ブログ「ピアノは私だ」および「ピアノは私だ2」全編。

12月3日2013年---5月20日2014年。

電子書籍の作成は、一旦、締めとなります。現在は、「新装版ピアノは私だ2」を執筆中。追って、書籍としてまとめる予定で居ります。やっと、これで、ブログを完結させる方法が明快になりました。ブログの執筆は大変に楽しいのですが、整理整頓几帳面系の私には、どうも書き散らし書き流し、いつまでたっても完結しない。この一点だけに大変な違和感を感じて居りましたが、解決策が見付かりました。今後のブログ展開の大きな布石になったと考えて居ります。

表紙写真by Yoshiyuki TAKACHI。

裕イサオ

5月26日2014年。

テストブログ

皆さん、今晚は。fc2の皆様には、初めまして。

今、ブログのお引越しをして居りますが、パソコン音痴。なんだか、使い方が、良く分かりません。

一応、家の鍵は頂きましたあー状態で、テンプレートの飾り付け等は追々。

ブログのお引越しより、この無内容の改善が先ではねえーのっていうお声も聞こえますが、うまあー、じっちゃんの脳は不滅です。変わらんのだ。

で、ピアノの方が、どしどしと忙しくなっている。これは、本業だから、当然にしてめでたいのですが、

とうとう、グーグルアナリティックスの私のプログラミングの不備を発見。自分のアクセス排除したつもりが、

そうではなかった。で、とうとう、閲覧数の実数を把握。なんとおーーー、6---9だよおーーーん。

ご愛読者様には、正座、深く深くお辞儀です。うるうるします。

でも、これじゃー、芸能人のブログ、歩く広告塔であるわたくしめとすると、あまりに閉塞している。

執筆意欲は変わらないけれど、ちと、広がり欠ける。で、ピアノの方が、どんどん広がりつつあるのに、

このバランスが悪い。で、引越しを決めた。

という訳なのです。引き続きの、ご愛顧、むむむむむむむむむうーーー、よろしく願い申し上げます次第でございます。でけた。うで、また、明日もコンサートなもんで、また、ぼさります。お座敷が多くなってきてねえー。花やっこでした。

2013.12.03 Tue

テストブログ2

BloggerからFC2へ。パソコン音痴が、こういうことをしているので、やや、へめらも。

まず、引越しということをやっているのに、ブロガーからの記事は、じえんじえん運ばれてこない。

まあ、存在しているからいいのだけれど。

日本ブログ村にピング送信設定をしているのに、記事が反映されない。当然、村に不在状態。

自分の記事の閲覧数が、じえんじえん分からない。ブロガーは統計で、簡単に見れたし、数字も、ほぼ、正確。

と、ブロガーの方が、諸々の機能がなくて、パソコン音痴には分かり易かった。

FC2の方は、もう、盛沢山で、じえんじえん分からない。トラックバックと聞いても、単にバックしているトラックとしか理解できないし、リンクって言われても、恐怖映画のタイトルに聞こえるし、トラコミなんて、トリコミ中のことなのかしら、とか……。引越し自体を取り止めたい誘惑も沸いてくるけど、もう少し、やってみよう。

本業が立て込んでいる時に、やるんじゃなかったよ。うったく。

2013.12.03 Tue

連日のコンサート漬けも、小休止。ブログのお引越は、なんか、上手く進んでないけれど、ちと、時間がないので放置。

一応、こうやって書いてはいるけど、村への送信ができないで困っている。満身送信である。fc2の画面にも、少し慣れてきたから、テンプレートを変えちゃった。ちょっと、原稿用紙系ブログから格好良くなった。内容は変わんねえーけど。

こういうのが、引越しのごたごたというやつで、操作の方が先に来ちゃうから、本来的に書きたいことが、じえんじえん、出てこない。動画は簡単にアップできなくなっちゃって、やや、困っている。

2013.12.05 Thu

ブログ引越し騒動

12月2日に、ブログの引越しを決めた。

やはり、マンネリ化と、あまりに閲覧数が少ない閉塞感。

書いていて、詰まらなくなってきた。で、急に閲覧数がどばあーなんてことはないし、それは、恐ろしい。

しかし、一桁というのは、これじゃ、ファックスブログかよおーとなる。

しかも、芸能人の端くれである。解雇だぜって、よ。

と、始めたのはいいのだけれど、パソコン音痴だ。

相変わらず、ブロガーの記事のエキスポートはエラーのまま。

どうも、容量が大き過ぎるらしいので「分割くん」というソフトをダウンロードしてみたけれど、上手く行かない。

ついでに、訳の分からないものまでダウンロードしたらしく、削除ができなくなってしまった。

やや、珍しくイラつき、fc2のサポートセンターへ連絡をしたら、翌朝には返信が来ていた。

その勢いで、ブログ村の掲示板に、記事が反映しないのですと書いたら、あつと言う間に対応返信。

私の登録ミスを訂正してくれた。このスタッフの方々の早いこと！ フランスに長年住んでいるので、びっくりを通り越してしまう。改めて、御礼申し上げます。引越しの躓きはエキスポートファイルの容量だし、ブログ村は、私の登録ミス。両サイトの不手際などどこにもないし、しかも、無料で愚ブログを掲載して下さっているのに、この真摯迅速なるご対応。少し、泣きそうになった。天窓の見積もり、二ヶ月以上経っても、まだ、こない国、はい、フランス。

なるおーと申し上げたい。

しかし、やはり、新居というものは、使い勝手が今ひとつ分からない。

ユーチューブの動画、ブロガーの場合は同系列だから、ものの二秒で完了。

新居でのやり方を、先ほど、やっと覚えた。閲覧数の確認も、どこを見ればいいのか分からない。

ちょっと、くじけそうになるけれど、この辺りが、おっさんのいけないところで、すっぱいすたなあー、引越し、やめっぺ、むかすのうちが、一番だっぺと、すぐなる。心機一転をしたがらない。まあ、新居の機能の多いこと。普通の携帯からスマホになりましたあーという感じ。で、一応、音痴ということにしてあるけれど、それはそれ、ピアノ弾きだから、嵌りだすと止まらない。暇を見て、覚える楽しみが出来ました。既に、テンプレートが変わったでしょ。

ブログ村とも接続したぞっ！ 後は、この無内容をどうするかだよねえー、裕センセ。

でも、詩神様もジャズ神様もジャズ菌一家も、どうも、新居がお気に召されないようで、どっかに行っちゃったよ！

シニアーマンもハイランダーもマミちゃんまで！　なんか、離婚後なんじゃねえー、こういう気分って？　したことねえーけど。

ブログですら、この様だから、それは止めとくね。

この記事は、このまんまにするけど、禁則文字の検索機能って、あるのかしらね？

2013.12.06 Fri

Bloggerとfc2

なんだか情報ブログみたいになってきたけれど、パソコン音痴のおっちゃんの引越し騒動。多少は、参考になるのかもとも思えるので、書いてみる。パソコンとかブログの専門家ではないので、単なる音痴騒動としてお読み下さい。

あっ、そうそう、その前に、夢の中に「久保の兄貴の家」というものが出てきた。この影響力！
夢にまで出てくるブログなんて、そうそうはない。なんだか高原の崖っぷちに立っていて、でかい和風家屋なんだけれど、すげえーボロ屋。ド田舎の朽ち果てた家という感じ。そして、久保の兄貴らしいお爺ちゃんと、奥さんらしいひつつめのお婆ちゃん。

俺「兄貴、見晴らしいいすね」

兄貴、酒を飲みながら「だろ」

奥さん「建て付け悪くてえー」

俺「いやあー、俺、好きですよおー、本当に、いい家ですね」

奥さん「障子紙張り替えなくっちゃねえー、あなた」

兄貴、酒を飲みながら「おおー、裕ちゃん、夕焼けが綺麗だろ」

マジで見てしまった、こんな夢。記事「戸車」のせいだろうけれど、ものすげえーリアルで、参っちゃった。

カミサンが、えれえーやつれてて心配になった。余計なお世話、ばあーーろおーー！

バシィーーん。

「Blogger」

良い所。まず、入力画面が原稿用紙みたいで、字が大きいから、おっちゃんにはベター。

機能がシンプル。初心者に分かり易い。広告とかもないから、すっきりしている。

あと、ミュージッちゃんである俺には、ユーチューブの自分の動画をアップする時、二秒、以上なのである。

これは、楽チン。

元々が、ミュージッちゃんのブログだから、これは、超便利。

悪い所。あっ、これはね、記事のカテゴリー整理が出来ないこと。

俺みたいな、多面体アホブロガーには、超不便。

だって、百回に一回ぐらい、詩神様が代筆してくれる。

この仕分け、抽出が出来ない。結局、愚ブログの単なる堆積になってしまう。

ダイヤモンドが見付からん、これじゃ。で、引越しすることにした。

「fc2」

いやあー、流石にナンバーワン。機能が充実している。

でも、入力画面が小さくて、おっちゃんには、やや、しんどい。老眼にはね。

ユーチューブの自分の動画を埋め込みコードで添付したら、画面がブログからはみ出した。

これは、俺の設定が悪いせいなのだけれど、良く分かん。

で、引越し中止を検討していたのだけれど、その中止を中止した。

ブログ村のスタッフさんもそうだけれど、fc2のサポートセンターの真摯な対応に参った。

きちんとご担当して頂いている方のお名前も書いてあった。

膨大なインターネットの大海の中の微小な愚ブログへの、速答、迅速なご対応。

それを仕事だからと言ってしまえば簡単なんだけれど、俺が感動したのは、その中の「人の気配」。

Bloggerには、これはなかった。

この無機的な作業の中に「人の気配」。

これは、本当に素晴らしいと思った。

ブログ村、fc2ご担当へ、深々とお辞儀です。

ご自愛下さいね。ありがとうございます。

でも、仕事中毒は、駄目だよおー。

余計なお世話だけど.....。

私信追伸

fc2経由で、今朝、エールのメールが届いていた。

ありがとうございます。うん、ブログ、止めないどおー。

あっ、今晚、続き読みますよ。二十六章だった。ちと、ピアノが立て込んでましたあー！

もう一つの追記

良く分かんのですけれど、ブログには禁則文字検索って、「そもそもないのでしょうか」。

句読点が冒頭に来る。前は、字数で、出来る限り調整していたけれど...。少しずつ、改善します。

お許し下さい。やっば、小説も随分書いたから、違和感だねえー、こういうの。

2013.12.08 Sun

新しいテンプレート。なんとなく、晴天の日の工事現場みたいな感じで気に入っている。もっと、ジャジーなものもあったんだけど、格好良過ぎて、五十半ばのおっちゃんには、やや、違和感。クールな感じのもあったけど、愚ブログだろ？ なんか変。で、この青空の工事現場になった。このテンプレートはfc2作ですよ。書く部分の幅が真ん中の三分の一だから、長文系の俺には、やや不便。句読点が頻繁に冒頭。これは物書きとしては暴投。なんか、気になるけど、プレビューとじえんじえん違う形で出てくるから、今日は、もう、改行なしの散文詩形にしちまう。どこで切れても、むふふふふ。ちびちび改善しまあーす。あっ、ちゃうちゃう、今日、本年初めての落ち葉掻きをした。オータムリーブスって英語だとジャズの名曲でえーすって感じだけど、フランス語だと、ご存知の方も多と思うのですが、死んだ葉。怖いのだ。梶井基次郎の桜の木の下の子を思い出しちゃうから怖い。で、こっちのお墓は本当に御遺体がお墓の下。でも、これは怖くない。生きている人間の方が、怖いから。

「裕センセ、落ち葉が三センチぐらいになってますが」

「ふむ、今、枯葉のライブ版の編集をして居る」

「いや、そちらではなく、お庭の落ち葉の方です」

「だあーら、今、その動画の編集を、わしはして居る。君が、やればいいんじゃない」

「あっ、センセ。地上階が落ち葉で埋まりました」

「じゃかあーしい、家は入り口が二階だからなんの問題もないっ」

「センセ、二階の窓がまっ黄色にっ」

「うるさいねえー、あんた。今、だから、その編集をしているのっ、俺はっ！」

その頃、裕先生のお宅は、外から見ると、紅葉したイチョウの木に見えた。

あれ、これも久保の兄貴の記事だっ。

「ちょっと、君、うるさいから、煙草買いに行ってくる」

玄関の扉を開けた裕先生。タあーリラリい——————ん。

埋まったっ！

2013.12.09 Mon

第二のブレイク

注　すでに、テンプレートが変わってますので、記事内容が、ややズレています。

さあーて、暇を見て、fc2のマニュアルを読み、いろいろと改善していこうと思う。多機能だから、嵌ればおもしろいだろう。

ちょっと、テンプレートの書く欄が縦長で、私の家の庭に良く似ている。もう少し幅広のやつの方が便利そう。スタンダードな方が。プレビューとアップした時の画面が全然違うから、禁則文字のコントロールが上手くできない。あっ、ブロガーのエクスポートファイルは、サポートセンターが解析して下さるとのこと。ありがたい。お辞儀です。三百九十二編の記事が入っている。引越しが完了したら愚ブログ、散文詩、ファンタジー小説等々と整理をしなければならない。とりわけ、あえて書かない故郷、被災地への思いも、数編の記事として残っている。これは、きちんと整理したいのである。この思いは、安易には書けない。ブログという形式で、あまり、書きたくはないのである。だから、今日まで、ほとんど書いていない。

ところで、ここ近々、新しい動画の編集を、ちまちまとしている。

シンセサイザーのソロが三曲。これは世界戦略曲。つまり、ヒットを目視して作られた。

で、ヒットするのか？　もちろん、しない。でも、これ、大音響でディスコパーティーの時に掛けてもらうと、かなり受けるはず。で、スタジオシャンドンというパリの十五区の素敵なダンス学校の素敵な教室でのコンサート。これを、全部、ちゃんと見てみた。ピアノが残念ながら、初心者用でコンサートには渋かったけれど、演奏自体は良い出来。それから、バビロでのコンサート。こちらは、ヤマハU1で、調律もばっちりだったからピアノの音が素晴らしい。演奏の出来も良い。

で、この最近の自分の姿、および共演者の姿を改めて見てみた。

まず、私の演奏だけれど、たとえばフリージャズの熱狂的なファンが聴くと、あれっとなる。

じゃ、スタンダードジャズのファンが聴くと、あまりの無謀なアレンジに眉間に皺。

即興演奏として聴くと、ジャズの臭いがむんむんしていて、現代音楽系のファンは息苦しくなる。

つまり、カテゴリーが分からん。つまり、イサオ節なのだ。まあ、これがスタイルとなっていることが分かる。

それなりに演奏中は音に貫禄はある。ミュージッちゃんとしての。でも、演奏していない時の、へらへら笑いで、すべてのイメージが台無しになっている。バンドマスターとしての指示も「好きなようにして頂戴ねえー」、以上なのだ。

ピアニストの第一ブレイクは、三十代後半ぐらいだった。世界一早い暴力ピアニストとして。

で、現在は、結構諸々のテクニックを駆使した独自のイサオ節。カテゴリー不明。

これは、やはり、ひとつの到達点なんだろう。

で、佐藤真師匠の態度および演奏。これは、明らかにミュージシャンとしての格の違いが如実に現れている。

こけおどし音がまったくない。揺らぎのない核心的な音しかない。人格、品格が違う。さすが師匠である。

で、私より二十二歳若いヨラム。さすがに若手の代表格としての風格がある。スピーチも上手い。堂々としている。

演奏後も、私のようにへらついた態度をしない。

このわたくしの訳の分からなさはなんなのだろう。

演奏中の風格、穏やかで謙虚なのか、単に自信過剰を隠すためのへらへら笑いなのか、自己顕示欲の固まりのようにも思えるけれど…。別に、ぎらついた性欲感っていうのもない。もてたいのかどうでもいいのか不明。人前に出るのがあまり好きではないようにも見える。でも、ミュージシャンだから矛盾している。出不精。この訳の分からない多面人格。

これが、私という人物という結論に到達した。

はっきり言って、これは、単なる良い人。好々爺なんかも。

「裕さんのその人畜無害感、あたし、とても好きなの」なんて、女性ファンに言われるのだ。なるおー。

2013.12.09 Mon

ブログ引越し完了

どうも、記事欄の横幅が狭過ぎるので、テンプレートをシンプルなやつに変えてみた。テンプレートのカスタマイズというのが、できないのです。そりゃー、理論上は分かる。元々、理科系で算数は得意科目であった。でも、コンピュータの開発者の方の方が知能指数が断然高く、高齢化した理科系の脳キャパを上回っちゃっている。ふん。開き直る。

それと、私のプロフィール写真が向かって左に顔を向けているから、元現代美術家とすると、その写真は、普通は右側の方が自然に見える。多少ハンサム度も増す。はずなんだけど...、もじもじ。

テンプレートを変えたら、プレビューと大体同じ位置に文字が来るようになったから、禁則文字のコントロールが楽になった。

やっぱ、句読点が冒頭とか、いかさないよねえー。ぼっちい感じになっちゃう。愚ブログが更に愚鈍度を増しちゃう。

よっしゃー、わたすの世界戦略曲、その1。

大音響で、酒をがぶがぶ飲んで、踊り狂って頂戴っ！

作っている側が、赤ワイン飲んでるから、素面で聴くと、たぶん、拙いと思うけど...

動画が画面から鯨のようにみ出していたら、ごめんっ！

と、ここまでの一部は昨日書いた。

本日、起きる。fc2サポートセンターのご担当の方からメール。

あの、返信の出来ない機械的メール。でも.....。

「お問い合わせ頂いたエクспортファイル、やはり、お客様の予想通り容量が大き過ぎますので、こちらのサーバーで直接入力させて頂きました。ご利用ありがとうございました」という主旨のメール。文章は、ちと、違うけど。

これは、明らかに「人間の書いた文章である」。

fc2という巨大サイトから人の声。私は、ランニングシャツ、腹巻、ステテコに着替え一升瓶、胡坐、マスタードの入っていたコップ、拳で目を拭いながら飲んだのである。ご担当の方、東京でおごりますね、居酒屋で。ありがとうございましたあー。

追記

おりゃー、三百九十二編の過去記事の整理をせんといかんのです。

ユーチューブの動画も、知らなかったっ！ 六十三本だって！ タイトルとかタグの整理しないとねえー。

書いて書いてアップしてアップしてと、会社辞めてから、まあ、努力のようなものをしていたら、この堆積いー。

もう、お金はいらんのだ、時間をくれっ！

まあ、持ち家はあるでしょ、子供たち二人も独立した。

ははははは、酒代と煙草と、後は庭の畑のトマト食ってりゃ、餓死はせんだろう。

裕センセ、トマトは、もう、ないですけど...

う？ 僕、小食だし、三分クッキングのプロだよ。ツナ缶一個で十分なの。

酒代ぐれえーは、ピアノで稼いでるわいっ！

2013.12.09 Mon

今朝起きる。

次のコンサートまで、マル・ウオルドロンの「レフト・アローン」の和音の解析解体再構成、および、童謡「うさぎ」の暴力的なアレンジをせんといかんと思いつつ、ヒーコーじゃね、コーヒーを飲んで煙草。りゃ、ブログ記事のストックはないよなあー、そういや、五十代の生き方っていうカテゴリーがあったよなあー、まっ、俺も五十代になったらエッセイから、そっちに移ろうと、最近の流行言葉だと、ガチっていうらしいけど、で、32分28秒ぐらいは、そう思っていたんだけど、顔を洗って、二杯目のヒーコーとバタコをしてたら、おわあ、俺、来春で五十五歳だぜって、よっ、タイムマシンかよおー、逆のって気が付いた。で、たまには、音楽でいうバラードブログ、ブログ文学大衆小説「五十代」を書こうと思った。けど、ふむ、なんだか、テンプレートの右側が襷じゃん、美しくない。大体、トラックヤロウだの、RSSリングコングだの、なんのことだか分からん。いらんと消した。で、それでも、月間アーカイブがなげえー、美しくない。で、ブロガーの方は、表示の仕方、はい、折り畳む。以上、二秒だった。で、新居は、そうはいかんだ。大体、昨日の動画ははみ出しているし、美しくない。元現代美術とすると、どうも、駄目なのだ、こういうの。で、書く前に着手。嵌る。なんとかなったと思ったら、右上にグレーの長方形の四角が出てくる。うな、馬鹿な。一応、元理科系、インプットしたものを一旦削除。元に戻らない。二回やるも、駄目。で、元理科系、ふむ、理論的に構造主義およびビイドゥゲン・シュタインの哲学書によれば、この解決は、「詳しい人に泣き付く」「サポートセンターに甘える」「初心に帰る」という選択肢。

その1 「泣き付く」

息子は独立してパリに住んでいる。呼び出す訳にはいかん

娘はいるけど、超多忙、ブログのテンプレートで、五秒おきに質問。首絞められる

その2 「サポートセンター」

調子に乗って、ご担当の方を巻き添え。やり過ぎ

その3

ふっふっふっ、元理科系、超痴呆指数をフルに動員して考えた。

うにゃ、一回、別のテンプレートに移して、今のやつを削除し、再ダウンロードして戻る。

ふっふっふっ、やはり、私の痴呆指数は健在だった。結果は、ご覧の通り。ふっふっふっ。

あれ、だから、「五十代」という記事は明日になっちゃったっ！

だから、1つてした訳、明智君。

ほっほっほっ、調子に乗って世界戦略曲その2。

聴いてくれ玉枝。あっ、玉枝さん、お久しぶりいー！ っても、誰なの？

裕イサオ有限会社のキャラのひとつなの。著作権には、煩いから、気を付けるように。そうでもねえーけど。好きにしてって。

2013.12.12 Thu

五十代2

随分前に、一度、私の行っていた高校の記事を書いた。

男子校。いつの間にか男女共学になっていた。調べたら2001年4月1日から。ただし、1951-1955年に女子が五名いたことがあると出てきた。東京出身のやつに「男子校」「男女共学」なんて話をしたらキョートンとされた。「なんすか、それ？ えっ、今時？」。まあ、男子校の時代が長いのでバンカラ気質ということで、地元では有名なところである。

私の世代は、団塊の世代程ではないにしても、第何次ベビーブームという世代で、一学年が五百人近かった。十クラスで、その半分が理科系。私も、一応理科系のクラス。一学年二百五十人ぐらいがいた計算になる。

当時、今は知らないけれど、大変な医科歯科ブームで、優秀な連中は医者、歯医者になった。実数は知らないけれど、風の便りでは、上記理科系生徒数の三分の一ぐらいがそうらしい。地元の開業医の看板を見ると、それも頷ける。見る看板のほとんどが同級生である。ちょっと、不気味。

同級生1

彼との卒業後の付き合いはなかった。医者、開業医。

彼は、当初から「俺は五十歳で引退する」と、皆に表明していたらしい。

そして、五十歳。医院を閉鎖し、離婚。今は、予定通り好きなことをして暮らしている。

この彼の人生計画および実行力は、同級生の間で絶賛された。素晴らしいと。

地元では、変わり者という意見もあるらしいが、我々、同級生は賞賛を惜しまない。

同級生2

医者。地元で人気の開業医である。

帰郷すると必ず会う。「裕ちゃんさ、俺もoo(同級生1)と同じく、医院閉鎖してさ、京都の山奥に茶室作ってさ、余生を送ろうと思ってんだよ。裕ちゃん、会社辞めて、ピアノ一本だってな、いいなあー、正解だよ、それ。金なんて、そんなに必要ねえーんだよな、本当」。

同級生3

歯医者。開業医。

「裕ちょよ、俺よおー、歯医者好きでなったんだけどよ、馬鹿みたいに患者増えちゃってさ、朝

から晩までガーガーキーキーやってんだよ。売り上げなんてよ、oooooooooooooooooooooを超えちゃったんだよ。もう、金なんていらねえー、歯医者、止めてえーよ。酒飲んで、煙草吸って、野球やりてえーよ、俺」

「あれ、ブーちゃん、ベント売っちゃったの？　しょぼいライトバンじゃんかよ、金持ちなのによ」

「うん、もう、車なんてよ、どうでもいいべって。俺よ、少年野球チームの監督やってっぺよ、道具積みりゃーいいわけ。金ばっか溜まっちゃってるからよ、バスの免許取ったんだよ。で、マイクロバス買ってよ、子供たちの家一軒ずつよ、送り迎えしてんだ、俺。偉いべ？」

「マイクロバスっ！」

「うん、ちょっと先のパーキングに止まってっから、後で見に行くべ。金、余ってっからよ、ついでに、温泉付きの老人ホームの一部屋買ったんだよ。週末、俺が家でごろごろしてっママが嫌がるじゃん。俺、そっちで泊まってんだよ。偉いべ？　でよ、医院の裏に、ママが逃げちゃっても車椅子で、俺ひとりで生活できる平屋建てんだよ。ママ、もともとよ、都会の人だからよ。ところで、裕ちょよおー、oo(同級生1)、医者止めちゃったの知ってる？　ずっと言ってたけどよ、みんな、酒の勢いの戯言だと思ってた。本当だった。偉いよなあー、離婚までしちゃってよ。参るよな。後よ、oo(同級生2)もよ、医者止めて京都の山に籠るって言ってたな、こないだよ。なあ、俺らの世代とか学年がおかしいのかな」

「ブーちゃんよ、まあ、俺ら、ちょっとおかしいのかもな。俺も会社辞めちゃったしよ。物欲がねえーんだよ、そもそも」

「うん、もともとよ、俺らってそうだったけどよ、震災が輪を掛けた。人生観が根底から変わった。違うな、元に戻った。俺よ、裕ちょみたいによ、文学、詳しくねえーけどよ、自分の人生なんてことよ、改めて考えちゃったよ。本当に必要なもんなんてよ、そんなんねえーべってよ。でもよ、俺、歯医者止めっつよ、ただの酒飲みのオヤジじゃん、ピアノ弾けるわけじゃねーし。地震のあった日、最初の日よ、マジでよ、世界の終わりかと思ったよ。でもよ、俺、知恵はあっからよ、とっさによ、ガソリン入れて、セブンイレブンに行ってよ、酒瓶、床に散乱してたんだけどよ、割れてない焼酎、全部買って、煙草買い占めてよ、十袋ぐらい持って家に帰った。ママに打ん殴られた。カップヌードルとか、なぜに買ってこんのか、あなたって言う人はっ！　ははははははあー、裕ちょなら、分かるよな、この気持ちよ、はははははははははははは」

2013.12.12 Thu

過去記事の仕分け

今、酒の勢いで昨晚書いた記事を削除した。

とても良く書けていたのだけれど、あまりに本音だし、あまりに鋭いので削除した。

私本人以上に内容が立派過ぎて、責任が取れないから。詩神様と酒神様の合作で、私には辛過ぎ。

ところで、マルセル・デュシャン、やっとフランスでも認知された感じはあるけれど、ピカソという名前と比べたら、それ程名前が浸透はしていない。うん、まあ、デュシャンのことはあまり今回は書かないけれど、三十代前半で彼は美術界から消えてしまった。で、その後に「グリーンボックス」という作品というのがあるんだけれど、スーツケースの中に、それまでに作ったすべての作品のミニチュアが入っているというもの。まあ、超絶的寡作だからできるんだけれど、やはり、熟考の末に最小限度の作品しか彼は作らなかった、だからこそ、一点一点を大切にしていたはずなのである。

私のブログが同じレベルとは言わないけれど、昨晚、いくつかの気合の入った記事を読んで、本当に泣いてしまった。

拳で涙を拭いながら読んだ。やはり、こういう記事は大切にしたい。と言っても、ほとんどが愚ブログ。

引越ししてきた記事が三百九十二編。原稿用紙にすると千枚分ぐらい。読み返す気力も暇もない。でも、

少なくともカテゴリの整理はしたい。そのための新居なのだ。

やはり、エクスポートされてきたから、いくつかの記事の改行がおかしくなっていたり、変な風にスペースが開いていたりと、

ちまちました不備が目に残った。もう、ひとつずつ再読し再編集するしかないけれど.....。

うわあー、大変な作業。

で、テストとして「シニアマン」シリーズのカテゴリを「SF」としてみたら、関連記事にシリーズが全部表示されるから、この記事だけまとめて読んだ。自分で書いたのに、ゲラゲラ笑った。いやあー、これは便利だし、読む側も読みやすい。

愚ブログの一部は「雑文」としてみた。まあー、その日暮らしの書き捨て記事。でも、時々、最後の方に、むむっというフレーズが出てくるものとかもあって、うわあー、全部、読み返すしかない。ぎわあーん。

まあ、ブロ中だから、ほとんど毎日更新はしているけれど、その日その日の堆積が、もちろん、私の人生と呼ばれるものだから、書きっぱなしもねえー。もう少し、その私の人生、生きてきた軌跡も大切にせんとあーとかも考えるから、やはり、デュシャンに倣って、私のグリーンボッ

クスを作らんとあー。などと考えている。

あっ、fc2の管理画面の左下辺りに「ブログの書籍化」というのがあった。

もちろん、有料だろうけれど、興味津々。私の愚ブログを書籍化する。

へへへ、自費出版か、慈悲出版以外には考えられない。あれっ、本ってさ、一種のボックスじゃん。いい感じ。

あっ、もう一個あった。このアナログオヤジが、とうとうテンプレートのカスタマイズに成功したっ！

ヘッダーの写真、コンサート会場にいたプロが撮ってくれたらしいんだけど、真師匠が送ってきてくれたから、私自身、作者を知らない。今晚会うから聞いてみようっと。左側のぶっとい柱で三人同時に撮るのは至難の技なのに、すごい。

2013.12.14 Sat

昨日は、午後からパリに行っていたのに、こちらの時間で午後五時半に記事がアップされている。
。ふっふっふっ、予約投稿システム、なのだ。起き抜けに書いた記事を、投稿時間をセットして.....
。推理小説のアリバイ工作みたいね。

で、昨晚は某パリのアソシエーションの忘年会コンサートみたいなものに、真師匠とヨラムが客演。
で、なんで、俺が呼ばれないのおー——、などと臍を曲げたりはしない。単純明快、ピアノがないのだ。
考えてみたら、管楽器系の連中は、色々な嫉妬だの詮索だの、脳内で蠢いているのだろうと推測する。

で、来ている連中の半分がミュージッシャンで顔馴染み。プラスその他の方々。
俺より皆若いから、挨拶をされる。なんだか、大物ミュージッシャンなのかいねえー、俺とか、ちょっと、こそばゆい。
はっきり言って、単に年長、それだけなのかしらあー？ 分からん。でも、皆の目付きはマジだったから、結構、俺って著名なの？ と、こそばゆい。

コルトレーンを彷彿とさせる素晴らしい演奏を聴いて、ヨラムのスズキスイフト1996年、真師匠のドラムセットを積み込み、
今度は、日本人アソシエーションへ。入るなり、「ああ——、イサオさんあ——ん」「あっ、ピアノの人だあ——」
「先日のコンサート、格好良かったすね」と、やや黄色い声。携帯で真師匠との写真とか、俺との写真とか撮られる。
フェイスブックとかに載せないでねえー、肖像権、高いよお——などと言っていた私。

「あっ、〇〇社の〇〇課長？」どきり。お顔を見るも思い出せない。
「えっ、違うけど、俺、裕イサオ」
「あっ、ごめんなさい、横顔が凄く似ていたんで」
「いえいえ、いろんなところでいろんな方にお会いするので、こちらこそ、申し訳ないです。どこでお会いしましたか？」
「あたし、〇〇の家内です」
「あっあっあっ、〇〇社長、お元気ですかあ——」
「りやりりりや、やっぱり、〇〇課長じゃないですかあ——」

ペコペコしながら、「在任中は、大変大変大変、お世話になりましたあー、奥様、お元気でいらっしゃいましたかあー、大変大変大変、失礼をば致しましたあー」ペコペコ。

その姿を、裕イサオファンの皆々様方は、点目で見ている。

確実に、パリ有名度はランクダウン。米搗きバツタ部門へ.....。

でもさあー、俺は下請けさんあっての大企業というポリシーは変わらない。米搗きバツタはね、お偉いさんには絶対にしない、のだ。分かるかちら？ あれっ、文音体が久保師匠になっているけど.....。

これがあー、反骨精神なのだっ！

でも、女性ファンは、ちょっと、「その姿」に興ざめ？ ふん。狂鮫を舐めなよあー、う
うううう、負け犬？

2013.12.15 Sun

なんかブログの引越しをしたら、ブログの他の楽しみというものを見出してしまった。

今までは、単に書くだけという感じだったのが、これにテンプレート弄りと記事の整理が加わった。

引越し前にはテンプレートのカスタマイズなんてなんのことか分からなかったし、そのやり方なんて想像も付かなかった。

けれど、インターネットで調べると色々と説明が出てくる。で、元々の理科系および美術家脳が刺激される。

で、当然、嵌る。あっ、テンプレートの写真、色合いは私が弄ったけれど、原本はタカチ ヨシユキさんです。

金曜日に真師匠に聞いた。「あの写真はどなた？」「あっ、あれはヨシだよ」、本人もいらしたのでお礼および無断借用のご連絡。「あっ、どうぞどうぞ。コピーライト？ ぜえ——んぜん、好きに使ってください。名前の明記？ いらないですよおー、そんなん」とのご返事。お辞儀です。

で、新しいテンプレート。ヘッダーのタイトルとフッターの背景色が強いので、もう少し柔らかくしたい。

やり方は把握している。でも、ちょっとめどうになった。ちょっと、飽和状態。

テンプレートばかり格好付けても、中身が無内容じゃんという内なる声。げげえ。で、小休止。

記事の整理。私は比較的几帳面な方だから、楽しいことは楽しいけれど、量が多過ぎ。

まあ、よくもまあこんなに書けるものだと、やや、呆れている。昨年の中月中旬から始めて、この量。

まあ、ほとんど毎日、しかも、各記事が長い。当然、この量になる。健筆である。まあ、悪いことではない。心も健康なんだろうね。まあ、文体内容共に明るいし、人の批判とか中傷とかもまるっきりない。裏返すと、だから、つまらんとも言える。まあ、いいや。などと言いながら、なんか急に、久しぶりにランキングポイントとか順位を見た。

いつも、お気に入りブロガーさんの記事を拝読し、時々、ブログ解析でアクセス数を見る。

だから、ランキングポイントは意識の外。で、さっき見た。びっくりてんぎょう。びっくり仰天。

堂々たる順位。引越し前の平均が二十一位だったから、あんれま——となった。健筆、文才に溢れた並みいるブロガーさんの中に、私のアホサムネイル。なんだか、林家三平の口調で「どうも、すいません」という感じです。

アクセス数も、倍ぐらいになった模様。と言っても、元々少ない数字の倍だから、相変わらず、

両手両足の指の数で収まる。うん、でも、読んで下さる方々がいらっしゃる。ありがたいです。
うるうる。お辞儀。

わっはははあー、予約投稿システム。これで、夜な夜なのお出掛けにも関わらず、毎日更新が可能になったあー！

辟易？ 辟易中毒というものもあるのですよ。辟易しているのに、次から次から記事がアップ。で、パブロフ反応で開いてしまう。で、読んでしまう。改めて辟易する。そして、この辟易感がないと夜眠れなくなる。

この僻中のことを、医学会ではイサ中と読んでいるのである。嘘。

深入りは危険との報告まである。嘘。

イサ中に効く薬は、更なる辟易。以上である。セントレイニーホスピタル医師団報告。

2013.12.15 Sun

クリスマスツリー

今年のフランスは、夏からとてもお天気が良い。

十二月も半ばだというのに快晴の日々が続いている。

昨日は日曜日。冬の木漏れ日の中で、枯葉の掻き集めその二を行った。

ジャンパーにマフラー姿でやっていたら、木漏れ日といっても結構暑くなったので、セーター一枚でやった。

なんの利害も、なんの自己顕示も、なんの賞賛も、本当になにもない営為なのだけれど、もう無我の境地で気持ちがいい。いいなあ——、こういう気分って。

その間、カミサンの方はクリスマスツリー設置前のサロンの大掃除。ツリーが完成すると動かさなくなるので、

窓拭きだ、板の間のワックス掛けだとやっていた。枯葉の掻き集め終了後、半地下室の納戸からツリーを持ってくる。

以前は、本物のツリーだったのだけれど、葉というのか針というのか、これが床に散乱するし、年始に廃棄所へ持って行ったりといつの間にかプラスチック製のツリーに変えた。こちらの方が自然に優しいのではとも思うけれど、これを作るために排出される二酸化炭素の量は不明だから、本物のツリーの方がいいのかも知れないけれど、そのために伐採、そして廃棄。結局、どちらが地球に優しいのか分からないままである。

プラスチックのツリーを箱から出して組み立てる。

それから、圧縮された葉の部分をひとつずつ広げていく。

なんの利害もなんの自己顕示もなんの賞賛もないこの営為を、冬の木漏れ日で透明なオレンジ色になったサロンで、

黙々とやった。無我の境地。いいなあ——、こういう気分。

葉っぱを広げながら、また、ひとつ、年を取ったんだなあーと柔らかい感慨に包まれた。

詩を書いていた若い時分に、早く年取りたいなあーと思っていた。

年を取れば楽になれる。この血走った自分から解放されると思っていた。うん、本当だった。

2013.12.17 Tue

無趣味人間

私は、まあ、丸痴人間と良く言われるのだけれど、意外というのか、むしろ、だからこそというのか、あまり、趣味というものがない。

二十代は、現代美術家という肩書きでオフィシャルな職業だった。

会社員になった時は両立に苦しんだ。「裕さん、土日に作品作ればあー」なんて気楽に言う連中もいたけれど、

趣味とは違うものだったから、そうはいかない。美術で世界史を変えようとさえ思っていたのだからねえー。

もう、二十四時間、コンセプトだの色だのオブジェだのが脳内で蠢いていないとでけんのだ。

で、やるかやらないか、以上となり、止めた。会社を辞められる状況ではなかったから、それしか結論がない訳ね。

それから、日曜作家をやりだした。

当初は、ロックの辻さん、パンクの町田さんがいらっしゃるから、ジャズの裕ちゃんと続こうなどとも考えたが、

これは無謀な試みであった。ぎよわあ——ん。この志しの高さは、ちょっと、お笑いでさえある。

うで、ピアノを弾き出した。

当初は、趣味のつもりだったのだけれど、左手が初期化していたので、会社のパソコンをずっと左手で打っていたら腱鞘炎になった。うで、段々、コンサートの回数が増えてきて、いつの間にかプロ登録をしていた。

と、どうも、この趣味という感じではないのだよ。

そうだな、庭弄りと、料理だな、その趣味と言えるのは。

料理が好きだから、当然、スーパーの買出しも好きである。

おお——、ブログがあったぜって！

でも、なんだか最近、ブログ文学の構築が出来るのじゃねえーか、むふふふふう——などと考え始めている。

どうも、これが、一番、私に合っている執筆形態なのではないのかしらあー、などと。

ショートショートもおもしろいのだけれど、その三作目が下書きのまま、ちっとも進まない。

などと言いながら、ブログはこうやって書いている。う——ん、どういうことなの？

そうねえー、フリージャズもなんの打ち合わせもなくぶっつけ本番で演奏するから、ちょっと、私のぶっつけブログに似ているのかも。でも、最近、あまり、はなもげら語使わなくなったでしょ？ 再発するかも知れん。考えたら朝からずっと、フライミートゥーザムーンのメロディーと、ヒポポタンDとオナラミンCとコーウンの女神とロキソニンという音が、脳内で木霊している。

2013.12.17 Tue

心の冬休み

昨晚、赤ワインを飲んでいたら、むらむらっとくだらない記事を二編書いてしまった。まだ、読み返してはいないけれど、アップするには、あまりにくだらない感じがする。こちらフランス、年越しというのはクリスマスで、大晦日は新年会。と、年の瀬感が漂っている。

今年も、またまた、突っ走ったなという感慨。

年間計画、ユーチューブ、ブログ、ショートショート、コンサート、来年のコンサートのプロモート等々、

一応、すべてクリアーした。やれやれ感にひたひた状態である。

とはいえ、ひとつだけ大きな計画は、相変わらず進んでいない。

ずっと前に一度書いたのだけれど、私設ミニ文化センター。

三年前にリール市で画廊兼ライブハウスをやっていたので、これのパリないしイルドフランス版。

いやあー、パリおよびイルドフランスの不動産価格があまりにあまりでオロナミン難航。

ちと、実現が危うい。資金ゼロでやろうとしているのだからねえー。

でも、最近ちょっと、マインドダウンしてきている。なぜか？

篤志家の方々がご自宅を開放して、我々のような前衛ミュージシャンのコンサートを主催して下さる。

この現状を見ていたら、少し、マインドダウン。

ご自宅の開放、夕飯だの打ち上げの出費。宣伝の労力。ボランティア。膨大なミュージシャンからの催促。

私の仲間たちは皆真面目であるが、一般的にミュージシャン、ブロンズ製自己中。自分のコンサート開催には労を厭わないけれど、それが終わると、後はへめらも。全然、その返礼精神がない。ちと、これを目の当たりにしていると、嫌になってきた。私自身もコンサートの主催者をやっていたから、先方のご事情が手に取るように分かる。と、元泣く子も黙るセールスマンなのに、自分の売り込みは超苦手である。「いやあー、お時間のある時にご検討頂けましたら幸甚です」と、このような悠長な姿勢になってしまう。もう、なんとしてでもガツガツとこんな感じでお百度踏まないでコンサートなんてさせてくれない。なにせ、物凄い数のコンタクトが来るから名前さえ覚えて貰えない。

で、ふむ、そうかあー、自宅に音楽スタジオ作ればいいのかあーとなってきた。

まあ、防音室にヤマハの一番小さい中古グランドピアノかアップライトのU1でもいいよなあー、と、真師匠に選んでもらってドラムセットを入れて、電子ピアノはもう持っているし、あとはプ

口用の録音機材。不動産購入よりは、ずっとずっと低予算でいける。自分と仲間だけと限定しちゃう。うん、そうすっぺかな？ ちょっと、考える。

まあ、十分突っ走ったから、ちと、心の冬休みにしよおーっと。

2013.12.18 Wed

私のブログスタンス

おとつい、超くだらない記事を二編、赤ワインの勢いで書いて、読み返したら本当にくだらないけれど、自分でゲラゲラ笑った。

でも、なんかアップすることを幾分躊躇しているところが、自分でも不思議である。この躊躇感、私の短いブログ歴の中で初登場。

いや、翌日、読み返して表現が不適切、誤解を受けるのではという危惧の元に、記事を削除したことは何度かある。けれど、今回の躊躇感、少し違う気がしている。「私のブログの調性の再考」、たぶん、これが脳内フラッシュバックしているのだろう。

「私を個人的にご存じない方が、私のブログのサムネイルだのタイトルだの紹介文を読む」これが与える印象を、少し薄目で腕組みをして、ちょっと、空に顔を向けて考える。

フランス、パリ(正確にはパリから三十五キロ離れた小さな町)=海外在住。三十三年という月日が経っている。

私は駐在員ではないから、帰任ということもない。ほぼ、永住とか気化に近い。国籍だけが日本のままという感じである。

分からない。どのような印象なのか？ たまに日本へ帰国すると、「きゃー」とか「す・て・き」などと言われることもあるけれど、

単に住んでいるだけで、しかも、活躍しているとかではなく、しがないピアノ弾きであるから、「きゃー」要素はゼロ。

どうして「きゃー」なのかも良く分からない。

次にジャズとかピアノとかが出てくる。

ジャズっていうと「裕さん、インテリなんですね」などと言われる。「いやあー、難しくてジャズは」とか。

ピアノ。これは爆笑したいのだけれど、私の家に知人が来る。サロンのアップライトピアノを見る。

「裕さんって、金持ちなんですねえー」、これは何度か言われた。三年ローンで買ったのだ。女子アナと不幸女子という番組のことを、一度書いたけれど、女子アナ四名、ご自宅にピアノ、うち二名はグランドピアノ。

で、習い事はピアノ。不幸女子、そろばん。この構図上は、私は前者に該当するわけか？

金持ち？ 程遠い。清貧というやつなんだけど。年齢と共に反比例して収入が減っている、デフレ人生なのだ。

ジャズ？ これはアメリカ黒人の演歌である。インテリとか難しい？ うなあーことは断じてない。

むむっ、おパリご近郊の豪邸にお住まいのお金持ちのおジャズおピアニストのお自慢ブログ。ぎ

よわあ——ん。

やっ、やべえーって！ パリから三十五キロの田舎町の普通のシティーハウスに住む売れないフリージャズピアニストの愚ブログ。

なんだけど.....

ところで、なるべく本音は書かない。他人の批評、批判、中傷は書かない。中傷の名月、えっ？あと、社会事象には触れない。下世話にならない。などと、私なりのブログ作法がある。大、心のスイス人養成ギブスを嵌めたまま、毎日、更新しているのである。こうなると、選択肢があまりない。オブラート本音、自分の批評、批判、中傷、非社会的事象、高尚と哄笑と、このような数式が導き出される。でも、ちょっと、このギブスを外してもいいのではないのかあーとも思い始めている。もじもじ、うん、いきなり本音だ。どうも村の順位の圧迫感なのではないのかしら？ 馬鹿記事書き難いよおー。

たとえば、フジテレビの深夜番組で酒飲みながらピアノをちゃらちゃら弾いていたのに、いきなりNHKホールでスーツ着てピアノを弾いている。とか、エロ雑誌に馬鹿エッセイを書いていたのに、いきなり朝日新聞から執筆依頼とか、こお——んな感じいー。

もし、だ、ブログを始めたばかりの方が、ふむ、参考までに、ちと、この辺りを読んでみようとなり、私のブログを開く。

ええ——、朝ね、ヒポポタンDを飲んでえー、コーウンしてえー、いやあー、気分はへめらもだなんの、などという記事が出てくる。読まれた方、当然にして額縦線、ベズリー目。拙いよなあって！

ちょっと、かんがえっぺ。

そうかあー、ランキングバナー取っちゃって、タイトルも、もう少し普通にして、パリとかジャズとかも取っ払う。裕イサオというのも止めてハンドル名に変える。ポートレート写真も、タンポポの写真とかに変える。よしっ、

タイトル「デフレ人生」。ハンドル名「いこい」。紹介文「冴えない五十代が赤裸々に綴る清貧ライフ」。どう、これっ？

2013.12.19 Thu

勝ち組負け組

以前、一度、フリージャズの大先輩、坂田明師匠の名言を記事に書いた。

「勝負とは勝ち負けではない」、なんのこっちゃ！

で、俺は勝ち組なのか負け組なのか、二秒考えても結論が出ないというより、あっけらかんとした結論が年末福引の赤い玉のように、コロンと出た。はい、引き分け組だ。到底、勝ち組とは思えないけれど、負け？ これもピンとこない。だれにも勝ってはいないけれど負けてもいない。

でも、俺はラッキー組であると思う。勝ちではないよ。

超下世話なラッキーなんだけれど、たとえば、俺が某社の旅行部門に就職した1988年。バブルおよび日本人団体旅行のピークだった。猫の手も借りたいという状況だったから、面接=就職。こんなん今ではありえない。今、同じ会社に就職する倍率は約五十倍。面接、総務部長、総務課長、担当部長、担当課長、担当係長とか扇方に並んでの面接。ぞわあ——。

で、パリ中が日本人団体客で溢れかえっていたから、お給金の良かったこと！

初任給が今までの稼ぎの中で、一番高額という訳の分からない時代に遭遇した。

で、矢鱈滅多ら忙しかったけれど、あっという間に係長になって、入社五年ぐらいで課長になり、家のローンを組んだ。

で、当初の二年間は外回りで、チップだのが入ってきたから、やはり、初任給の方が高額だった。

で、1998年からフランスの不動産バブルが始まり、毎年、二十パーセントずつ値上がりし続けた。

俺がローン組んだのは94年だから、不動産の底値で購入している。現在、持ち家の価格は、三倍弱。

つまり、現在、自分の家を俺は到底購入できないのである。そこそこの価格の家に住む貧乏人という変な構図になった。

ほほほほおー、ふたりの子供は成人し、俺よりずっと立派だし、第一、俺は、たまあーに鼻風邪を引くぐらいで大病というものに縁がないし、まあ、年の割にはもてるし、こうやって愚ブログをうっししししいーと書いているしと、おりゃ、勝ち組通り越してよおー、優勝してんじゃねえーの？ まあ、参加者一名で優勝っ！ まっ、社会的には引き分け組だね。

「裕センセの今日のお言葉」

「俺のよおー、比較対象が自分でしょ、勝負になんねえー」、なんのこっちゃって！

作者解説。軽自動車の脇に、ホンダチビック、その脇にトヨタマークなんか、その脇にクラ

ウン、その脇にベンツ、その脇にポルシェ、その脇にフェラーリ、その脇にブガッティ、その脇にロールスロイス、その脇に俺の自転車、その脇に立って煙草を吸う俺。そして、この俺を尺度とするから、勝ってんだか負けてんだか分かんのだ。キャピート？

2013.12.19 Thu

簡素な生活

俺は、幼少期から物欲がなかった。

当然にして、金銭欲もない。

物を購入するために、お金が必要。大きな家、大きな車となるんだけど、若いオスの孔雀の羽だから、まあ、いい女をゲットするため、となる。

で、俺は、そのハウトゥーゲットをゲイジュツに賭けた。別口から入った。

ヘンリ・ミラーの晩年のでかい家。

あっ、これ、一回書いているなあー。老いの繰言。

で、なんにもない。単にでかい家。

でかいサロン、一人掛けの肱掛椅子とでかいテレビ。

これだけ。

これって、最高にお洒落なんだなあー、俺には。

でも、女性の感覚って違っていて、家を飾りたがる。

化粧なんだろうね。買い物好きだし。でも、この感触は良く分かる。

幸いにして、俺のカミサン、使わない物は、ばんばん捨てるというより、ご寄付しちゃうから、おっ、次は俺かっ？

と、比較的、家の中はすっきりしている。

「おおーい、お前、水洗流れねえーよおー、おかしいなあー、あれ、こっこの紐かよ、いつから？」

紐を引っ張る裕センセ。

どわあー、一緒に、コーウンと流れちゃったあー、裕センセ。

2013.12.22 Sun

リンクコング

朝、起きる。

まず、ヒーコソニンCFを飲む。カフェオレ。

それから、チンニコ吸収。ベンソンアンドヘッジス。

二階の風呂場に行き、歯を磨き顔を洗う。

それから、トイレに行きオナラミンBとコーウンする。

で、ウォッシュレットがないから、下半身チンフル。

その姿で、風呂場に行き、ウォッシュレットする。

この姿をカミサンと娘は点目で見ている。日本語で「セクシでない」と言われる。ふん。

それから、階下のサロンへ行き、ブラックヒーコニンCFを飲みながら、二本目のチンニコ吸収、および.....。

コンパソを見ながら、関東方面のクボタミン曝を飲む。

爆笑したり泣いたり腕組みして空を見上げたりする。

それから、関西方面のスロキソニンを飲む。

うんうんと、頷いている。この筆力っ！ お辞儀する。

それから、能登半島の漢方薬、デココを飲む。

ううーむと腕組みする。脳随筆に響く。

それから、北陸方面の新薬ちぢおもを飲む。

新薬デビュー同期だから、動悸が治まる。

があお—————、りゃあ—————、リンクコ
ングう—————！

体長16メートルう—————！

やっと書いた。

ああ——、すっきりしたっ！

2013.12.23 Mon

鬱病について

fc2ブログの機能を、まだ、良く把握していない。

でも、なんか、たまたま、訪問者リストという項目をクリックした。

ご訪問頂いている方々へ、ありがとうございます。いずれ、きちんと書きますね。

その中に、詳細は書かないけれど、鬱病治療の一貫としてブログを始めた方がいらっしやっ
た。記事を拝読。私の人生の半分ぐらいの年齢の方ではと、文体から推定している。

長期間、本当にありがたいのですが、私の愚ブログを読んで下さっている方々をご存知の通
り、私は、元自閉症、引き籠もり、鬱病。医学的な分類は、私は分からないので、鬱病と統
括してみる。そして、私のブログにお付き合いして下さっている方々は、えっ、微塵もないっ、
そんな感じとなるはずである。

そして、それは、私がそれを「自分で」乗り越えたからである。

医学的な見地から、鬱病になりやすい方は、真面目、几帳面、義理堅い、義務感が強い、
他人を気遣う方々に多い。ただ、そうではない方々が粗野なのか、そういう意味ではない。
それを消化するシステムがメンタルの中に内蔵されている。そして、その消化システムが、や
や、弱い方々に、当然にして起こる。もともと、粗野系には起こらない。

私なりのメソッドがある。

無理矢理、ちゃらけてみる。自分を追い詰めない。意図的にだらしなくしてみる。

不義理が気になるが、気にしないようにしてみる。

自分を初期化してみる。

これは、本当に難しい作業である。

その初期化を私の場合は、ピアノが助けてくれている。

私たちは一人ではない。一人ではないことが見えなくなる。それが鬱病。

それは、大変に辛い。自意識、自己顕示の固まりである自我には。

一旦、肩の力を抜いてみる。

とりわけ、私たちの東洋系の脳は、自然と対立しないようにできている。

草木と同じレベルに自分をおくことができる。これは、大変に素晴らしい機能なのである。

私は、私の庭の菩提樹より、けっして、立派ではない。

彼の方が長生きである。

だからこそ。

そういうことなのだと思う。

2013.12.23 Mon

ト長調ブログ

クリスマス、フランス語だとノエルが近付いているので、世界一暇なはずの裕センセも、人並みに忙しい。

クリスマスイブ、クリスマスにブログを書くのは、ちと、無粋だし、ちと、中毒も行き過ぎなので、やらない。

カミサンに真空飛び膝蹴りされるだろう。と言いながら、野暮用で忙しいのに、隙を見計らって、こうして書いている私。馬鹿だ。

なんか結構、ウンチク充満記事を書いたから、また、ちと、下世話方面へ行く。

はい、ブログ引越後のレポート。

閲覧数。これは、fc2の解析とグーグルの解析を一度すべて無効にして、再設定。

このふたつの数字がピタリ。とうとう、実数を把握した。6---13。

やはり、Bloggerの統計は、限りなく正しかった。うん、結局、閲覧数に変化はない。かめへん、のだ。

でも、不思議なことに、以前のブログには拍手機能がなかったけれど、今は、拍手ありで、そこに拍手がある。

お辞儀です。やはり、嬉しい。それと、村のインポイントがどわあ——と増えた。深々とお辞儀です。

うん、順位自体に興味はないのだけれど、やはり、エールを送って頂いているということであるから、やはり、嬉しい。

うん、読んでるぜえ——、パチパチパチ。

私はミュージシャンだからこの感じ、当然にして、嬉しい。ありがとうございます——、心から。

はい、皆さん、一年間、お疲れ様でした。

はい、それから自分に、一年間、ご苦労様でした。

メリークリスマスっ！ フランス語だと、ジョワイユノエルっ！

と、ここまで、今朝、二分二十八秒で書いた。ピアノ弾きだから、キーを打つスピードはマッハ1.2。

で、ほとんど推敲はしない。誤字脱字のチェックを十二秒ぐらいでやる。

あれ？ なんで追記してんのか？

ああ-----、こっちの方が長いのである。五分十七秒経過している。でも、思い出せない。
あっあっあっ、タイトルだった。はい、ト長調特許許可局。言ってみて頂戴ね。なんなんだっ、この追記っ！

2013.12.24 Tue

もじもじ

テンプレート弄りは、少し飽きてしまったのだけれど、さっき、文字が小さいので、少し大きくした。パソコン画面を150-175%にして、書いたり読んだりしているけれど、やっぱり、元の字が小さ過ぎる。あと、記事の入力画面の字も小さいけれど、これは、どうにもならんようである。

テンプレートの文字を小さくすれば、プレビューと同じ文字列、改行となることは分かっているのだけれど、試したら、あまりに字が小さい。そんなに酷い老眼ではないにしても、文庫本読むのは、それ自体がしんどい。で、入力画面の一行の文字数の方がテンプレートより多いから、変な所で自動改行される。不便だけれど、致し方ない。アップして記事をしょぼ目で読む気はしないのだ。この部分に関してはBloggerの方がベターだった。もじもじ。

クリスマスイブ、クリスマス。

飲んで食べてごろごろ。パソコンもブログもピアノもなし。

ちょっとだけ、脳が初期化した。

で、元々働き者体質の私には、これが意外と辛い。

やることがないので、近郊地図をじっと見たり、ぼろぼろになったノルマンディー地方の地図を裏からセロテープで修理したりと、なんだか、急に老け込んだのである。なんか、老いってこういうことなのかあーとか、じわあーん。

と、やはり、私は、一日中セカセカしていたいっ！

このやることがない状態が一番しんどいのだ、私には。

たぶん、監獄に入ったら壁中に小説を書くと思う。丸木戸佐渡。

追記

おっ、分かったあ！ カメラのマークのところ(fc2入力画面上部の)で改行すると、パシッと美しく決まるっ！ ほっほほほおー、無内容だからこそ、その文章の見てくれへのコダワリっ！ 無内容をカバーできる。はずだっ。

2013.12.26 Thu

過去は振り返らない

という方向もある。

マイルス・デビスなんて、そうだった。やっぱ、格好ええー。

過去記事の整理をなどと、気が急いている反面、りよわあーん、三百九十二編だよあーん！ しかも、テンプレートが変わっているから改行位置だの禁則文字のチェックから始めないといけない、つまり、全部、再読しないといけないのである。さすがにそこまで暇ではないのだ。どうしようかしらねえー。もっと、おじいちゃんになってからにすっぺかな？

とはいえ、こうして現在を生きるっ！ 毎日前進し発信する。まあ、こっちの方が浮き浮き度が高い。羽毛おー、もう、放置新聞にしちゃおうか、過去記事ねえー。めどうだな。過去の記憶だの思い出だのを大切にする。これも嫌いではないけれど、別に、昔の方が良かった感にはない。若い頃に戻りたいなんて、じえんじえんない。嫌だよ、せっかく丸くなったのに。

ところで、テンプレートのカスタマイズという洒落たことが多少できるようになったんだけど、スタイルシートをなんど見ても、本文と右のプロフィールだのの部分のサイズが、どこなのか分からない。初心者版のテンプレートには、ここからが本文とか説明があるんだけど、私が選んだやつ、ちょっと、中級向けのようで、分からんのだ。テンプレートの全幅の部分は分かるのだけれど、左右の配分をしているピクセルの数字がどこにもない。本文部分の文字サイズと字数をBloggerのやつと同じにすればいいはずなんだけれどねえー。

そうそう、クリスマスイブは暴風ハロー注意報。暴雨はそれほどではなかったけれど、すごい風。クリスマス日は、どんより曇りで、本日は超絶快晴。12月26日のこんな青空、珍しい。気持ちいいのなんのって、ブログなんて、書く気にとてもならない。あれ？ もう、上記文が過去になっているうー！

なんか変な推理小説だね、こういうの。

犯人のいない推理小説っていうのを考えてんだよなあー。

あと、ご記憶にあるかしらねえー、ネタミネーター。この2も書きたいのである。

粉田沙羅と粉田仁というのが出てくるわけね。

で、十六歳の仁君が、未来の人気ブロガーなのね。それを阻止するためにスカネットというライバル会社が美形のネタミネーターを未来から送り込んでくる。それに立ち向かう旧式ネタミ

ネーター裕センセ。そのまんまのストーリーだけれど、日本のお茶の間なのだよ、舞台が。
やっぱ、くだらんなあー。だれかに書いてもらうかな？

だめだっ、今日は飲み過ぎ食べ過ぎで脳禁治産者。
ピアノで、ちと、リハビリするべかな。

あっ、わざとらしく手が滑リアップしてしまったあ——っ！

2013.12.27 Fri

古い地図

今日は、ブログはさぼろうと思っていた。実は、毎日、そう思っているのに書いている。なんか禁煙だの禁酒に似ている気もする。こちらの予定はないけれど。

で、セロテープがなくなってしまったので、未完のまま放置されていたノルマンディー地方の地図の修復を、さきほど続けた。できた。新しいものを購入した方が早い気もするが、なんか、この地図修復、止められない。

家に諸々の地図があるのだけれど、パリ近郊とかノルマンディーとかは、私が免許を取った時に購入したはずだから、二十二年前のものである。地図上の訪ねた町だの村に、カミサンが緑のラインマーカで印を付けているから、迂闊に捨てられないのだ。

先日、久しぶりにノルマンディーの方に車で行ってきた。

私もカミサンも高速道路が嫌いだから、国道、県道、村道と地図を見ながらちんたら走る。通常の移動時間の三倍ぐらい掛かるけれど、これが止められない。

物凄くお天気の良い日で、とりわけ、夕方近くの青空、少し夕焼けが始まった頃の空の色は、なんか、もう、ハリウッド映画の特撮なのというぐらいに見事な色で、車を止めてじいーと見上げた。うひょー、ずげえー綺麗だよなあーなどとはしゃいだ。おっ、おっ、おっ、ちょっと遠回りだけれど、この修道院行ってみようぜえとなり、行った。物凄い空の色。人気のない修道院。修道院の先に廃墟になった大聖堂。四本の尖塔と外壁しか残っていない。横を流れる運河。もう、こういうイメージに私は弱いから、目頭が熱くなる。悠久の時間っ！ 永遠に近い。昔だったら、難解な長編詩を書いたのだろうけれど、今は、うっひょーなどと垂れ目になるだけ。にんげんってちっぽけだね、だからあーなんじゃいと情緒がないようなあるようなないようなあるような。

おっし、ついでにこっちの城も行っちゃえとなり、行った。もう、ここまで来たら村道、農道通

で行こうっ。で、地図を広げようとした。そのノルマンディー地方の地図は、ほとんどエジプトのパピルスとなっていたのである。ないしは、七夕の飾り物のような形状だった。

作者注

この記事を読めると、読者の方々は微かな記述の矛盾に気付かれるはずである。

なぜに、裕センセは記事の後半部分で「初めて」地図を広げようとしたのか？

ふっふっふうー、明智君、それまではねえー、道を元々知っていたし、道路標識を見ながら

フランス離婚物語

さっき、あれっ、フランスの離婚率っていくつだっけとグーグルしたら、おパリブログがごわあ

ーと出てきた。なんで、俺のは、じえんじえん読まれなわけ？ ぷんぷん。まあ、おパリしてねえーからということである。だって、単に住んどるだけやんかあー。それと、もじもじ、ヘンリ・ミラーの「北回帰線」がおパリ小説ではない。ちと、レベルはちゃあーけど、ちと、一緒だにや。

ちやうちやう、躁ではなくてえー。

すいません、ネーちゃん方のブログ読んでいたら、移ってしまったのである。

公式には三十パーセント。パリ周辺は五十パーセント。

でも、老夫婦の離婚率は低いはずだ。それから、結婚していないカップルが相当数いる。

最近、ホモセクシャルの結婚が認められた。

パリは、そもそも、人口の五十パーセントがシングル。

この諸々を解析はでけんだろう。

因みに、私の周りで、離婚していないのは私と数人しかいない。

九十パーセントぐらいは、離婚している。しかも、複数回。二回、三回。六回という方もいる。

五人の子供の父親が、皆、違うというケースも複数いる。

はい、この「結婚という制度」自体が崩壊しているのである。

男と女、男男、女女、結婚しない、結婚する、離婚する。独身主義。

制度ではなくて、それぞれが決めれば良いのである。

個々人の生活は、個々人で決める。以上なのである。

はい、なぜに、裕センセは離婚していないのか？

またまた出たっ！ 謎解きブログ。

この答えは超難解だよおー。まあ、愛妻家勤勉温和などという三トン近い美徳もあるが、私は独身主義者なのであるのである。

ちょっと、難し過ぎ？

2013.12.29 Sun

年末ブログ前編

えっ、なんで「前編なの？」。

さっき、後編を書いちゃったの。

でね、その前に、下書き「文学としてのブログ」「ひとつのあとがき」と二編ある。

まあ、来年になってからアップすっぺがなと考えていた。

でも、年末ブログが離婚物語ちゅーのもなあって、思って、「年末ブログ」を書いた。

世界一暇人のはずなのに、相変わらずジョンレノンの名曲のタイトルが「ヒマジン」と聞こえてしまう。というはずなのに、やはり、師走。なんだか、雑用で忙しい。

ということは、日本国の皆々様方は、当然に走り捲くっているはず、である。

年賀状も書かないし、取り立てて、年末だから何をするということは、昨年からない。

そりゃー、営業課長の年末とは、じえんじえん違って、穏やかなものである。

儀礼が一切ないのである。平和だねえー。なのに、結構、忙しい。

はい、現在、その雑用は置いといて、脳内の年末チューニングをしている。

動画、ブログ、ピアノ。で、ピアノの来年へのチューニングは、当然にしてマジである。

どういうコンセプト、テクニック、メンバー等々と弾きながら自主トレ。

まあ、お陰様で、来年はさらに忙しくなりそうである。

裕イサオエレクトリックトリオの結成話も出ているから、ワールドオーダーに対抗できるかも。

あっ、なんだったっけ？ あっ、その「ひとつのあとがき」という記事なんだけど、

実は、ブログ閉鎖のご案内だったのである。で、さすがに三十二分ぐらい考えて、

取り止めることにしたけれど、まっ、経緯は後編ね。

で、書いた後に、患者さん方のことを熱く思った。

イサ中の方々への責任は、どうなるのですかあー、裕先生と。

そりゃー、一桁の数とはいえ、そうはいかんぜって、主治医としては。

ああーあ、開業(ブログですよ)するんじゃなかったのかしらねえーあーあーあー

しかし、同級生1(五十代2をご参照)の決断は、凄過ぎると思うなあー、マジだよ。

あっ、そうそう、今、俺のエレクトリックバンドにパーカッションを探し始めているのだけれど、

「世界最高峰の一人たち」の動画、年末年始に見てみて。もちろん、ご興味ある方です。

とりわけ、若い連中見たら、おじさんパワーに仰け反るぜっ。長いけどね。

2013.12.30 Mon

年末ブログ後編

昨年の九月からブログを始めたのだけれど、第一ブログから五編、再読してみた。

改行の位置、禁則文字のチェックをしつつ。

ある意味、ブログのコンセプトがはっきりしていた。

ユーチューブ動画のPR。ミュージシャンの宣伝ブログ。十五ヶ月経った現在、なんか？

にスタンスがなりつつある。でも、初期の五編は、やはり、インターネットの大海を手漕ぎボートで漂っている。つまり、顔の見えない相手に探りを入れているという文体になっている。現在は、なんだか一端のブロガーですうーっーっー文体に変わっている。

ふむ、やはり、過去記事を整理したいし、どこかで区切りを付けたい気がしている。

砂上の楼閣、サクラダファミリアと化しつつある。積み上げて積み上げて愚の堆積。

来年早々、着手しよう。「筆トーク」「脳内シンコペーション」「ピアノは私だ」と三つのブログの堆積。原稿用換算枚数千枚以上。少し、書き過ぎである。元々は「筆トーク」で完結する予定でいたのだから、当初の思惑をとんでもなく超えてしまった。

過去記事の再編集、再掲載ということも考え始めた。

新規の記事を縮小。ないし、一時中止。考えたら、当初はブログサイトに参加していなかったから、一編目からお付き合い頂いている方はいらっしやらない。たぶん、書き手の私しか読んでいなかったはずなのだ。それと、少しずつ内容の重複が始まっている。老いの繰言になる前に、一度区切りたい。

まあ、「ピアノは私だ」という総タイトルは核心的なものなので、変更は難しい。

でも、「過去記事発掘調査隊」方面になるのかしらねえー。

当初の五編の中に、すでに無駄記事の気配もあるから、この辺はカットだな。

珠玉の名編発掘という感じいーっー。なかつたりして？

いや、たまあーっーに紛れている。この、たまあーっーにだから、発掘調査難航が予測される。と、自業自得で、内容と記事タイトルがじえんじえん呼応していないから、自分でも分からない。ぎょ。やはり、記事カテゴリ機能は必要だったなあーと思う。整理し難いよおー。

いやあー、今年は、私の思惑以上にピアノが進歩した。

これは大きな成果である。今までできなかったブロックコードが自在に使えるようになった。ちゃら弾き、無駄音が当然にして減った。重みが増した。

(と昨日書いたのだけれど、昨夜、寝しなにあなたへのお薦め動画が出てきて見た。

ハービー・ハンコック、ウェイン・シーター、スタンリー・クラーク、マイルスバンドにいたドラ

マー、彼らの上手いこと！ 同じ楽器であるハンコック先生。世界最高峰の一人である。

彼がヒマラヤだとすると、私の標高はカマルグ地方の湿地帯。このレベルの違いは途轍もない。ちょっとめげたけれど、僕は山より湿地帯の方が心が和むのです、という方々もいるのだと思い直した。でも、もう一度、再検証せんとねえー。雲泥の差っていうやつなのだ)。

それに比べると、ブログは、やや、閉塞感が出てきている。

でも、最近の記事は、やはり、書き慣れている感が漂っている。

上手くまとめていまあ——す、っ——感じ。それはそれでいいのだけれど、広がり感に欠ける。

とかなんとか考えてはいるのだけれど、

少数ながら素晴らしいブロガーさんとの出会い。素敵である。

インターネットの大海の中の笹船が擦れ違う。素敵である。

それと、この愚ブログにお付き合い頂いている、これまた、数少ない読者の方々。

謹んで御礼申し上げます。

ブロガーさんたち、読者様方、良いお年をお迎え下さいっ！

フランスより愛を込めてっ！ 心からっ！

チャオー、アビアントっ。

裕イサオ

12月30日2013年

2013.12.30 Mon

裕イサオ有限会社年頭ご挨拶

明けまして、おめでとうございます。

わたくし、裕イサオ有限会社、高橋と申すものでございます。

本年も、皆様にとりまして、良い御年になりますこと、社員一同、お祈り申し上げる次第でございます。年頭のご挨拶を斜長の裕イサオより、させて頂きたく。

「斜長っ、皆様、お待ちかねですがあー」

「あっ、だめだめ、僕、三日酔い。頭がずわあーん。おい、マミちゃん、ドリプランっ。おええー、午後の四時からよおー、翌朝の七時まで、ずっと飲んどったわけ。で、真夜中から、コンサートして、二時間ぐれえーな、それから盛り上がり、十五年振りのににマイケル・ジャクソン。腰は痛いは肩は痛いは三日酔いだしよおー、スピーチは勘弁してけれっ。とーほぐべんでいいかちらあー？」

「斜長っ、東北弁は、やはり、全世界に発信されて居りますから、やはり、ご遠慮頂きたく」

「おっ、おっっっっええー。スピーチ、すんのかあー？ わすは、もう、すんきには書かん。過去記事のせいをすんべえー。いっぺんだけだがやゃー、在庫はよおー」

申し訳ございませんっ。高橋でした。

追記

ブロガーさんたちの健筆健筆っ！ 読者様方読む読むっ！ ピアノ弾きは弾く弾くっ！
はい、裕イサオ有限会社と共に、明日の元気ッッッッッッッッッッッッッッッッ。
良い年につ、すんべえー。

マイケルの踊り真似でさえ、シビアなのに、なっなんと、
ワールドオーダーまでやっちゃったからカタストロフうー、馬鹿だ。

2014.01.03 Fri

あれれえー、タイトルだけのブログをアップしちゃったあー！

ごめんなさい。大体、もう、新記事は書かないと言っていたのに、おかしいじゃん。

421編の過去記事の整理、一年は掛かるだろうねえー。

なのに、これを書いてしまったら422編になっちゃって、永久に過去記事整理は進まなくなる。

一歩進んで二歩下がるじゃ、永久ブログになっちゃうねえー。

エッシャーの絵の水路みたいになっちゃう。または、修復と建設同時進行のサクラダファミリア。でも、誤ってタイトルだけアップ。拙いねえー、なんかを書こうとしていたことが、ばれちゃった。やはり、お詫びに、なんか書く。

ご愛読者、およびイサ中の皆様、お元気でいらはりますかのはられりです。

でね、おおーーほほほほおーー、できたのである。

とうとう。昨年末から、ピアノ超絶技巧「ドラゴンへの道2」を悶々と模索して居りました。なかなかでけんで、やや、焦って居りましたのです。

毎年、年間メニューを決めるのだけれど、項目だけでも、ブログ、動画、ショートショート、小説。うで、この私であるところのピアノ。

ブログ 過去記事整理

動画 これも、飽和状態なので再編集かしら？ 大変な作業なのですよ、これ

ショートショートは、月一執筆 これはokだぜっ

小説 十作目を昨年書いたから、もうやめ またまた断筆 でも、なんとか書籍化したいのであるのである

で、ここまでは脳内見取り図ができていた。けど、ピアノの自主トレメニューだけ保留。

おおーーほほほほおーー、できたでけた。

数学およびパソコン操作の教則本みたいな図が。

はい、バイエル齧った皆さんご存知のルート、サブドミナント、ドミナントという音の配列。

ハ長調だと、ドファソドです。このコード進行を、諸々の代理コード、諸々のパッシングコード、

諸々のブルーノートを使い解体再構成。ドファソドの動きを解析再構成すると、五十ぐらいの複雑なコード進行表が出来るのですが、更に、これにマイナーとドリアン音階を代理コードとして付加するから、百通りぐらいの進行表になるわけね。

うで、すべての音階の、その表が出来たのである。

ぎよわあ——ん、脳で理解はしているけれど·····。

これを体にインプットせんといかんのだよ、明智君。

推定するに三十年ぐらい掛かるはずなのである。

裕センセのほとんど老後に関わる超大作自家製教則本なのだよおー。ルンルン。

はい、じゃ、また、過去記事方面へ。

えっ？ あっしですか？ いや、名を名乗るほどのものじゃーござんせん。

通りすがりのブロガーでごぜいやす。

過去記事飽きた？ 駄目駄目、贅沢言っちゃ！

2014.01.14 Tue

皆さん、お元気でいらっしゃいますか？

久しぶりに記事を書いています。どういう心境の変化？

ところで、昨年から今年に掛けて、こちらフランスは五十年ぶりぐらいらしい暖冬。年間で一番寒いはずの一月も、日中の気温が十度以上の日が続いたし、おまけに、快晴の日、もうほとんど春に近い日々が続きました。そのせいか、あまり気持ちが沈まずに済んだ。同じ税金払っているのに、南仏ばかりお天気がいつもいいので、なるおーと思っただけけれど、今年は、ほぼ均等になった気がする。

「過去記事の整理」

遅々として進まない。422編。少し辟易してきた。

あっ、おもしろいなあーという記事もあれば、くっくだらねえーというのも多い。

そもそもブログ記事の整理、意味があるのか分からなくなってきた。

小説と比べるとデイリーのスナップショット、かなり私的なのという感じで、なんか、別に書きっぱなしでもいいのではないのおーとも思えてきた。書籍化も考えてはいるのだけれど、そこまでの内容があるようにも思えなくなった。そうだなあー、なんか「練習している」感じ。

「練習」をCD化したりはしないから、脳内に大きな？

そう、ここ数日のアクセス数が、6611455とカウンターに出てくる。

アップしている本人が辟易しているから、読まされる方の辟易度は更にとなる。当然である。

「ブログを止めてしまう」

いっそのこと、止めてしまおうとも少し思っている。

小説は、やはり、スナップショットではなく、写真館で撮る晴れ姿という感じで、書き捨てとは違い、作品として完結させようとする。当然にして、内容も吟味する。「練習」ではなく「本番」という感じ。でも、ブログが「練習」であるならば、「公開練習」ということになる。いやあー、なんか矛盾しているようで、そこがいい感じでもある。

でも、ピアノの練習風景を公開したりはしない。なんでかしらねえー。

最近、この「公開練習」より文章の本番が恋しくなってきた。今年は、小説の執筆予定は年間プログラムにはなかったのだけれど、ブログ記事のシニアマンを読み返していたら、むむっ、もっと格調高い文体内容にて、笑いとペーソスに包まれたオジサンのほろっとする読物化ができるなあーとインスパイアされてしまった。馬鹿話ではなく、この老いをユーモラスに活写できる、と思い始めて、執筆を開始した。ブログ記事とは別物に当然にしてなる。どうして小説にすると別物になるのか、そこら辺りが大層興味深い。そうなるとブログ閉鎖に拍車がかかるのだけれど、そうしてしまうと、たぶん、ブログ自体をまったく読まなくなる気がする。これは、なんか本当に寂しい。

私のパソコンノート(パソコンの勉強ノートです)を開いて見たら、ブログ村に参加したのが、こちら時間で十月十日2012年となっていた。ということは、昨日、アップした記事辺りから、長期に渡りお付き合い頂いている方々が、少数ながらいらっしゃることになる。いやあー、この方々とお別れは寂し過ぎる。そうすると、もう、過去記事の整理は放置し、珠玉の名編発掘および、たまあーに新記事とこんな感じかしらねえー。

「ピアノ」

長い間、未完のまま放置されていた「ピアノ自作教則本」。60%ぐらいでストップしていた。これが昨年末に完成。習得に、最低三年ぐらいと見込んでいた。ところが、いざ始めてみたら、ここ一年半の大幅な進歩のせいなのか、それほど難しく感じなくなっている。二年前ぐらいには開いただけで、卒倒しそうになるぐらい複雑だったのに、あれっ、できちゃったよ、となっている。自分で少し驚いている。そういえば、私のジャズの両師匠に「おまえ、ピアノで十分食っていけるよ」と、今年の秋ぐらいに言われたことを思い出した。

この音で思考していると、明るいアホになってくる。

あっ、空脳だあーと言ってブログを書いて、少し、脳に言葉を注入する。

それから段々、言葉が充満してきて言葉の本番、ステージが恋しくなる。小説を書く。

脳が言葉に侵食され、段々と、私の中枢に迫ってくる。重いサブジェクトが山積してくる。

鬱になる。どんどん鬱になると、なるおーと笑いが込み上げてきて、原稿を放り投げる。

ピアノに走って行く。ばあーろおー、俺はピアニストじゃ、ふんっ！ うまくできている。

あっ、どうしよう、この記事だけ、わあーとアクセス増えて拍手喝采。

また、方向転換しないといけなくなっちゃうな。そうそう、一回、どうして私のブログは読まれな

いのかという記事を書いたら、この記事だけアクセス59だって！ こっちがびっくりした。

2014.02.07 Fri

へいっ、らっしゃいっ！

おっ、新記事、ひとつ。

へいっ、毎度っ！

新記事は書かないとあれほどもったいぶって言っていたのに、一回、書いたら止まらなくなった。ジャズメンはこれだから節操ポリシーがないと言われるのである。でも、この気楽な感じで書いちゃってもいいんでねえーというこのブログリングフィールドは、ちょっと、粋でもある。

最初、KYと聞いた時、本当になんのことか分からなかった。皆に、えっ、知らないの？と嘲笑された。しかし、この単語はいかさないし、そもそも、こんな日本語作る言う方がKYだ。

私は元泣く子も黙る営業マンおよびジャズメン。KYのはずはないと信じている。

ちょっと、世間から浮いている。調性が微妙に世間様と違っている。

ベルリンフィルオーケストラに、ひとりだけ三味線を持って座っている。

こういうのは感じる。だから、多大なる聴衆、読者様、こういう事態にはぜったいにならない。むしろ、KM(空気を乱す)。

あらあー、また、書いちゃったあー。

ブログタイトルも紹介文も微妙に違う。どうして2なの？ ふふふふふうー。

名前は、なんだかうっとうしいからブログタイトルだけにしたら、すっきりした。

2014.02.08 Sat

横式ボケ防止器

昨日、もぉー、過去記事整理は止めえーと決心したら、急に機嫌が良くなった。やはり、毎日、ご愛読させて頂いているお気に入りブロガーさんの記事を読み、むむっと、インスパイア。

こういうデイリーのコレスポンダンスがブログの醍醐味なのかしら？と見直した。で、ちょっと、さすがに二十二分ぐらい考えた。

この書き物、「記事」と自分で呼んでいる。つまり、私的私家版新聞っていうことになる。この「過去の新聞記事」を、訂正加筆再編集なんてしない。そりゃー、三十年前の新聞記事は、なんていう感じで、再読することはあるだろうけれど、こういうことは普通はしない。と、それでは、デイリーニュースでいいんでねえーという結論が、私の理科系脳内にて導かれたのである。ジャズメンのわりには、結構、論理的に理解納得をしないと、ヤダヤダ体質なのである。というわけで、ブログタイトルから、私の名前を削除した。売名行為は、もう、十分に役目を果たしたし、なんだか、うっとうしい。腰帯紹介文も、とんでもなくシンプルなんだけれど、なんか、ぱっと、こんな風にしか出てこないから、この、ぱっと感は大切にしたいし、やはり、現在の私のルンルン感が集約されている。

あっ、全然、関係ないけど、ツイッター、フェイスブックとの連携ってなんなのですか？

「これ」をやると、読者様が20ぐらいになるの？ご存知の方、ご教示お願い致します。でも、45を超えるような「事態」を招くのはヤダなのだ。顔が見えなくなる。恐ろしい。

「前置き、なげえー」三村さんの声音。

我々、ジャズメンのピアノの正式名称は、「横式白黒鍵盤指関節増幅器」。

昨晚、「志村笑」をユーチューブった。志村さんと優香さんが、「ボケ防止指運動」を披露していた。

両手の指を合わせて、各指ごとにくるくる回す。小指なら小指どうしでくるくる。

親指に輪ゴム。片手で小指まで。また、戻る。片方、テーブルどンドン、片方はすりすり。

両手で番号を数えるが、一指ずつずらす、両手でじゃんけん等々。

相当、マジな顔で私は見ていたはずである。この「すべての動きはピアニストの日常」の動き、なのである。

ということは、わたくしは絶対にボケないという医学的な根拠であるという結論が、私のやや萎んだ理科系脳内にて導き出された。

ところで、ブログ、「公開練習」、この解釈に、ニンマリ。これで、辻褄がばっちり。

ところで、たけしさんの、ついでに「ooこダイエット」も見ってしまった。

和式トイレの形をしたお皿。麦わら帽子を被った肥たご担ぎのおじさん。ダイエットレストラン「お通じ」のマスター、便田さん、
和式トイレの真ん中のお米。その上に、肥たごから、どろっとしたカレー。食欲ゼロ。

この世界に誇る「映画監督、北野たけし」とフランスで敬愛されている人物が、まだ、こんなことをしている。

素晴らしいを乗り越えて、ハンカチで目頭を押さえた。嬉し泣き、ね。

あっ、オチを忘れていた。はい、

「横式白黒鍵盤指関節増幅ボケ防止器」となった。がぁーはっはっはっ。

2014.02.09 Sun

どうして2なの？

過去記事の整理をすると、なんか、またまた、ブログ感が変わるのではと思い、今年の頭から三日ぐらいまで、結構真面目にやってみた。そして、いきなり飽きてしまった。やはり、私にとってのピアノとは、そもそも違うのであるなあって理解しただけである。

ピアノは止めるとか飽きる。そのような地平ではない。その時は、イコール、私の消滅となってしまうから、やはり、このブログの総タイトルは正しい。下世話な見方をすれば、ピアノはお金が絡んでいる。だからそうなのか？ いや、結果としてそのようになってしまっただけであるから、そのそもそもの目的ではない。絡んでいなくても、同じ。

このブログの総タイトルの変更は、やはり、難しい。核心的なタイトルと申せよう。

ところで、なぜに、その前に自分の名前を冠していたのか？ 実は、これは自分でも良く分からない。たぶん、テレビ番組のタイトルの影響なのだったと推測する。

たけしの・・・とか、もやもやサマアーズとか、かねたかかおる・・・とか。

じーっと、点目で自分のブログのテンプレートを見ていたら、あれ、いらん、うなもんとなった。そして、横の紹介文、これもなんかあー違うなあってなった。

そしたら、チャップリンの映画の紹介文みたいになってしまった。これは自分でも分からない。

「愛」私は、この日本語は外国語の翻訳日本語だと思っているので、まったく使用しないし、書き物にも使わない。のに、今回、使っちゃった。私の記事の中に、「これ」があるのか、大変に疑問。自己愛？ それもそうでもない。もっと壮大な概念としての「それ」？ それもない。看板に偽りありだ。そもそも、皆さんご存知の通り、我が国本来の「その」告白は「月が綺麗だ」と男子が夜空を見上げながら、隣の女子にぼそっ。最近の女子に実際に言って試してみたい気も、ちょっと、する。

「笑い」この紹介文の雰囲気だとユーモアとペーソスみたいな感じに聞こえるが、私の「それ」は、「お笑い」とか「馬鹿小話」。これも看板に偽りあり。

「フランス物語」近所の中華食材店にブルドックソースと出前一丁を買いに行く。出前一丁に生ミソ、玉ネギ、バター、コーン、とんがらしを入れるとバタコンラーメンになる。どこがフランスなのだった！ これも看板に偽りあり。

私のブログ「筆トーク」、これは気合が入っていた。スタンスとポリシーが明快だった。

「脳内シンコペーション」、ある意味、ブログらしかった。

「ピアノは私だ」、スタンスとポリシーがなんだか書いている本人も分からない。

映画「ターミネーター」。この最初のやつのインパクトは素晴らしかった。どの映画もそうだけれど、その2。原本の成功に便乗が多いから、やはり、作品としての密度は薄い。おっ、ということは、流れとすると「その1」の絶大なる成功を元に、ほな、2を作りまひよと本来的にはなる。

そうすると、「ピアノは私だ2」。なんなのだろう？ なんら興行的社会的所謂成功に程遠い原本の2。当然にして、内容は更に薄まるであろうことは予測できる。おっ、2番煎じの2だっ！記事内容も過去記事とダブリ捲くりのダブリン愚、ご容赦のほど・・・。

2014.02.10 Mon

縦長の家

私の家は丘の上に建っているのですが、地上に当たる庭に面した階から数えると、全部で四階になる。玄関、通り側からすると地上階は半地下。物置および大工室。住居部分は三階建て。豪邸なのではなく、単に縦長のシティーハウス。

たとえば、プラスのネジ回し。

三階の工具箱か半地下の大工室の引き出しのいずれかにある。

これは確実。で、記憶を振り絞る。前回、確か半地下で使ったような使わなかったような使ったような気がする。移動距離の短い、一階から半地下に賭ける。大工室の引き出しを開ける。ない。半地下から三階まで行かなければならないし、三階から一階のサロンに戻ってこなければならぬ。家全体のど真ん中の螺旋階段をへこへこと上ったり下りたり・・・。

1900年築の古い家だから天井が高い。つまり、一階の高さが新しい家より高い。

三階に到着する。三階のホールの書棚に、「あれっ、おおー、この本、ここにあったあー、うっしっしい」と手に取る。ちらちらページを捲る。「おおー、再読再読っ!」。ルンルンして一階のサロンに下りてくる。「あっ、ネジ回し」となる。

カミサン「眼鏡眼鏡眼鏡」

私「三階の息子の部屋で見たよ」

カミサン たったったったった

下りてくる。

息子の部屋の枕カバーとかを持っている。

「あっ、眼鏡っ」

そうそう、段々ね、上ったのはいいけれど、なにを取りにきたのか覚えてない時が増えてきている。毎日、相当、尋常ではないくらいに「指先を刺激している」のに・・・。

忘れたことを、まだ、覚えているうちに、そろそろ、平屋かしらあー？

2014.02.11 Tue

新聞記事は鮮度が大切。当然である。昨年の野球の試合の結果なんぞ、読まん。

それと、サッカーの試合をビデオで後から見る。これも、ジネジン・ジダンのハイライト集は見るけど、三日前の試合のビデオなんか見ない。結果を知っている試合なんて見ない。

と、ブログも少し似ている。

もう、過去の私は古いのである。

本体が古くなった分、過去の若かった方の私が古くなる。あれっ？

でもさあー、そうじゃないと生きていけん。と、そういう摂理をいきなり理解。

ふふふふう————、と、いうことは、若い人の方が古いという結論。

屁理屈、こじ付け？ なんとなく辻褄が合っている気もするから不思議である。

ユッピー——！

2014.02.12 Wed

12日間のピアノ旅

皆さん、ゴムバンド(今晚は)。

本日より、12日間のピアノ旅を開始。行ってきまあーすっ！ ピアノの前に。
ピアノを歯で齧った方は、ご存知の通り一オクターブの音の数は全部で12。

長調と短調となるので、音階とすると24。

そして私が自分で作った自主トレメニュー、おかず(アドリブ)を入れるとかパッシングコード(半音ずれたおかず音)とかを除いて、基本形としたコード(和音)分解が、長調短調合わせて、約50。

12音x50和音=600

600通りのブロックコード(一度に5---7鍵盤を押さえる。もちろん、両手を使って)を、マッハ3で弾く訓練に突入。

「あんたあー、プロなんだから、当然だし、今まで出来なかったわけえー？」
こういうシビアなご意見の方々も世間には多い。特にフリージャズファンのヤジは、恐ろしいどおー。まっ、野球観戦とおなじかしらね。

プロとはいえ、やはり、出来ないことは、そりゃー出来ない。
ストラビンスキーの「春の祭典」は、一生弾けない、私のレベルでは。

と、さっき、ハ調を、まず、成敗した。残りの敵は、11x50。

おっかしんだよねえー、本当の予定は、3年ぐれえーだったのに、進歩し過ぎてしまったっ！
老後をどうしてくれるのって！ いいよ、ブログと小説書くから・・・。

追伸

おっほほほおー、ここ一年半ですでに420通りはマスターして居るわけ。
180通りが昨年末に完成したわけなわけね。これを習得すると、2.7流から、たぶん、2.1流ぐれえーになるはず。5.0ぐれえーからスタートしてっから、一生もんだね、こりゃー。良かったよ下手で。

2014.02.13 Thu

閲覧のアクセス

「ツイッター」「フェイスブック」、なんなのか調べて見た。じーと点目で読んでいた。却下である。まったく、興味の対象外。「グーグル+」、元々、「ブロガー」でブログを書いていたから自動登録はされているらしいけれど、チャット、ハンギング、サークル、お友だち、フォロー。間もなく五十五歳のオジサンが、「今、僕、チャットしてるのサークルのお友だちと」。無理がある。

山下洋輔さんのエッセイの中に、軽井沢の喫茶店の件が出てくる。山下洋輔トリオ、オジサン三人、入る。メニューを見る。店主の趣味らしく、たとえば、クリームパフェは「草原の木漏れ日」、たとえば、「若草の香り」、たとえば、「小鹿の花園」。これを、オジサン三人が注文する。「すいまっせえーん、小鹿の花園ふたつと、草原の木漏れ日ひとつ」「はい、畏まりました、繰り返します、小鹿の花園、おふたつ。草原の木漏れ日、おひとつ。以上でよろしいでしょうか?」「あっ、僕、小鹿の花園じゃなくてえー、若草の香りにしてくれるうー」「はい、繰り返します・・・」。無理がある。

それから「ブログのアクセス数の伸ばし方」っていうのをググググしてみた。

どなたのブログか忘れちゃったあー、結論。

アクセスが一桁 47% 諸、私のブログが該当
五十以内も入れると90%ぐらいのブログが該当

ロボット検索だの諸々の工作を除いた実数がそうであるらしい。

「しかし、閲覧数が伸びないことは、ブログが続かない最大の原因となる」で、その記事は締められていた。

うーーむ、それから諸々のノウハウ。

たとえば、頻繁にコメントする、いや、しまくる。リンクしまくる、相互でやり取りする、タイトルは簡潔にする、文章は分かり易く簡潔にする、ややこしい内容は避ける、写真を入れる、等々等々・・・。

私のブログは、その真逆を行っていることが判明したのであるが、真逆なのに、上記の47%に入っている。あっ、だれでも入るけど・・・。おおー、そうであるならば、望むところっ！しかも、たまに二桁だよ、十分である。そういうことであるならば。

大体、ブログの総タイトルが真逆だよって！ 「ピアノは私だ2」だよ。「ヤノピはタワシだ2」より、ほんの少しマシなだけ。この記事のタイトル「閲覧のアクセス」だよ。

これでいいのだ。

どうでもいい追記

fc2の予約投稿。暇を見て愚記事を三編ぐらいチャカチャカと書いておく。

その後、このシステムを使うと、毎日、フランス時間の17h00に記事がアップ。

私のような夜勤組(朝、九時のコンサートなんて、ないどって)には、非常に便利である。

でも、昨日、17hとしたつもりが00hと設定。なんかとんでもない時間にアップされていた。

なにか問題なの？ 愚記事のアップの時間なぞ、なんの問題もねえーだ。

まあ、ちょっと、リズム感の問題かしら。

あっ、そうそう、先記のブログ記事の中に「やはり、一番、大切なことは頻繁に記事を更新することである」。おっとおー、この一点だけ、私はクリアーしている。

2014.02.14 Fri

エッセイというカテゴリー

十六ヶ月前にブログ村に参加した。どのカテゴリーにしようか？ ジャズかエッセイだな、と、この二つしか考えなかった。私はジャズメンだけれど、ジャズの名盤紹介、ないし、ジャズピアノの技術的なノウハウ、これは、たぶん、書かないだろうと推測していたから、結局、エッセイ部門となった。

当初のイメージでは、ブログ=エッセイ、随筆という感じだったから、参加人数、および、閲覧数とか最も多いのであろうと思っていた。実際は、まったく違っていた。今でも、どうしてなのか、良く分からない。私は、エッセイ部門以外、まったく読まない、あまり良いブログ読者ではないし、その部門でさえ、ほとんど検索したりしないから、読者とするのが最悪。でも、なんかの拍子にサムネイルが目に残ったり、記事のタイトルが目に残ったり……。私は大変に偏屈なので、その留まり方が、偏屈。でも、偏屈な分、嵌り方は真面目である。目に残る、全記事を読んでしまったりする。そして、垂れ目になり、お辞儀をする。すっ、凄いいーと。偏屈なりに謙虚でもある。そうして、私が、お辞儀をしたブロガーさんたちは、しつこいぐらい応援する。応援狂と化す。応援鏡、ないしは、マイケル・オーエンと呼んで頂いて、なんらの異存はないのである。

他の部門の記事を全然読まないくせに、エッセイ部門は文豪の巣窟であると、勝手に決めて、にんまりしている。

くなとんなの せんめのからうえ の裏自慢のような じもじも のへめれけ、である。

エッセイ部門、私は、愛おしい。やっと、「愛」という単語が出た。そして、ダブリン愚する。映画、デッド・オア・アライブの台詞の中に、
「それじゃ一駄目だ、お前のパンチには、愛がねえー、愛がっ」。

よっしゃー、腰帯のひとつはクリアーしたぜってっ！

「パンチ」は「ブログ」の暗喩隠喩、どっちでもいいけど、そういうことね。

編集部注

裕先生の日本語は、しばしば、意味不明。編集部の読解スペシャリスト、パピルス・表意が翻訳を試みる。

くなとんな(クレオパトラないしナントナク)

せんめのからうえ(やや、しけたせんべい、ないし、上から目線)

裏自慢 遠回しな謙虚ぶりっ子的陰湿この上ない、もっとも性質の悪い自慢話

じもじもじもじ 分からん

へめれけ 分からん

2014.02.15 Sat

定型と不定型

再度、新しい記事を書き始めたら、次から次へとアホネタが浮かんでくる。でも、あまり、アホ記事ばかり書いていると、本物のアホになりそうというか、もう、なっているというか、まだ、間に合うというのか……。少し、不安も過るような全然、過らないような……。そういえば、昔、どこかの国の研究者の一派にグノー派っていませんでしたっけ？ うん、私はオジギャグの愚脳派ではある。

それで、急に、定型詩という言葉が浮かんできて、俳句とか短歌は、こちらであるけれど、現代詩は不定型の方である。これって、ちょっと、我々の人生にも少し当て嵌まる気もするというより、当て嵌まるわけだ。それで、フリージャズは、もう、不定型を乗り越えて、無定型である。一歩間違えるとキチガイとの見分けが付かない。

もう、インスピレーションのみで人前に立っているという、ヤバイ人たち。

たとえば、歌謡曲は定型だから、毎晩、テレビで同じ歌。まあ、飽きるだろうけれど、彼らは定型詩のプロだから、そんな表情はしない。でも、我々の方は、飽きている表情を見せないなんていう、そういうプロ気質とは真逆だから、そういう演奏は、もう、とんでもなく酷い。何回か三日連続のコンサートをやったんだけど、三日目、目が寄り目になっていたし、毎晩、打ち上げで馬鹿騒ぎするから、寄り目プラス三日酔い。へろへろだった。フリージャズなんてやるんじゃないかあー、などと、ちょっと思ったりもしたけれど、じゃ、君たち、定型化してごらん、う、とか言われると、すぐ、ダダを捏ねる。あーあ、困った人たちだねえー、我々。

一体全体、なにに支えられて、こういう生活をしているのかしら？

教 え な い よ。

2014.02.16 Sun

不自由な自由人

「自由」という言葉。さすがに、この年だと照れるけれど・・・。
そういうものはないという意見もある。ふむ、社会的なベクトルだとなんか気もする。
でも、自分の脳味噌機能は、これは、だれも触れない。自分以外は。
ということは、脳内に「それ」を構築することはできる。という計算は成り立つ。
脳内だから、ある意味、本当に超極私超個人であるから、やはり、それほど、難しい作業ではないと思われる。パソコン操作よりは、「そうさあ、簡単だぜっ」となる。

でも、社会というものが覆い被さってくるから、脳内が掻き乱される。うざいっ。
リーブミーアローンと叫んでも、この社会様は許してくれない。で、じゃ、一応、最小限度は、
この方とお付き合い致しましょうとなる。

「えっ、裕さんって、OOO社の営業統括って、マジすか？」

「れれれっ、だれに聞いたの？」

「あっ、OOOに」

「うん」

「本当すかあー、痺れるうーー、マジすか？」

「うん」

「昼間、営業統括して、こんな音、出せんすか？」

「うん」

「すっ、すげえー、マジすか」

という会話を幾度となくした。

でも、キチガイみたいな音を出すためには、非常にまともな暮らしの礎がないと、私はできない。
本当に、キチガイになってしまうし、元々の鬱病が再発する。まともな礎、会社対フリー
ジャズ。一見、後者がキチガイに見える。でも、四半世紀もやっていると、前者の方が、大変に
危ない。企業論理という掟がまともとは限らない。そりゃー、いくらなんでも、人殺しの指示は
ないにしても、理不尽、私にとっての理不尽という摩擦が起きる。若い時分には、あまりなかつ
たけれど、履歴を積み上げていくと、それが酷くなる。上からの指示には、もちろん、服従が条
件の元に雇われている。へこへこはしないけれど、服従できる範囲はある。その時代、その時、
人殺しさえ合法化される。私は、こういうのが大嫌いだし、服従はしない。理不尽な指示は、服
従できない。であれば・・・。服従する。自分の人格を自ら消す。それができないのであるな
らば、去るしかない。と、このような葛藤の中で出てくる音だから、それは、確かに重いはずで
ある。

会社イコール理不尽

私は、去った

そして、今度は貧という不自由がくる

「不自由と引き換えに、自由を手に入れる」

社会というメカニズムは、うまくできているし、半端ではない。

もし、太刀打ちするのであれば、その礎、後ろ立ては、自分しかない。

2014.02.17 Mon

自己中主義

「自己中」、現代日本語のひとつなのだろう。「上から目線」なんかと一緒に、比較的、私は馴染み易い。少し前に書いた「KY」なんていうのは、音としていかさない。「自己中」、ピカチュウみたいな音感だから悪くはない。「スマホ」なんかも、ちょっと可愛らしい。「マイホームパパ」、こういうのはいかさない。「マイカー」「マイホーム」……。ちょっと、こそばゆい。

ところで、周知の通りで、私の住むフランスという国は、個人主義の国と言われる。個人主義の中に、日本語の自己中という単語のニュアンス、これは含まれている。では、同じことなのかというと前者が後者の意味合いを内包はしているけれど、逆は成り立たない。

ややこしい言い方で恐縮です。一言で言ってしまうと、個人の方は「主義」であるから、立ち位置が違う。日常会話レベルのものではなくて、主義主張だから、ニュアンス、雰囲気、ムード、そういうものではない。とはいえ、個人主義の中に、上記の通り自己中も含まれるから、この国は、国民、これ、すべて自己中。自己中の集団。

自分が世界の地軸に居れば、回るのは世界、他人の方。その逆は、自分がくるくる回らせられる。うん、そうであるなら、地軸に居た方が楽だ。

私は、個人主義を吸収血肉化したという感じでは、今以てない、せいぜい、自己中主義ぐらい。これも怪しいなあー、草木を見て、刹那を感じたりするからねえー。確かに、フランスに住んでいると、心の内的ラグビー選手権を日ごとやっているような気になる。第一、フランスも含めて、西洋世界では、人間が世界の頂点。これ自体に、すでに違和感。

個人と個人がスクラム組んで、試合している感じもする。

だから皆、イライラしてんだろうな。

自己中ぐらいが丁度いいのかしら？

具体例

横断歩道。渡ろうと人が待っている。行き過ぎる車、だれも、止まらない。皆、急いでいるし、ギアチェンジがめんどくさい。だから止まらない。イラついた歩行者が強引に歩道に飛び出す。急ブレーキ、歩行者、身振り「ここは横断歩道、歩行者優先だぞっ」とやる。ドライバー、身振り「いきなり飛び出すなっ、馬鹿野郎」。歩行者、ドライバー、共にイライラ。そのイラついていた歩行者。自分の車に乗る。横断歩道。人が渡ろうとして待っている。その人は、やはり、先のドライバーと同じく、止まらないのである。他人に厳しい国なのである。私のボ

口車はオートマ。一旦停止なんかなんの問題もない。必ず止まる。笑顔で「メルシー」と言われる、ウインクされる、親指を立てて「いい感じー」というサインを送られる。こっちの方が、いいと思うんだけどね。

2014.02.18 Tue

拡大鏡

日曜日は、いつも、カミサンと散歩、軽いハイキング、ドライブとこういった午後を過ごす。
先日、ドライブの帰りに洗濯機を見に行った。大体の値段とかサイズの検分だけで、その日は購入の予定はない。といつつ、カミサン、拡大鏡を購入。どうして、電化製品なの？
と思ったけれど、鏡の周り、その縁の部分がランプになっている。なァーるほど。

夕方、階上のカミサンが私を呼ぶ声。「見て見てっ！」「えっ、なになに？」

「すっ、凄いいー」。

私は、大きなバツタでもいるのかと思ひ螺旋階段を上る。娘の部屋のテーブルの上に拡大鏡。

「これこれ」「うん、いいんじゃない」「違う違う、覗き込んで見て」。私、覗き込む。

「わ

っちゃあ-----

」

カミサンが見て見てと言っていたのは、拡大鏡ではなく、超細部まで拡大された私の顔であった。
。

崩れ行く ナルシスよ さようなら

煌々と ランプ灯る 拡大鏡 弛みの極み 好々爺

若かりし頃思い 我ピアノと 泣き濡れる 去らば 好々(爺)三年生い----- (字余り)

裕一茶夫

2014.02.19 Wed

雨と無知

もちろん、漢字駄洒落である。

「飴と鞭」より、ほんの少しだけ、アクセントが違う。

自分に自分でこれを行う。大変大変大変である。つまり、難儀である。

私たちは、当然にして、「他人に厳しい」という自衛システムの固まり。

でも、それじゃー、広がらないし、第一、つまんない。

文学、美術、音楽と、私はお遍路さんをしてきた。

もう、本当に私見であるが、この三つの二つ目の漢字が、物凄く気になるのである。

「学」と「術」、美学ともいうから、これも「学」。

どうして、音学ではないのかしら？

私が、ピアノに嵌りに嵌った、その謎が、今、解けたのである。

2014.02.20 Thu

私信緊急記者会見

ここ近々、書き溜めた記事を順番にアップしているので、新規に記事は書いていない。ピアノが本業なので、ブログタイムには制約がある。もちろん、他のブロガーさんも事情は同じ。コンサート、そのプロモート、新規のコンサートの設定等々以外に、弛まぬ練習。ちょっと、さぼると直ぐに指が動かなくなる。昔、先輩に、たとえば、小説家は一日中、脳内に言葉言葉。美術家は物体、風景、色形。ミュージシャンは、寝ている時も音音音。こうでなければ、プロにはなれないと言われた。半分は、正解。でも、時々、脳初期化も大切である。大聖堂を見に行ったり、とりわけ、私は廃墟がなんとも好きである。古代の遺跡なんかも。脳がすっきりするのである。

急に思い付いた。マイルス・デイビス「へっ、俺は、練習なんかしないぜっ」とインタビューに答えていたのだけれど、マイルスの彼女の話と食い違っている。「うもおー、一日中練習していて、あたしなんか、ほったらかし」。

ところで、ここ近々、じわあーと読者様の数が増えていることに気が付いていた。新規のご訪問も増えている。以前使っていたBloggerには、こういう機能はなかった。でも、分かり易かったのは、一日のアクセス数ではなくて、記事ごとのアクセス数。これは結構参考になった。8なんていう記事もあれば59なんていうのもあったし、8だった記事が、少しすると26なんてなっていたり・・・。アクセスの多い記事を参考にして、では、この路線で行けばいいのかあーという学習能力ゼロなので、もちろん、故意にゼロにしているから、またまた愚記事を書いて6とかになる。

ご訪問者リストの機能。私の方は足跡を残さない設定になっている。

私は大変に律儀なので、ご訪問頂いたブロガーさんの記事、拝読する。

あーあー、流石だなあーと読ませて頂いている。ある意味、ブログサーフィンというものを能動的にやらないので、こうしてご訪問頂いて、折り返し、私が拝読する。自然と素晴らしいブログ、ブロガーさんに巡り合える。楽しみがひとつ増えました。一つだけ注意をしないといけないことは、もちろん、杞憂と呼ばれるものなのだけれど、私のブログ(読者少なき愚ブログ大賞受賞主催者不明)だから、折り返しの拝読が可能なのである。これがご訪問数30だ150だとなると、これはなんぼ律儀でも、折り返しの拝読だけで一日が終わってしまう。ピアニストの活動も中止を余儀なくされる。家事も滞る。家内に捨てられる。路頭に迷う。老後の人生設計がちゃらになる。歩道に座りパソコンで一日中ブログを読んでいるホームレスと化す。

ご訪問頂いている親愛なる読者様ブロガーさん、謹んで御礼申し上げます。

2014.02.21 Fri

詩を書く

これは、私の原点であった。
詩を書かなくなって、三十年ぐらい経っている。

以前にも書いた。

詩の形をしたものが、それであるとは限らないから、そういう形のものは、私は書かなくなった。

いや、詩の形をしていても一向に構わないから、正確には書けなくなった。

いや、正確には、私の詩の形が変形変容した。

いや、正確には、あれっ？ 鈍感になった。あっ。

その分、詩の本体に、私自身が二センチぐらい肉薄した。かも。

そうだな、詩を読むのは、今でも、好きだな。

2014.02.22 Sat

読まない

本を読まなくなって、随分、経つ。

最近、新聞も読まない。自分のブログの閲覧数が一桁だ云々とほざいているが、ブログもほとんど読まない。よくよく考えると、こうして愚記事を書くことは嫌いではないけれど、そもそも、ブログ自体に、あまり、興味がないということになる。愚記事を書く、少し前に書いたとおり、なんか練習している感じがするだけである。そうなる、練習を読まされることになるから、読み手はうんざりする。だから、当然の帰結として、少しも読まれないブログとなる。これは、本当に自業自得だから、閲覧数云々などもってのほかである。ひっそりと練習して頂戴ねえーとなる。良く考えると、記事はすべて下書きのまま。これでも別に差し障りはないし、近所迷惑にならなくてベターじゃねえーのかって？ ふむ。ちょっと、考える。私のピアノの練習風景のビデオ、ユーチューブにアップするのか？ 面白い？ うーん、こっちの方が沢山再生されたりして。分からん。何回も、同じところで躓く。これはこれで面白いかも・・・。「なるおー」とか「たかがあー、ピアノおー」とか、肩揉んだり、煙草吸ったり、赤ワインちびちびやりながら空を見上げたり、体操したり、「うんちきしょー」「ばあーろー、なぜに、これが覚えられんのだっ、アル中ハイマーっ」とか「うもおー、なにやってんだ、てめえー」とか一人で騒いで居るのである。

よおーく考えると、唯一、読むもの。

たまあーに、パリのブックオフに行く。買ってくるものは、筒井康隆(この日本の天才は、私の優秀な愚脳をもってしても、到底敵わない。凄過ぎ。勝負比較にまったくならない)の文庫本ないし、自動車批評の本。フランスの車の雑誌も、床屋さん、歯医者さんの待合室で、真剣に読む。とりわけ、日本車とヨーロッパ車の違い、そのスペック、ハンドリング、高速安定性云々、もう、これがたまらないのである。そのまま、日本という国とヨーロッパの各国との比較と読めちゃうから、面白くて仕方がない。まともな文化論とかは全然読みたくないのだけれど、この自動車批評は、貪り読む。とりわけ、徳大寺有恒さんのご本は、その色合いが濃くて面白い。フランス車の批評なんか、もう、そのままフランス評になっている。

お国柄とか民族性とかが、もっとも出易い機械のひとつが自動車のようなのである。

それと、各国の各メーカーごとの違い。これまた企業ポリシーがはっきり見えるので、超面白い。日本の各メーカー。共通項も多いけれど、同じ国の車なのに、その違いも多岐にわたる。フランスも、ルノーとプジョーでは全然違うし、プジョーと同グループのシトロエンもプジョーと全然違う。この共通項と違いと各お国柄。自動車から垣間見る。これが私のお金の掛からないカーキチなのである。

本当に、どうでもいいのかも知れないのだけれど、今、フランスで一番人気のある日本車。

ご参考までに・・・。そのスタイル、性能も含めて、あくまで、私見ですが、たぶん、スズキスイフトDDIS。ハンガリー製。1.3Lのディーゼルエンジンは、イタリアのフィアット社製。デザイナーは日本人だけれど、ミラノとパリに長期滞在して、ヨーロッパデザインの研究をしたそうです。日本、イタリア、ハンガリー、すでに三つの国が絡んでいる。そして、この車の最初のイメージは、イギリス車のオースティンミニクーパー。これまた面白いことに、このスイフトの成功で、BMW社がミニクーパーの商標を買収し、ドイツ製のミニクーパーが復活。なんか流れが逆様になっている。れれれえー、車談義が始まると止まらなくなってしまう。おっ、愚ブログ止めて、自動車ブログにしようかしら・・・。

2014.02.23 Sun

年相応の文体

物を書くとき、当然にして大別するとふたつの要素が現れる。

内容と文体。文体、そう、語り口。同じ内容でも、その語り口によって、印象は相当違ってくる。または、大した内容ではなくても、重厚流麗な文体で語られると、その内容自体が別のものに昇華したりもする。そういう意味で、文章というのは大変に面白い。もちろん、今回は書かないけれど、ピアノの演奏にも同じことが言える。

私は、間もなく五十五歳になるのだけれど、この年齢に相応しい、分相応な内容文体というものがあのか、二秒ぐらい愚考してみるのだが、あるようなないようなあるような……。結局、判断基準がどこにあるのか分からなくなる。私が、しばしば使う、げっとか、れれれえとか、ありゃなんていうのが相応しくないというご意見も多かろう。俺、僕、わたくし、わしとか一人称も、どれが相応しいのか、やはり分からない。

結局、当たり前結論、自分で決めて判断するしかなしとなる。その判断基準は、どうやら、実年齢ではなく精神年齢および脳内自由度辺りがもっとも有力候補であろう。そうすると、まず、脳内自由度はアホなぐらい広い方である。すべての人間の営為は理解できる。後は好みの問題だけで、なにが良い悪い、私には善悪の基準はない。好きにして、あなたの人生という感じである。それから、精神年齢は、たぶん、幼稚園から老人のそれぐらいまでをカバーしている気がするから、どこに焦点を合わせたら良いのだろう。これも分からない。結局、物を書く上で実年齢というものは、なんの関係もないということになる。

ピアノの方が、その影響は色濃い。実年齢、つまり、その中に肉体年齢が含まれるから、若い時分のようにぎんぎらぎんの体力がないから、音体はやや穏やかにならざるを得ない。文章を書くのに、それほどの体力はいらぬから、脳内ぎんぎらぎんのままだと、文体もハレーションのままになる。

わしの好物は、北陸地方の烏賊の塩辛である。焼酎を湯で割り、若い時分の思ひ出などを頭の中にしたためながら食するのである。そのぬるりとした食感と海塩の協和が口腔に広がる。その至福が老いた体全体を貫通し、所謂、人間の年輪とは、このような事象を指すのではないかと一人、茶室で呟くのである。わしは上機嫌で立ち上がり、床の間のパイオーニーアの木目調のステレオに近付き、一枚のレコードを掛けるのである。わしは、最近の流行歌などは聴かん。もう、なんども拝聴した二千十年代の名盤の一枚である「裕一茶夫 マイ・フーリッシュ・ヘッド」である。今日の日誌はこれでお仕舞いと致そう。

駄目？ こういうの・・・。

2014.02.24 Mon

私は、ブログ村のヘンリ・ミラーと化している。

読者なき文豪(ああっ、これって、陰湿な裏、明快な表を乗り越えた、メガロ自信。すいませんねえー。これ、追記なのです。文章の流れ上、こんな感じになっているわけですね。文豪だなんて、とんでもはっぶん、しかし、少し、そうかもしれないような、しかし、ヘンリ・ミラーは、私の文章の師匠でもあるし、しかも、彼は、文章でフリージャズした、とんでもない師匠でもある。俺は、一行たりとも推敲はしないなんて、北回帰線の中に出てくるから、痺れるけど、私たちより、ずっと古い時代に生きた作家の方が、ずっと先を行っているなんていうのは、冴えないのである。わっ、後退してんのか、私は？ こういう括弧内の追記こそ、文章の流れを壊すけど、音楽に追記はできないよおー。じゃかあーしいー、作者はすっこんでて)。しかし、これは、私が教えを頂いたブログる文学振興会の掟なのだ。

しかし、で、ある。会長は、単に、大変に快調なだけで、なんの「制約」もないのである。要は、極北の「無定型ブログ」なのである。

セントレイニーホスピタル(おっ、懐かしいねえー、昔、書いたぞっ)H診療室

「先生、患者さんが、お見えに」

「どうぞ」

「先生、うちの主人、おかしいのです」

「どのように？」

「ボケとか、そういう感じではないのですが、僕は頭の中とか、目が痛いとか、源之助とか、そのような言動ばかりなのです」

「ううーん」

「こういうのって、インターネットで調べましたら、心的ななんかかんとかで、私には、なんのことか・・・」

裕先生、患者の頭を叩き、頭に耳を寄せる。

「いってえーん、なにしやがんでえー、イサオちゃん」

裕先生、左右に軽く頭を揺する。

「いってえーん、おい、源之助、でえーじょーぶか？」

裕先生、瞼をコンコン。

「おっ、なんも見えねえーぞっ、源之助っ！」

「奥様、わたくし、断言申し上げますが、これはブログる文学症候群。不治の病。このまま、そっとしといてあげて下さい。ちょこっと問題とすると、不治なのですが、長生きなのです。逆に、本人が脳内に居るので、ボケないのですね。お分かりですか？ 奥様」

注 詳しい症例は、「久保はつじ じつはぼくの爆脳雑記」をお読み頂きたく存じます。会長自身のお言葉、はっはあーー、お辞儀。ブログる文学振興会、会員、裕一茶夫。

2014.02.25 Tue

女性と男性の買い物

うちのカミサン、娘、ちまちまちまちままと買い物が好きである。Tシャツ、セーター、ズボン(って言わないそうですけど)とかカバン、靴、マフラー、ベルト……。娘の部屋、我々の寝室のクローゼット、閉まらないのである。溢れているのだ。どうして、何百枚もTシャツが必要なのか？

息子と私は、まったく、無頓着だから、なにも世間様からのご批判がなければ、一年中同じ服。同じ靴。同じカバン。私は千円で買ったリュックサックしか持っていない。一万円以上の革のリュックサックを購入予定ではいたけれど、家族一同、パパには高級品は似合わないという結論。止めた。たまあーに、背広を着たりすると、「あれっ、パパって背広着ると、ソレナリなんだあー」と言われる。一度、知人宅へ出かける際に、いつもの格好で出ようとしたら、娘に、「パパ、いつ着替えるの？」「えっ」、しぶしぶ、階上の寝室に戻り、黒いズボンとストライプの入ったジャケットに着替えた。あー、めどうだめどうだ。友達んちだよ、めかし込んだってねえー。ふふふふふうー、安物服をスーパーで買い込んで、「Isao YU」と全部にプリントしちまえっと、密かに企んで居る。どうだっ、文句あっかあー！

どうして、こうも、女子は購入購入購入なのであるか？ うん、私は、良く分かる。このTシャツの堆積が体積が滞積が、幸せ度なのであろう。野郎の買い物は、家、車、私の場合は、ピアノ。点数は、とんでもなく少ないが、桁が違うのである。うん、来世は、わたくしは、女子に生まれたいっ！ で、うなもん、ないから……。おっ、おかま？

追記

実は、脳内の内々で、本当の内々だこれは。ドラムセットを購入しちゃおうと思っちょるのだ。ぶっ飛ばされるだろうなあー。ピアノ、ステージピアノ、トランペット、パーカッション、これに、プラスでドラムセットだよ、やばいか、やっぱ……。

2014.02.26 Wed

まあ一、よくもまあ、この裕というオヤジは毎日くだらん記事を書くもんだあーと呆れている方々もいらっしゃるかもしれない。でも、全然、信じてもらえそうにないのだけれど、もう、随分前からブログは止めようと思っている。のに、毎日毎日、アホのように更新している。とはいえ、実を言えば、新記事、つまり、この記事を書くのは、一週間か十日振りなのである。なんとなく時間が空いて、ほな、ブログ記事でも、ちと、肩慣らしにと思い付く。パソコンを開く。fc2に行く。あら、不思議、次から次からとアホネタが浮かんできて、七つぐらいの記事を書いてしまう。自分でも、なんでこうなるのか分からない。

「ピアノは私だ2」になってから、その傾向は顕著になってきたし、なんか、あまり、ピアノとかコンサートの話も出てこない。ピアノは、超絶技巧の習得に明け暮れているから、上半身は農耕馬のようになっている。明日(この記事も、いつアップするか分からないので、単に明日としておきますのですのだ。あっ、お天気とかも、そういえば最近書かなくなったっ、なあーるほど。アップ日が自分でも分からんで・・・)は、そのお披露目コンサートである。まあ、それはいいとして、ひとつには、この予約投稿システムのせいも多分にある。愚記事を書き溜めてセットしておけば、毎日、自動更新される。コンサート会場にいても、ピアノの練習をしても、毎日毎日、更新様。大体、なんの記事を、本日、アップしたのか自分でも忘れていて、後で、読み返して・・・・・・。もじもじ・・・・・・。「おおー、いいこと書いてんじゃん」などと、にんまりしたりしている。自分でアップした記事のタイトル、内容、まったく覚えてない日もしばしば。コンサート会場に向かう電車の中で、あれれれれえー、今日ってなんの記事だっ
けえー、思い出せない。

その内、近々に、

「あっ」とか「その時、私は・・・」とか「ドミソド」とか「C#mからEbmの循環を時速920キロで行い」とか、

気象庁の観測では、このような意味不明な一行ブログをアップし始める可能性が高いと予測されている。どうも、このオヤジは、ブログ更新の記録、つまり、たとえば、三十二年間弛まぬ更新にてギネスブック入りを狙っているのではないかという憶測も流れている。そうなる、内容は、当然にして問わないのである。更新あるのみ。村からは破門だろな。

2014.02.27 Thu

未来日記

予約投稿システム。これがあれば、つまり、来週の記事も今書いてしまえばいいわけである。どうせ、おっさんだから、来週に劇的な変化なんかないから、一週間前に書いてしまえばいいのである。そういえば、小学生の時、夏休みの絵日記を最初の三日間で仕上げた。後は、遊んでいた。

なんなら、年内の記事も全部書いてしまっても、どっちにしても劇的な変化なんてないから、その日ごとに書いても、今、書いても、ほとんど同じであろうと推測する。来週の献立だって、ほとんど、予測できている。スーパーの特売品次第で微妙なズレは出るにしても、水曜日のとんかつが、木曜日のおでんと入れ変わるくらいである。大した違いはない。

つまり、未知数なんていうものが、どこにもないっ！ 浮き浮き感もわくわく感も、ことごとくないっ！ 唯一、ピアノのライブでの演奏は、これは自分でも未知数。これだけね。つまらない？ うなことないよって、お若いの。

2014.02.28 Fri

私がブログを始めて、一年半強。記事の数が、500に近付いている。ということは、ほとんど、ネバーマインドのゴムバンドで、毎日毎日毎日切磋琢磨している、いた、ことになる。練習狂の面目躍如である。やはり、芸名を、「切磋 琢磨」ないし「面目 躍如」などと、すべきである。この琢磨君の心境というのは、やはり、少し元が暗いので、おいおい、おっさん、まだ、根暗してんのけえー、照らしてやるわい、俺があー、と、結構、文学的なマグマを内包して居る。「マグマ大使いーー、ピーーー」、知らんだろうなあー、お若いの。

大体にして、ネアカなど居らんのだ。毎日毎日、躁状態。うなわけないのである。私の場合は、多少、赤ワインのお力をお借りして居るとはいえ、そのお力がお必要ということ自体が、暗いのである。自立して居らんのである。ご助力、お力があるわけ。あっ、躁状態をキープできる方は、そりゃー、それで、すげえーけど、怖いのは、躁鬱、これは怖い。私は躁鬱ではない。コンビニ鬱。だから、このような文体になるというパラパラドックスフンドなわけだ。まあ、赤ちゃん(赤ワイン)のお力のご助力のお賜物である。あっ、最近のローラの動画を見ると、相変わらずのようだけれど、一瞬、目が泳いでいることが増えている。この方は、相当、脳回転の速い方。ローラのため口は計算されているっていう動画タイトルがあった。えっ、初めから、そうであるって、馬鹿じゃできないよ、あの立ち位置は。私は、根暗の苦労人と読んでいる。

でも、大変に大変ながら、赤ちゃんのお力だけでは、琢磨君は存在できない。そう、そこにいらっしやるあなた、「私のブロガーさんたち」のお力なのである。琢磨君が、琢磨君足りえるのは、そういうことなのです。

2014.03.01 Sat

味覚的思考

相変わらず訳の分からないタイトル。どうも、脳が捻じ曲がっていて、分かり易いものにはできない。うううー、すいません。

ところで、私は日本で生まれて二十一歳まで本国に居た。味覚および脳内中枢言語は、和食、日本語のままである。味覚は、もう、強烈にインプット、インストールされていて、食べたいものって聞かれると、和食しか出てこない。うな重を除くと、庶民的なものばかりが浮かんでくる。日に日に、和食といっても凝ったものではなく、たとえば、高級そばではなく、高田馬場の駅の立ち食いそばが食べたい。上にコロッケを乗せたい。とか、カレーなんかも専門店ではなく、駅の食堂とか、昔のデパートの屋上レストランのカレーを食べたいのである。後は、居酒屋で出てくるものもの……。なぜか、うな重だけは、郷里の老舗、こののが気が狂いそうぐらいに食べたい。これだけ、妙にこだわりインストールされている。

幼少期に、音感教育を受けたピアノがヤマハだったから、今でも、ヤマハのピアノの音が一番分かり易い。これも、初期インストールなのであろう。

そして、日本語なのだけれど、あれほど外国語が苦手だったはずなのに、現在は、三流バイリンガルと化した。その、同時通訳ができるようなレベルでは到底ないので、三流とした。皆さん、ご存知の通り、外国語を話そうとする時、まず、日本語で考えて、それを訳すという作業を、初期の頃は行おうとする。そして、現地の人々のスピードに付いて行けず、意味不明の張り付いた笑顔で一日を過ごす。と、このようになる。たとえば、私のいい加減ながら、そこそこ流暢なフランス語を話す時、日本語は介入していない。フランス語、直打ち。たぶん、思考回路の三十パーセントぐらいが、フランス語になっているはず。でも、重い内容、中枢的な思考は、日本語で行われている。

2014.03.02 Sun

現在、午後四時十七分。雨。

この記事もいつアップするのか分からないから、日付は入れない。

私の家の玄関に向かって右二軒目のお隣に巨大なヨーロッパトウヒ(杉と松を合わせたような針葉樹)の木がある。というか今朝まであった。その家のサロンのバルコニーの方まで侵入していたはずだし、第一、真南なのに、あの巨木。日当たりが相当悪かったはずである。樵のお二人が今朝から、それと格闘していた。まず、枝切りをしたはず。気が付いたら、各枝は七十センチぐらい根元を残された状態になっていて、つまり、天然の梯子みたい。命綱、諸々の道具、ヘルメットをした男性が、天辺までするするする。ちょっと、煙草を吸いながら見ていたら、どうも上の方から、三メートルずつぐらい幹を切っていく模様。今、見たら、半分ぐらいがなくなっている。私の展望台サロンの景色、この巨木で、西方面のパノラマが遮られていたのだけれど、これで、百八十度の展望サロンと相成った。空が広く感じられる。などど、ブログを書いて居るけれど、五時五十六分の電車でパリへ行かなければならない。夜のお勤め日なのである。本来、この時間は、ピアノの練習をしている。でも、コンサートの日はやらない。逆に、変な風な暇タイムが現出する。なんか、雑用もやりたくないし、あまり、早々と飲み始めるわけにもいかないし、取り立てて緊張しているというわけでもないけれど、やはり、コンサートに向けて、じわあーとテンションが上がって行く。垂れ目も、少し、凛々しくなっているはずだし、やや、目力も増しているはず。

追記

この記事も一週間前に書いたもの。こういうブログこそ、写真を入れたらいいのにと自分で思う。ヨーロッパトウヒって言われてもねえー。私も、今、調べて分かったのである。原文は杉の木ってなっていたわけ。あっ、そうそう、フランス語だとサパンなんだけれど、簡単に言うとクリスマスツリーの木の巨大版です。あくまで、写真を入れない意固地な裕センセ。違うのです、カメラも携帯も持っていないのです。今時と言われると・・・・・・・・。すいませえーん。

あっ、ボワーンは日本語でアプレミディは(午後)でした。

「あちらに見えるバチモン(建物)はミニシパル(公共施設)です」。

フランス語の習得初期に良く起きる変な日本語一例。

2014.03.03 Mon

書くことがなくなった

ついに、書くことがなくなった。めでたしめでたし。などどほざいてみるが、やはり、書いている。オジギャクだけのブログを書いてみようかな、と、ちらっと、脳がざわめく。

一昨日のコンサートのビデオの編集をしている。パートワンを聴いてみた。自分(たち)の演奏なのに、かなり、仰け反った。ジョン・コルトレーンのユニットを彷彿とさせる演奏になっている。真師匠は、スイスのコンサートの後、中一日での演奏。凄いドラミングである。負けじと私、ヨラム、特別ゲストのアルトサクソ、トリスタン。四人でぶち飛んでいる。やはり、即興演奏は、我々にも未知数で、どういう感じになるのか、終わってみないと分からないから、止められない。我々のグループは、真面目人間の集団なので、演奏のクオリティーのバラつきが非常に少ない。やはり、入場料頂いているから、冴えない演奏なんぞはお聴かせできないのである。

ここ近々に習得した超絶技巧の片鱗は、随所に出てはいるけれど、自分の演奏を聴いてみると、手持ちの技量の十パーセントぐらいしか本番では出ていない。なんか外国語の習得みたいで、そんなものなのである。他の三人からの総攻撃を受けつつなので、考えたり、脳内で翻訳している時間はない。けんか空手みたいで、練習で覚えた形が咄嗟にいくつもは出てこないのである。言い換えると、相手がいるから「段取り通り」にはいかない。だから、けんかなわけ。でも、十パーセントで応戦している、と言うことは、これが十五パーぐらいになると、さらに楽になるだろう。と、日ごとの練習は欠かせない。そう、家での練習は、つまらないぐらいに形の習得に徹する。私のメソッドの中には、六百あるのです。

ピアニストのブログというより、武道家の日記みたい・・・。

でも、この記事のタイトルが「人生」だったら、意味深かしら？

2014.03.04 Tue

一昨日、相当にハイなコンサートを行った。少し、もぬけの殻状態。しかし、練習狂の私は、花形満(巨人の星)。中一で立ち上がり、先ほどまで、超絶技巧12日間の旅2を行った。上半身が牛。肩凝りを通り越して、ついに、首が回らなくなった。借金がないから、こういう比喻も気が駭駭。

そのブログとの出会いは、注目記事の欄を見ていた時。三日月の黄色いサムネイルが目にとまった。私は、以前にも書いた通り、ブログサーフィン、能動的な検索、まったくやらない偏屈ブロガーである。元々、美術をやっていたので、サムネイルの目の留まり方が、やはり、偏屈。けっして、私の自己主張丸出しのそれがよしとは言わないけれど、他人に厳しいのである(笑)。

そのサムネイルの右側の記事のタイトル。その柔らかい感じが、脳内に涼風というのか、私の愚風とは違う、なにかがビビットにラビッドしたのである。本当に、その協和がいい感じだった。当然にして、開いて拝読した。その任意の記事、結果的にはそうなる。琴線に触れた。そのお人柄、文体、内容、私が求めているエッセイという形態に合致していた。痺れて、延々と過去記事を読むうちに、創作系のサイトがあることが分かった。小説のサイトが。応援狂、マイケル・オーエン。全部、拝読。痺れた。

こういう出会いがあるから、インターネットもブログも面白いし、逆に凄く怖いと言え言える。でも、後者は、まあ、無視だね。こういう出会いこそ、ブログの真髄と、最近、私は、本当に思い始めている。

と、Cocode、考えている。

2014.03.05 Wed

セントレイニーホスピタルH診療室。

「裕先生っ、急患ですっ」

「あっ、見せて見せて九官鳥」

「あんたっ、医者なんでしょって！」

「アイシャ、アイシャ、あっ、医者のお車」

「ちゃ、茶筆筒と冷蔵庫に頭を挟まれて、頭の形が、北極」

「北極？ 南極じゃないの？」

「失礼致しました。極北です」

「閑散指数は？」

「通常値を大幅に超えております」

「私と一緒にだ」

「いや、先生の医術は私だ2、こちらは正常値なのです。内容とアクセス数の適正值というものが、閑散指数なのです」

「じゃ、5でも？」

「はい、内容との見合いを考えれば、十分過ぎるわけであり、けっして閑散指数は高くないのです」

「あー、そういうことおー。無定型指数は？」

「これも高いですねえー、無節操指数ともども」

「私と一緒にだ」

「はい。あまり高いと舞踏病を併発する恐れがあります。脳拘束にはなり難いですが・・・」

「ということはだ、これは明らかにブロぐる文学症候群極北病だな」

「私も、そのように判断致します。すでに、ヒポポタミンZ、オナラミンB、ストッププログラミンを調合致しました」

「で？」

「で？ は、ないでしょう。先生が敬愛する師匠ですよ。先生の記事を読まれて、このようなアクシデントに」

「下田君、君、青いねえー、極北まで行ける者は、極南に到達する。どっちも、寒いんだよおー、寂しいねえー」と言いつつ、裕先生は、そっと、脳南下抑制剤バッカリンを飲み込んだ。

参考資料

2014.03.06 Thu

暗面自叙伝

中学二年生、十四歳。坊主刈り、野球部のキャッチャー。筋肉むくむくの明るい中学生。三年生の時に、キャプテンになった。学級委員長だったし、小学校の時は、生徒会長だったのである。勉強も、堂々自慢で、できた。文武両道。泣く子も黙る中学生だったのだぜって！

きゃ！ でね、なぜにキャッチャーなの、その(当時の美貌で)ですね、はい、監督の「チームの頭脳はキャッチャー」、この一言でした。「あっ、俺だっ」、以上なのである。

一級上の先輩方は、高校へ進学し甲子園へ。二回戦で負けた。

そのエースの球をブルペンキャッチャーとして、毎日、受けていたから、それなりのレベルではあったはずである。チップしたボールが変形して、キャッチャーマスクに、ポヨヨヨヨヨヨヨヨヨと挟まったことが何度かあるし、たぶん、推定138kmぐらいの球が、もう一つ(正確には二つ)の方に、ワンバウンドして、ドバツ。痛くて立てないし、酷い時は、グラウンドに三十分ぐらい蹲っていたのだ。蹲るっても、明るくね。痛かったけど。

この頃、ビル・エバンスのレコードを買った。初めて買ったジャズのそれである。

この時、「俺は将来、ジャズピアニストになる」と決めた。坊主刈りのまま。高校へ進学、諸々の本を読み出した。いつの間にか、ジャズが消えて、アンドレ・ブルトン、北守夫、なだいなだ……。精神科医になり、傍ら、詩、小説の執筆と人生設計が変わった。しかし、高校の学年が進むと、簡潔に、私自身が患者になっていた。入院ないし保護監視の下に生活という診断を、今は下せる。しかし、私は、東京で一人暮らしという暴挙に出た。脳凍結。生き死人と化した。この頃のことは、上梓された唯一の単行本(絶版なのに、しつこく、コマーシャル「水の記憶」(鬱病からの蘇生自叙伝物語)の中に書いたので、何度も書かない。70kgの体重が49kgへ。鬱病である。二十一歳になろうとしている時、どうしたら、凍結してしまったものが元に戻るのか、私も周りも考えた。解凍するしかない。海外へ。一か八かの賭けであった。表か裏か。あの世かこの世か。結果、あの世の代替を見付けた。芸術と呼ばれるもので、これ以外には解凍する術がなかったのである。

時々、ふっと、私も長生きしたもんだと思う。

なんだか、「ずううううううううううううううと、余生だったんじゃねえ?(三村さん)」

「よせいやいっ、今更……(大竹さん)」

2014.03.07 Fri

うちの弟

私には、七つ下の弟がいる。四つ下の妹は、これ、読んでいるので、いないことにする。身長も顔立ちも双子に近い。ただし、プロポーションおよび体躯が随分と違う。双子のように似ているのに、私は、ハンサムな？志村けんで、あっちは、肩幅の広い戦国武将。どうして、こうも印象が違うのか？そっくりなのに、全然、その与える雰囲気が違うのである。当然にして、あっちの方がもてる。まあ、長男面と次男のそれって、目力が違うのである。

つい最近、弟の誕生日だったから、メール。

返信に、私が脚色してしまうけれど、要約すると、「俺は電子制御されたオオカミだ」と来た。で、私が、「おめえーは馬年だから、フェラーリだけど、兄貴は、まあ、丸くなったカローラ、うだからよっ、空力は優れているんだぜっ」と、訳の分からない返信を書いた。

2014.03.08 Sat

お笑いとユーモア

今、一瞬、「ユーモア」という単語の意味を検索しようと思ったけれど、止めた。
私なりの解釈でいいのでは、と思ったからである。

「ユーモア」

まったくの独断ですが、ヒューマン、肯定的、優しい目線、馬鹿笑いとは違う、むしろ、微笑みが浮かんでくるもの。私は、人間、人生、生きているもの賛歌のようなものが基底部にある感じがしている。明るい色調

「お笑い」

これも、まったくの独断で、否定的、上から目線、他人の揚げ足取り、意地悪、つまり、第三者を笑いものにするという悪意が根底にあるように思う。日本のお笑いが如実にそれを示しているような気がする

なんとなく、後者の代表を北野武としてみると、大きな論理矛盾が起きてくるような……。たけしさんの毒の中には、優しさが多分に含まれている。でも、その優しさは虚無的で否定的である。

私は、お笑いギャグ人間である。因みに、唐突に、フランス人は、ユーモアのある人たちではない。辛辣、アイロニー、嫌味、ウィット、人間不信と……。否定的で毒がある。そういう意味で、たけしさんがフランスで大成功を収めた、その理由も、なんか分かってしまうという論法も生まれるかもしれない。

あるカフェのある日。

「おおー、まだ、生きてたのっ！」

「うん、元気だよ」

「早く、お去らばした方が、家族のためだよおー、なあ、ジーさん」

「ありがとう」私ぐらいの年齢の男性二人

「やあー、暫くだなあー、十年振りぐらいかなあー、お前、ちょっと、老けたかな？ 前からジジーだったけど」

「あー、お前も、更に老けたな」これも、私ぐらいの年齢の男性二人

こういうのが、フランス人の日常会話である。やはり、たけしさんの世界に通じている。でも、たけしさんと一緒に心根は優しいのである。親愛感がこういう表現になっている。

けれど、ちょっと、ユーモアとは違うと思っている。結構、本音が出ている。つまり、お前みたいな、馬鹿野郎は、存在価値がないのだと、どこか心の内奥にあるから、こういう言い方になる。親しい他人という距離感がある。

私の考える「ユーモア」。

「スイス暮らし de 滑稽譚」、この素晴らしいブログをお読み頂ければ、百愚記事(私の記事)は一読にしかず。ずばり、ユーモアの真髄なのである。

2014.03.09 Sun

外国からのご訪問

外国に住まわれている日本人の方の、私のブログへのご訪問という意味ではなくて、外国に住まわれる外人さん、当たり前なんだけれど、のご訪問のことです。

私の言語能力は、会話読み書き、日本語、英語。レベルは別ですよ。会話読み、フランス語。書きは、できないのです。耳学問だから、読みまでが限界だった。読みって言っても、小学校レベル。

少し前に、ご訪問者リストに足跡が残っているブロガーさんは、私も、必ず、拝読と書いた。それは、もちろん、本当なのだけれど、三人のブロガーさんに対しては嘘になってしまう。ご訪問、しかも、複数回に渡っている。私、開く、読めないのです。漢字だけなので、中国語なのだろうとは推測するのですが、そうは言っても、中国、台湾、香港と膨大な地域に関わってくるので、正確に何語なのか分からないのです。すいません。グーグルの翻訳機能を使ってみたら・・・。

例によって、レイモン・ルッセル、現代詩の方々、言語実験家の方々が、三メートルぐらい飛び上がる日本語になる。いやあー、これが面白くて、全部、読んでしまったりするのですが、そのブロガーさんの記事とは、まったくの別物。申し訳ないです。

でも、私が心配しているのは、私のへんちくりん日本語が脳内インストールされないかと・・・。

坂田明 外国人が聞いた日本語のモノマネ

あれこれ、めさかとでしたかあー？ いやあー、さかとて、これまはりやしたあー、めけてて、くんなまし(ペコペコ頭を下げる)

ドイツ語バージョン

イッヒビン アインシュタイン エイゼンシュタイン バッカなホルスタイン ナハトムジーク
イイカゲンにシロバツハ

このような日本語は、脳の健康に多大なる害を及ぼす可能性があります。外国の方には、このような日本語、お薦めできません。セントレイニーホスピタル医師団。

ご訪問、心より御礼申し上げます。申し訳ありません、拝読できなくて・・・。ごめんなさい。

2014.03.10 Mon

俺はどこに行くのか(再掲)

冒頭に追記致します。記事自体が非常に長いのですが、ご容赦願います。

この記事は、昨年、六年ぶりの帰郷からフランスに戻った直後に書かれたものです。こちらの時間で、3月12日2013年に。本日(こちらの時間で11日です)、私はブログ記事の更新をしようとは考えていませんでした。でも、私のお気に入りブロガーさんのお一人が被災者であったことを知りました。一度、拝見した写真、右後方の式場入り口案内を凝視して、戦慄が走りました。私が育った町の名前が書いてありました。私は、三年前に庭の片隅にマルメロの低木を植えました。鎮魂のために。心が、また、決壊してしまいました。しかし、メソメソは出来ませんから、私はピアノを弾いた。ゆっくりと。噛み締めながら。Fメジャー、日本の童謡、唱歌に非常に多いのですが、たとえば、「象さん」「海」。快晴の春を思わせる美しい日光を浴びながら、ピアノを弾いた。ゆっくりと、噛み締めながら。拳で、目を拭きながら。そして、後者の曲は、私は二度と弾けない。諸々の難題には、あえて触れません。ひとつだけ、せめて、心だけでも復興して欲しい。これだけなのです。

(すいません、諸々のブログパーツ、お忘れ下さい。削除の仕方が分からないのです。この記事は、私にとって、ブログとは違うものなのです)。

二年前のその日から、俺の中のなにかが壊れた。

心身症を患った。ピアノを数ヶ月間、弾けなくなった。いつも折れた心と、なにも出来ない無力感を引き摺って、営業課長の激務に耐えていた。時折、不意に涙が訪れる。どうしようもなく涙が込み上げて来る。

直ぐにでも戻りたかった。余所者と化した俺が戻れる状況にはないことを悟った。

瓦礫の撤去すら手伝えないのだ。気持ちが沈んで行く。

昨年の五月。二十四年間続いた二重生活に終止符を打った。ピアノにすべてを集約することにしたのだ。もう、俺の中のへし折れた心のパワーの限界値を超えたと実感した。会社を辞した。

被災地の弟から叱責された。「兄貴、俺たちはそんなやわではない。あんたの仕事はピアノを弾くことだ。いつまでめそめそしているのですか」。俺は、ピアノを再開した。

一切の関連行事はお断りした。便乗という言葉が頭から離れない。一切、そのことには触れない。俺なりの懺悔だった。気が急いた。早く戻らねばと。とはいえ、外タレ面でのこのこ帰ることが怖くもなった。気が急ぐ、でも、怖い。また、心が引き裂かれた。ブログを始めた。心のバランスを取るために。そして、それには一切触れないことに決めていた。精一杯、おちゃらけて均衡を取ろうとした。

叱責された弟と、強風の中、石巻市の真ん中に立った。俺たちの周りにはなにもない。舗装道路と、黄色が点滅する信号機。廃墟と化した小学校。俺はじっと立っていた。黙祷した。ご冥福を心からお祈りした。

地元の仲間たちは、皆、元気そうに見えた。でも、不思議な笑顔だった。時々、空を見上げると涙が止まらなくなると言っていた。俺の過ごした福島県いわき市平。倒壊家屋が撤去され、町の至る所に駐車場が出来ていた。その風景は殺伐としていた。

俺は、親父と小名浜港に行って見た。瓦礫の撤去は済んでいた。岬公園の展望台。きらきら光る海を見詰めた。眼下に閉鎖された魚市場があった。活気、人の姿は、そこにはない。

友人の居る原町。庭のベンチに座ろうとしたら友人が家から飛び出してきた。「座っちゃだめ!」。放射線計量器を友人は、首から吊るしていた。隣の農家のおじさんが、耕運機で畑を耕していた。首を傾げる俺に、友人が耳打ちした。「耕していないと、気が狂う」。寂しそうに笑った。「だから、皆、普通に振舞っているんだ」。

俺は、宮城県北部からいわき市まで、親族知人を訪ねた。バス、車で大きく迂回をしないと行けない。車窓から、名取市の現在を見た。二年前のその日、フランスのテレビの中の映像が、まざまざと蘇る。俺は、静かに頭を下げた。

平の老舗ジャズクラブ「クイーン」。初めてコンサートに「復興」の文字を入れた。俺は、ピアノで叫んだ。渾身の演奏をする以外に、俺の中のもやもやを解消する術はないのだ。俺は、ギャラを断った。「裕さん、気持ちは分かる。でも、もう、それはお互いに止そう。仕事は仕事だから」。受け取る以外にはなかった。

俺は、「さくらさくら」を弾いた。富岡町の桜並木が脳裏を通り過ぎる。「とおりゃんせ」、原発で遮断された警戒区域と重なる。「大きな栗の木の下で」、なかよくのフレーズに涙が止まらなくなった。この演奏は、動画として、いずれ公開することに決めた。郷里への返礼として。

この二年間のもやもや。心労。生活スタイルの激変。そして、定まらない心の中核。悔恨、無力への懺悔。亡くなった方々。避難生活を送る方々。被災地の風景。自殺の連鎖。空の笑顔。諸々の現況に対峙できるものはあるのかと思う。

そして、俺の中で壊れていたものが、再度、元の形ではなく、もうひとつの別の形として、再構成されたことを実感した。もう、めそめそしていても始まらない。俺は、日本での音楽活動をフランス側のそれと並行して行うことを決めた。俺に出来ることは、それしかないのだ。ピアノを

弾く。渾身の演奏をする。これ以外に、なにもないことが、ようやく分かったのだ。

もう、結論はひとつだろう。芸能道楽者の極北へ。これ以外にはないのだ。震災性心身症。この病から脱出する時なのだ。俺も、分からない、ひとつの被災。ひとりの被災者だったことに気が付いた。俺ごときがと自制が働いていた。おこがましい戯言と封印してきた。

六年ぶりの帰郷。

分からない。なにか、不思議な覚醒感に包まれている。

2014.03.11 Tue

下書ノ山

おかしんだよねえー、週いっぺんぐらいしか記事を書いていないのに、今、私は下書ノ山にいる。内容がなんだったのか、自分で覚えていない。どっちに城、愚記事ノ山であることは間違いない。読み返して推敲するのがめどうになり、羽毛おーと、これを書き出した。先週末ぐらいから、突如、日中二十度になり、快晴の日が続いている。先週の日曜日、今年初めてTシャツ姿でハイキングをした。

うちから車で三十分ぐらいのところに、県立の小さな考古学博物館があるのだけれど、その裏山に小さなドルメン(支石墓、巨石を積み上げたお墓)があるとのこと。徒歩で往復一時間半。

おおーー、おっさんに丁度いい距離だわ、となり、カミサンと山登り用の靴を履いて行って来た。農耕馬が、点々と草を食んでいる中、小高い丘に向かって歩いた。暑くなってきた。セーターを脱ぐ。森の小道を上ったり下りたりしていたら、小高い丘の更に小高い場所に出た。小さなドルメンがあった。説明書きを読んだ。「紀元前三千年」と書かれていた。「えっ、と言うことは、えーとえーと、今から五千年前かよおー、うわあーー」。

その小さなドルメンの前に立って腕組みしながら、風景を見てみた。パノラマ、眼下に広がる森。その後ろに小高い山々。どうして、その場所に作られたのか？ 無言のまま、理解したのである。ジャンヌダルクを祭る大教会も、小高い丘の上にあった。そこから見た風景と良く似ていた。そういう土地、そういう場所、そういう位置があるんだなあーと再度思ったのです。

2014.03.12 Wed

「うちの弟」自動翻訳版

私には、7の下の弟がいます。

4の下の最も若い姉妹がこのものを使用します[それはその後ありません、彼/それは読む]。

高さと特徴は近く双子です。

しかしながら、身体は割合を適正に延期します。

矛盾中のUSEDがそうであるのはそれですか、一般的、私は美しい？

志村けん、それは等しく双子としてあります、そして肩が広。

それはあなたが作るものです、またある...このように異なる

それは類似していますが、与えるべき大気は完全に異なります。

彼/それは自然になります。また、これが歓迎されます。

さて、彼、長男および第2の息子に一方では、この世で強いゴールを輸送する目において異なります。

正しく、それが最も若い兄弟の誕生日だったので、彼/それはこの日を郵送します。

私は答えのために脚色しますが、いつ、彼/それは要約しました、彼/「私は電子制御が取り去られたオオカミです」と言っている間、それが来ました。

去る(私)ために」--それはその後フェラーリでしたが、兄がよく円形になった花冠..

-だった..--彼/それは得ます、そして、したがって..

優れている--答え、誰..

"また、翻訳は理解しません、書かれました。

作者注

記事「うちの弟」をエキサイト翻訳でフランス語へ、それを再翻訳すると、こういう文章になりました。コンピュータって私情がない分、なんか、凄く詩的な感じもします。けれど、外国語の翻訳という作業は、いきなりの結論として、不可能と判断したくなってきます。たぶん、直打ちしか、その言語は理解できないのではと・・・。音楽は翻訳しながら聴かない。たぶん、言葉も音として脳内へ入ってきて、意味を持つから、音楽と同じはずなのです。いくつもの言語があるので、この翻訳という作業を介在させないといけないのだけれど・・・。言葉ってやっかいですね。

2014.03.13 Thu

頑張るマン

中学生 俺は頑張って勉強していた
頑張って 野球の練習をしていた
エラーをすると金属バットで尻を叩かれた 先輩から怒鳴られ校庭を延々と兎跳び
でも 俺は頑張った
一級上の先輩達は 高校に進学し甲子園へ行った お前らも頑張れと言われた
そして 頑張った

高校に入り野球は止めた 詩を書き始めた 先輩達から頑張って詩を書かないといけないと言われた 俺は 頑張って詩を書いた

美術学校 人並み以上に頑張らないと一流にはなれないと言われた 俺は頑張った 延々とデッサンをした そんな頑張りでは駄目だと言われ 更に 俺は 頑張った
四六時中 頑張って作品を作った

父親になった 家族のために頑張った 頑張って絵筆も折らなかった
会社のためにも頑張った どんどん出世した 責任が重くなっていく けれど 俺は 部下のために頑張った
頑張って家を買った 頑張ってローンを払った

三十五歳 ピアノを再開した 頑張って練習をした
数年後 名立たるジャズの先輩方に会う機会ができた
俺は 頑張りますと頭を下げた

「いや、イサオなあー、肩の力抜けよ、お前。ジャズはよ、ひとつだけでもいいんだけど、お前にしか出せない音があれば、それで、いいんだよ。お前にしか出せない音が、段々、ふたつになってみつつになって、そうなるよ、お前自身が楽になるんだ。頑張ったって、出ないんだよ、そういう音はな」

2014.03.14 Fri

私の音楽

フランスのインプロバイザー、やはり、クラシック音楽の本家。音の破壊の仕方が、私とは違う。あまり、難しい話にしたくないので、簡潔にすると、無機質、不協和音を多用する傾向が強い。つまり、積み重なった膨大な音楽理論を、結局、「理論的に破壊しようとする」わけである。良く分かる、その心意気。彼らにとって、禅の世界、沈黙の世界、俳句の世界は新鮮だったはずだ。ベケットの不条理劇も、日本文化の影響を受けている。もしかすると、ドイツの哲学者、ビイドゲンシュタインも、影響を受けたのではと、少し、推測したりする。

もちろん、私は、仲間の悪口などは言いたくない。「仲間」、以上なのである。皆、切羽詰まって音楽をやっている。その熱い心を私は知っている。でも、無機的な不協和音、私は、あまり、好きではない。音楽観の違いも、もちろん、あるのだろう。でも、「自由」の成り立ち、そのベースが違っている。

私にとっての音楽とは、「自由」であり、「エモーションの開放」なのである。そして、我々と聴き手が同じ時間を共有している、この熱い刹那を、私は、音楽だと思っている。

ジャズもラップも、切羽詰った状況から生まれて来た音楽である。
だから、私はジャズに拘る。

2014.03.15 Sat

孤独なブロガー

私のパソコン、起動すると我々トリオの写真が出てくる。それを見て、急に気が付いた。おっ、複数の人間が同時になんかを一緒にやる、これって音楽だけかいな？ まあ、厳密には、複数の人間でひとつの小説、絵画、ブログを書けなくはないけれど、音楽の同時進行、しかも、観客観衆まで巻き込んで、同じ時間を共有する。うん、他の媒体だと、ちょっと、難しい。

なんだか記事に書いたけれど、私は十三年ぐらい小説を書いていた時期がある。日の目を見たのは一作だけだから、その他は、家のダンボール箱の中。書いている側の孤独は、ちと、酷い。限りなく独り言の自己満足と結果的にはなっているから、その書いている自分を客観視すると、ちと、重苦しい。これを、私は、サハラ砂漠の卓袱台での小説執筆と呼ぶ。

そうすると、やはり、ブログはいいと言う結論になる。アクセス数以前に、開かれている。とにかく、公開されている。心的な孤独感が薄れる。ふむ、または、孤独なブロガー=私の、その孤独を、私以外のブロガーさんの孤独と共有している。これは、一つのジャムセッションとも言える。複数の孤独が共鳴する。あれ、なんかうまく表現できない。友達とも違うし……。音楽で言うバンドという言葉、これ日本語に訳すと「群れ」なんだけれど、その群れない仲間？あれ、と言うことはジャズメンと同じ。演奏中以外は、皆、一人なのだ。なんか自分でなにを書きたいのか、分かんなくなっちゃった。

2014.03.16 Sun

過去記事とダブリン愚するけれど、世界で初めて言語実験をした、ことになっているのが、フランスの作家、レイモン・ルッセル。彼は、クラシックのピアニストでもあった。ピアノと言語実験、もう一人、似たようなブロガーがどこかに……。この関係は、大学の先生方の分析をお待ち申し上げる。ピアノは健康に悪いなどという結論は、いやいや。ボケ防止器だからねえー。

フランスでは、この潮流は大潮流。マルセル・デュシャンが引き継ぎ、アンドレ・ブルトン初め、シュールレアリストたちが引継ぎ、レイモン・ケノーは大家になった。日本国では、小説家は、筒井さんと一部で、ほとんどは詩人たちが引き継いだ。と、これは、思想の一つであると申し上げたい。これを、お笑い化してみる。

「粘土会社の年度決算報告」

「ええー、本ネンドのネンド報告であります、ネンド変わりの常で、我社のネンドはしばし、しばしでありまして、本ネンドはネンドに力を入れて、更なるネンドを迎えたく思う次第で、はまちの塩焼きです。これにて、ネンド報告を終わらせて頂きたい」

「じえんじえん、分からネンド、大丈夫やろなあー、本ネンドは」

「ネンドおー、ネンドおおおおおおおお」 ギコギコ

「うるさいね、君っ」

「うるさいってかね、君は？ 船頭が歌って、なにかあー、悪いんけっ！ はい、わたすが、変な船頭ですっ！」

追記

と、この記事の日付を見たら、3月4日だった。相変わらずクダらないから、ちょっと、追記しちゃう。あのね、なんで、私が、こういうことに興味があるのかと言うと、たとえば、私見とか自分の意見とか、その、まあ、自分を中心に、諸々の事象を我々は、捉えるけれど、先日アップした「うちの弟、自動翻訳版」とかを読んでも、自分の意見なんぞ、なんか、核心的なものなのかいね？ という疑問が湧いてくる。だって、こちとらも、日々、変わってんじゃん、おっさんでも。でね、とりあえず、実験機に掛けてみると、段々、自分とか自我なんてものがどっかに行ってしまう。自分でも、えっ、なに、これ、と言う文章になる。そこで、脳内に広がりが出る。もっと、言葉が面白くなってくる。自分でやっているのに、それを超えちゃうから、自分で、爆笑したりする。と、面白いんだけど、行き過ぎると、ちょっと、ヤバイのだ。脳破壊となる。ほどほどに……。更なる追記 久保の兄貴の科学目線、超面白いのである。

2014.03.17 Mon

変わってきたブログ感

最近、ブログ感が随分と変わってきた。

少し前の記事に書いた、「ブログ＝本番へ備えての練習」。これに、やや、うっとりとしている。本番とはなんなのか？ 小説？ ふむ、正確には「これから書かれるであろう二十一世紀文学の金字塔」なのである。キャ、書いちゃったよ！ この宇宙怪獣メガロ野郎っとお怒りになられる前に、先(まだ、書いてないけど)をお読み下さいね。

しかし、仮にである。それが書かれなかった。書いたけれど、金字塔ではなかった。途轍もない愚の骨頂であった。でも、構わないのです。「その予感に打ち震えている(一人で)」、ここが大切なのだ。一人、るんるんしながら、「金字塔金字塔・・・」と呟き、ブログ執筆に精を出す。練習練習うー。いやあー、この浮き浮き感、ここがポイントなのです。

ぶっちゃけ、その後の金字塔など、どうでもいいのである。あははははは。

ブログ、詩集とか書籍化された小説なんかとは、随分と違う感じはある。

書き手と読み手の間に、出版社とか、その編集者とかが介入していない。直送である。これは、ある意味、非常に際どいし、プロとアマがボーダレス。もちろん、社会的にはプロ＝文章でお金を稼いでいる人ということになるけれど、私は納得していないし、判断基準として下世話過ぎ。とはいえ、この論法上のプロ。もちろん、甘くはない。そんなことは分かっている。

あっ、すうーかり失念。私は、有料ピアニストなのだったよ、げっ。下手だけど、そうすうと、プロってな訳かよ、ねえー。いつもの例えで、じゃ、バン・ゴッホはアマだったの？ という会話になる。私より上手い無賃金ピアニストがごまんという。すっ、すいません。

小説を読まなくなって、随分と経つ。ひとつには、日本国、フランス語で言うところのロマンシエール(小説家)の系譜が大多数を占めているせいもある。私は、エクリバン(作家)を読みたいので、段々と遠退いてしまった。言語実験、実験小説の流れも、大半は、詩人たちが引き継いだ。必ずしも、言葉の解体だ、意味の剥奪だと前衛的である必要はないけれど、前衛精神は必要だと思う。前進する、新しいものを自ら作る。仮に失敗作だとしても・・・。出来なんか悪くたって、文学の本質的な問題ではないと思っている。

そう言う意味で、ブログという媒体自体がゲリラ的で、たぶん、ブログ文学の創造は可能と推測している。私が、と言う意味ではないですよ。脳が枯渇枯れススキ状態だから、駄目ですな、それは・・・。

追記 この記事も日付をみたら、3月6日。真ん中辺は以前書いた内容だし、最後の方、昨日の記事と内容がダブっているけれど、全体の流れもあるので、そのままに致しました。ちょっと、ピアノの大きなゴトシ(仕事)が入り、脳がピアニッシモのフォルテッシモなので、未発表「下書

ノ山」より、無理矢理の予約投稿でした。

2014.03.18 Tue

優越感と劣等感

この二つ、私は、あまりない。

優越感もなければ、その逆もない。第一、人と自分を比較したりしない。ピアノの技量は、嫌でも比較せざるを得ない。当然にして、私より上手いピアニストは、山のようにいる。下手なもの、もちろん、いる。これに、いちいち嫉妬したり、足を引っ張ったり、劣等感を抱いたり、優越感を抱いたり、あまりに多過ぎて、そんなことしていたら倒れてしまう。そお——して、すべてを統括してしまう一言。「え——、裕イサオ君は、まあ、下手ではございますが、彼なりの、いわゆるイサオ節という独自のスタイルを持っている。ここに晴れて、ご結婚となりましたこと、誠に、お日柄もよろしいようで・・・」となる。なんか、勉強はできなかったけれど、知恵者で、みたいな論法である。

私の家の真向かいの豪邸。元私の家の借家人が購入した。私は、まったくお世辞ではなく、「いやあー、立派なお家買われて、良かったねえー」。ご主人「いやあー、裕さんちの方が良かったよ」「うなわけねえーべって、あんた」「いや、僕は、もし、売ってくれるのなら、お宅の方を買いたかった」「あれ?」。私の家は、大草原の小さな家、その通りコンテスト、第三位。そっ、三番目に小さい家なわけね。しかも、通り側が家の裏側になるから、通りから見ると、なんの変哲もないシティーハウス。以上なのである。向かいの家は、私の家の1.5倍。通り側が、正面だからレンガ造りの四階建て。町の美しい建造物の一つとして、いろんな写真集に載っているのである。このご主人の反応、理解に苦しんだ。

カミサンにその話をしたら、「あー、見晴らしはうちの方がずっといいわよね」「あー、そうだよな、あっちからはうちしか見えないもんね」「あたしたちは、あっちには住めないわよ、あんな立派な正面、どう見たって金持ちにしか見えない、実際そうだけれど・・・。分不相応で落ち着かないわよね」「あっ、俺も、恥ずかしくて頬被りしないと出入りできないねえー」。まるっきり、優越感も劣等感もないのである。まあ、「小さくて見晴らしが素晴らしく通りからは普通の家(実際そうなんだけれど、でも、庭から見ると、金持ちと誤解される可能性もちょっとあるかも・・・)にしか見えない」ということで、比較にならない。

カミサン「ねえ、あなた、あの車、格好いいわね、次回、あれにしようかしら」

「あのねえー、あれってね、ポルシェカレラって言うの」

「高いの?」

「うちのホンダシビック1997が十台買える」

「じゃ、止めましょう。もっと安くて、同じ格好の車ないの?」

私、きっぱり、「ない」

注 優越感を誇示したい方々は、私たちに近付かないで下さい。豚に真珠症候群

2014.03.19 Wed

遠近法

久保の兄貴の「好きな景色(3月8日付け)」という素晴らしい記事を拝読した。

私にとっての「詩」なのである。少し、目を瞑って、色々なことを考えた。

追記 兄貴、これも、下書ノ山から出てきた記事なので、今頃になっています。すいません。

「遠近法」は、ルネッサンス期、ダ・ビンチが発明したはずである。それ以前は、「そのように見えていなかった」はずなのであるが、久保の兄貴の写真を見ていたら、「あれ、おかしいなあー、カメラという機械自体が遠近法的に風景を撮る」。私の解釈では、概念、世界観として、「遠近法」が脳内インストールされたと理解していたのに、カメラまで？ もしかすると、仮説として、カメラレンズのセッティングが、そのようになっているのかしら……。原始人が見ていた風景は、絶対に、前、中、後と「前後関係」しかなかったはずなのである。

現代美術家、高松次郎の作品を急に思い出した。遠近法的に見えるオブジェを、その「見えた形のオブジェ」にしたもの。わかりますか？ 遠近法的に描かれた「平面の中のもの」を、そのままの形に復元したもの。実際に見ると、実に変だ。こちらが、そのように脳内に映写しようとしているのに、実物が、「すでに、その格好」。もちろん、高松さんの狙いは、そこにあった。「そういう風に、脳機能にインストールされている」と。

もし、高松さんのその作品の中を歩いていくと、「痛っ、なんだよ、中点かよ」という変な状況が生まれる。

そして、この記事は、久保の兄貴の記事から誘発されたものではあるけれど、こんなややこしい議論が問題なのではなく、その記事をお読み頂きたいということなのである。私の愚考とは違う、「詩」があるから。右斜め下22.323cmぐらいのリンクの曝脳雑記です。

2014.03.20 Thu

圧倒的筆力

「本日は、圧倒的筆力を誇る体育会系ブロガー、裕一茶夫(いちゃお)さんをお迎えしたオールナイト日本ですー。ダンダァダァーン」「裕さんの、その筆力というか、更新力は、どこから来るのですか?」「はい、赤ワインです」「そっ、そうなのですか?」「はい」「あの、究極の文学オジギャク、アル中・ランボーなのですね」「はい」「でも、うなことないでしょう、なにか、脳内で蠢いているものがなければ、ワインだけでは・・・」「赤ワインです」「ごっ、ごめんなさい、その赤ワインだけでは、その源泉は・・・」

「うんまあー、食欲かしら」「食欲?」「大食じゃないんだけど、上手いもの食いたいわけね」「あっ、そおーですか? 他には?」「ううーん、ぱっと出てこないねえー」「そんな、お気楽肩の力なしで、その更新力?」「やっぱりねえー、下田さんだっけ? うまあー、なに、そこんところは、なに、日本国の美德で、うまあー、その、汲み取り便所じゃなくて、汲み取ってリベンジして頂くのが、君、本筋と言うものの気姫なんじゃないのって、わしは申し訳程度に申し上げているの揚げ足。烏賊げそ上手いよなあー、特に天ぷらはなあー・・・」

「とっ、言うことは、その更新力は、食欲からなのですか?」「ちゃうちゃう、赤ワイン」

下田アナウンサー

「わけわかんねえーって、このアル中オヤジっての!」

「おっと、下田っ、俺、素面だけど」

追記

ごめんごめん、イサ中(イサオ中毒)の皆様方。この記事も3月8日でした。なんか、用か? オジギャグって、最近、メビュウス現象で、新鮮な感じまでしてきたんだけど・・・。あっ、日常会話言語実験である。まっ、ボケ防止にはなる。ちょっとよおー、ヤノピのクンナマシでジィビー(ピアノ関連の仕事で忙しい)でよおー。なんで、俺が翻訳してんだよって!

2014.03.21 Fri

今、ブログ村の順位を見たら、なっ、なんとおーー、南東おーー、俺よおーー、inもoutも、七位だっ！

まっ、別に南緯だってよ、いいんだけど・・・・・・・・。

あのさぁー、もじもじ、へのへのもじもじ。

あのねっ。文字文字・・・・・・・・。

これって、格好良くねっ！

マイ ネイム イズ ジェームズ

ジェームズ 裕

つつい追記

これも、下書ノ山で採れた愚記事。なんでもかんでも、アップすればいいのか？ というご批判には馬耳東風君。明るい更新あるのみっ！ ところで、1007位でも2007位でもいいのだよ。007、これが入っていれば・・・・・・・・。ジェームズ・ボンド大好きなのだ。まあ、現実の自分とじえんじえん関係ないところに憧れているわけね。第一、アストンマーチンに乗っている俺なんぞ、どう考えたってお笑いどっきりカメラにしか見えないだろう。着ているものから、ぜえーん部、取り替えないと・・・・・・・・。スーパーで買った衣装で固めてアストンマーチン乗って、中華食材店に練り物を買いに行く。まったく、どこも、ジェームズになっておらん。大体、ボンドガール二人に挟まれたら、絶対に、頭一つ分、あっちの方が背高いわな。やっば、ピアノ弾くしかねえーか。

2014.03.22 Sat

ギブス

さっき、大ピアニスト養成ギブスを外してみた。十年振りの両師匠との二回のコンサートが近付いている。もちろん、佐藤真(ドラムス)師匠は、私のパーマネントパートナー。沖至(トランペット)師匠は、ゲストで、我々のユニットにしばしば登場して頂いている。先日も、沖師匠とのデュオの動画をブログに添付した。

色々な企画があって、沖師匠、真師匠、私とのトリオになった。よおーーく、考えたら、この三人での演奏って、十年前にパリのエスパスジャポンで初めてやって、それっきり、つまり、一回しかやっていないのである。驚いた。頻繁にお会いしているのに・・・。

ひとつには、私が恐ろしいのである。

沖至、ご存知の方は仰げ反る。日本人ジャズジャイアント。74年にフランスへ。天声人語に、「頭脳流失」と書かれた。私のようなジャズチンピラには、組長なのである。おいそれと、気楽にお声は掛けられない。でも、なんだか、可愛がってもらっている。飴飴飴飴飴、ちょっと、鞭で。

佐藤真、日本で音楽活動はしていない。フランスで知られるグループ「マッートルージュ(赤いハンマー)」のドラマー、および、沖至、アラン・シルバ(アルバート・アイラー・ユニットのベース奏者)等々のユニットのドラマー。私が「師匠」と言うと、「俺は、永遠のアマチュアだ」と返答される。

このような恐ろしい人たちとのトリオ、正直、怖い。

けれど、遠慮はしないという、俺たちの暗黙の了解があるのである。

星裕馬。

私の、「消える指」をご披露せんと、両師匠から目線ぶっとばしの拷問が待っているのである。

編集部追記

裕センセのレトリックスに騙されないように・・・。両師匠は、大変な紳士である。

2014.03.23 Sun

セントレイニーホスピタルH診療室

「裕先生、お電話です」

「あ——、もしもし、茶筆筒と冷蔵庫の間に、分度器持って入ったまま、三日間出てこない？
でも、鬱陶しいのがいなくなって助かっている。先生、病気ではないですよね？ ですね。大丈夫、奥様、端的に申し上げますが、ブログる文学症候群パノラミック極北レトリックスダッフ
ンダ、です、ご心配なく。第一、ご本人が脳内に居られますからねえー、まっ、HとK4UEK
C4TYTY'Eを、ご主人は探して居られるわけです。じゃ、バァバァ——イ」

「裕先生、医者がローラのモノマネというのは……」

「あ——、下田って、いじわるう——」

「だから、それが職業上、差し障りがあるのではと申し上げて居るのです、わたくし」

「おい、下田君、あの、手術用のゴム手袋、頂戴」

「先生、駄目ですよ、病院にピアノ持ち込んじゃ」

「いいから、頂戴っ。ふ——む、これだとスライド奏法がでけんなあー。おい、普通の軍手
くれっ。お——、滑り過ぎだし、指太で鍵盤二音同時に押しちゃうよなあー、おい、ボクシ
ンググローブ頂戴。わっ、わっ、わっ、いい感じいー」

「裕先生、それって、いつもの演奏と同じですが……」 「おりゃ？」

裕先生、翌日……。

「俺のうちの極北はどこだ？ ふ——む、最上階の息子の部屋の天窓じゃ」

裕センセ、駱駝シャツ、腹巻、ステテコ、鉢巻にマジックで三本髭、および、左右の繋がった水
中眼鏡姿で、そ——と、天窓から顔を出した。向かいの奥さんと、水中眼鏡ごしに目が合
った。「げっ、バカボンパッ——！」。これでいいのだった！

「裕先生、お電話です」

「はい、もしもし、あ——、ご主人が出てきた……、けれど……、体が……、縦長の
長方形になっている。ということですね。奥様、それは、ご本人が遠近法化した、ということ
で、大事には至りません。大丈夫なのです。じゃ、バァバァ——イ」

2014.03.24 Mon

自転車

下書きが一杯溜まっているのに、また、書き出してしまった。なんかね、読み返して推敲するのがめんどうなわけ。お天気が超絶快晴。下書きの整理なんて無粋なことは、したくないのだ。ほんで、お昼取ったら、カミサンと自転車で川岸を走り、湖まで行くことにした。

考えてみたら、子供の頃から、ずっと、自転車が好きだった。徒歩だと、風を切って歩いている、という感じにはならないけれど、自転車だと、ちょっと、背が高くなるし、スピード出すと、これ以上オープンな乗り物はない。気持ちが良い。あと、結構、遠くまで行ける。あと、基本、一人の作業でもある。こんな感じがいい感じいー(いつもの、ローラの声で)。

私の住む、人口三万人の小さな町には大きな川が流れていて、相当な距離の川岸サイクリングロードがある。でも、なぜか、そのハイライトでもある、隣村から湖までの部分が、ずっと、未整備ででこぼこ、泥濘状態。人気のない雑木林と、ちと、お散歩、自転車、怖かったのである。これが、最近、綺麗な土のサイクリングロードになった。やったぜえーという感じ。私の家から行くと、右に川、左、雑木林と点々と麦畑。それと、川の向こう側の家々と、いい感じいーになった。

じゃ、行ってくるぜっ！ バァバァーイ。

追記

この記事、3月16日(日曜日)の朝に書いたもの。で、アップ日が、今(3月20日)、設定しているんだけど3月25日。これで、下書ノ山はなくなった。これから、コンサート。沖至、佐藤真、裕イサオ。パリ屈指のジャズメンに紛れ込んでいるのだ、俺は。どうして、こういう凄いことになっているのか、俺にも分からない。それはさておき、下書きは、もう、止めたっ。書きたい時に、というスタンスでやったら、下書ノ山ができてしまったっても、週に一回ぐらいしか書いてないのにである。でも、私のお気に入りブロガーさんたちとの、さり気ないジャムセッションには、これは、あまり、良くない。籠り過ぎなんで、その日暮らしブログにしよおーとっ。山吹の黄色い花とソノヒグラシの囀りを聴きながら、したためました。

2014.03.25 Tue

fc2アクセス解析

昨日、つまり、3月20日。溜まっていた下書きを整理し、3月25日まで、予約投稿の設定をしてしまった。で、2週間ぶりぐらいに新記事(これ)を書いているのが、3月21日である。推理小説のアリバイ工作みたいで、段々、自分でも、今日が何日なのか分からなくなり始めている。ということは、本人がアリバイ工作をしているつもりなのに、ずっと、それを辿っていくと明らかに、その本人が犯人であるという、馬鹿な工作をしちゃったりして……。左門工作。犯人のいない推理小説という愚アイデアに、今度は、この間抜けたアリバイ工作という更なる愚アイデアが加わってしまった。どうして、直ぐにお笑い系になるんだろう、私は？ あとは、書くだけなんだけれどねえー、めどうだなあー、だれか代わりに書いてくださらんか……。

十年前に、和食しか受け付けない日本人英国諜報部員のショートショートを書いたことがある。もちろん、ジェームズ・ボンドのへんてこパロディー。もう一度、読み返そうかななどと、ちらっと、思う。海外を飛び跳ねている超ハンサム男なんだけれど、和式に拘っているから、へんてこなシチュエーションが巻き起こるわけね。あっ、最近、座頭市のパロディー、さすらいのピアニスト1(いち)というのが、頭の中で渦巻いている。主流ジャズしか聴かない一派との、壮絶な戦い！ 「きさま、なにものだあー、ここじゃー、フリーはやらせねえー」「うぬ」と言って1(いち)がピアノの蓋を開ける。マッハ3.8ぐらいで「枯葉」を弾く。取り巻いた男たちが、泡を吹いて気絶とか……。どうも、こういうのが次から次から出てくる。

ところで、なんとなくアクセス数が増えてきている。結構前から……。っても、一桁が二桁の前半ぐらいになったということで、閑散指数は相変わらずではある。でも、たまに、25なんて日が出てくる。もちろん、ご訪問頂いている方々へは、本当に御礼申し上げます。ありがとうございます。

と、深謝の気持ちは大変に強いのです。そして、最近の更に最近の何日間かのfc2アクセス解析を久しぶりに見て気が付いた。ユニークアクセスは上記の通りなのですが、トータルアクセス、つまり、ページビューというのが三桁の日なんかがある。これは今までなかった現象？ 分からない。確か、Bloggerで書いている頃も、少し、その傾向があったことはあったけれど、解析の仕方が違うので、良く分からない。そして、これが意味することも、今一、良く分からないのだけれど、一応、もと、理科系とすれば、たとえば、私にもたまに起きる現象。一人のブロガーさんの全記事を読んでしまったりする。と、こういった読者様がいらっしゃるという計算になる。やはり、私の愚脳の断面図を額装させて頂き、表彰状に代えさせて頂く所存である。お辞儀。ちょっと、嬉し涙。

2014.03.26 Wed

レトリックス

「レトリック」、なんとなく、ぼやあーんと覚えているけれど、なんだっけ？ 修辞法だっけ？ 「レトリックス」なんて、最後に「ス」はないよね。マトリックスのノリで、そういうタイトルにただけ。ミュージックミュージック。うで、グルグルしようかしらと思ったけれど、面倒になった。でも、その意味するものは、当然にして、知っている。

レトリック、暗喩、隠喩、私は、相当、多用しているはずなのだけれど、きちんと、説明が出来なくなってしまった。もう、血肉化しちゃって、元々がなんだったのか、やや、忘れ始めているわけ。まっ、ピアノと似ている。もう、指が勝手に動いちゃっている。音楽理論とかは、私は忘れてるのに、指さんたちが、覚えている。うん、ありがとうっ、みんなっ！

で、急に、俺になっちゃう。でね、俺は、時事、中傷、批判、こういうことは一切書かない。どうしてか、一応、元有料筆者だからなのですか。プロだったのか？ それは、疑問だけれど、その世間様の論理では、「銭貰ってんだったらよおー」となるから、まあ、プロでいいけど・・・。ピアノは、俺は、絶対に無料では弾かない。金額の問題ではなく、分かりますか？

仲間たちの困窮生活、もちろん、俺もだけれど、この「良い子ちゃん振り」を俺がやると、まず、仲間波及する、などど、他人事しているが、俺だって、ヤバくなる、から、駄目駄目。うーん、音楽は、お金ではないのだけれどねえー・・・、ごめんな。

あれ、そういうお話ではないのよおー、でね、あたしは、そういうことは書かないことに決めているわけなんだけれど、でもさあー、あたしって、レトリックスじゃん、よおーく、二回ぐらい読むとおおー、真意ってのかな、伝わるわけよねえー、あぶり出しブログなわけよおー、あんたたち、知ってたあー、それっ！

ちょっとおー、マツコさん、俺のブログなんだけれどっ！

「あらあ、ごめんなさいねえー」

2014.03.27 Thu

山吹

愚記事下書ノ山からのアップだけしている、今日、この頃。皆さん、お元気でいらっしゃいますか？

そうして、この記事も、下書ノ山行きなのである。暇みて、ちゃかちゃかという感じ。気合入れて、ブログするというのがなくなってしまって、たぶん、どこか飽きてしまったんだとも思う。うーん、そうだなあー、ペチャペチャしているっていう感じで、私は、それほどペラペラ系ではないから、飽きてきている。

と、いうより、ピアノの方が忙しい。気合みたいなものは、全部、こっちに行っている。私の中の諸々を音に集約しようとしている。そういくつも同時には出来ない。と、今まで、いろんなことを同時進行してきたけれど、疲れちゃったよ。音あるのみ。

言葉って意味があるから、非常に扱い難い。音は、元々が音で、意味は、その後から、その各自の脳内で形成される。

私の庭で、花火のように咲き誇る黄色い山吹の花を展望台サロンから眺めながら書いてみた。

2014.03.28 Fri

「おめえー、みねえー顔だな」

「へっ、通りすがりのもんでして・・・」

「どおーもよおー、おめえーには蛇頭の臭いがするなあー、なにもんでえー」

「蛇頭？ めっそうもない、通りすがりのもんでございやす」

たったったったったっ・・・。男十人が遠くから駆けて来る。

「1(いち)い—————」

「1？ きさまあ——、フリージャズ屋だなっ」

「めっそうもござんせん、しがないピアノ弾きでござんす」

「この町じゃー、フリーはやらせんぞおー、主流のみだあー、フリーの余所者には弾かせんっ」

「旦那あ——、その男は、フリージャズピアノの達人、裕1だあ——、捕まえろお——」

「おまえかあ——、噂のパリ帰りの裕1というのはあ——、この町では、弾かせんっ」

手前の男と、駆け寄ってきた十人の男に囲まれる1。しかし、1は、咄嗟にヤマハピアノ教室へ飛び込む。中級のアップライトしかなかったが、ベートーベンの喜びの歌をマッハ3.8で弾いた。ジャズ喫茶「スタンダードオンリー」のマスターおよび常連客、計十一名が白目を剥いて道に倒れていた。

ピアノ教室から出てきたその男は、薄いサングラスごしにウインクした。

2014.03.29 Sat

私のお気に入りブロガーさんの記事の中に、「自分の発する言葉への距離感」についてという記事ではなく、ブログでもなく、散文でもない、つまり、「詩」としか言いようのない「記事」ではなく「詩」があった。私の息子、娘より更に若いブロガーさんが、こういう人間の中核的なことを考えている。到底、私は、年を取れば分かるよ、なんて返事はできない。私も、相変わらず、分からないからである。ひとつだけ、私はお話しをするより、書く方が好きなのである。まず、自分の考えていることが凝縮する。凝縮している分、本音に近づくか、虚構に近づくか、いずれにしる、お話しするよりは、まず、本人の脳内が凝縮している。だから、「物を書く」、これは、絶対に有意義なはずである。または、音で叫ぶ騒ぐ。一旦、言葉を忘れる。どちらが重いのか、分からない。と書きたいような気もするけれど、音の方が重い。いや、リズム、生きているリズムの方が、言葉より重い。

2014.03.30 Sun

体重

適正体重。皆さんご存知の「一般的な計測法」は、
スポーツ選手、身長－100。一般人、－110。

と、すると、身長が170㍎の方だと、スポーツ選手、適正70キロ。一般、60キロとなる。確かに、スポーツ選手のデータを見ると、これに非常に近い。サッカーの中田選手の現役時代のデータは、身長175㍎、体重75キロ。どんぴしゃりである。

－110だと分かり難いので、－100とすると・・・・・・・・。

私 －17。息子、＋8。娘、－15。カミサン、痛っ・・・となる。

因みに、私の体重、野球部でキャッチャーをやっている頃、＋2。自閉症で苦しんでいる頃、－21。回復後、二十代の美術家時代、－17。三十歳前半ぐらいから二十年間、－13。震災後、－16。ここ最近、－17。

医者に行くたびに、あなたは悪玉コレステロールゼロ体質および体重の変動ゼロ。これは素晴らしいと褒められ、「でも、酒は控えめに。煙草は止めろ」「先生、お言葉ですが、一番、体に悪いのは、会社です」と、必ず、返答していた。そして、体に悪いことは、やはり、年なので止めた方がいいと言う結論。で、当然、一番、悪いやつを止めた。

ところが、三十年前の体重に戻ってしまった。大病をしているのではとの疑惑も過ったけれど、医者に行っても、健康体、しかし、「酒・・・、煙草・・・」の台詞となる。

しかし、この揺るぎのない－13。この数値、懐かしいと言うのも変な言い方だけでも、せめて、この過去の栄光の数値に戻りたいと、真面目に考え始めた。ついでに、よっしゃー、－10、つまり、一般人の適正体重へと、意欲満々っ！

私と同じDNAのうちの娘でさえ、－18を脱出し、－15へとにじりよった。

なんのなんの、パパだってにじりよるぜっ！ 先日、週末に実家(我々の家)帰りの息子とカミサンとで食事。「あれっ、俺ってパパより、丁度、30キロ重いんだ」。私より二回り背が高い筋肉隆々の息子に、ふと、言われ、「おっ?」、カミサンに「レ・ミゼラブル」と言われ、「おっ?」・・・・・・・・。

よおおおおおおおおおし、食い捲くったるっ！

2014.03.31 Mon

いちご

今、東京に中期滞在している娘からメールが来た。

「パパ、元気してる？ 今日、スーパー行ったら、いちご、ひとつで130円っ！・・・」、もちろん、全文掲載なんてことはしないけれど、この「いちご一個130円」、これが脳インストールされた。

翌日、近所のディスカウントスーパーDIA。

スペイン産のいちごパック(500グラム)99centimes=約80円。後日、いつも買出しするLeclerc、スペイン産のいちごパック1.90euro=約160円。近所のスーパーでも、これだけ値段が違うのだけれど、ポイントはそこではなく・・・。

「日本国では大変に高価なものを、わたくし裕イサオは、気楽に日ごと貪り食うことができる」と、一種の脳内錯乱心の成金と化しているのである。私はあまりないと書いた「優越感」さえ、沸いちゃったりもしている。うひょひょひょ・・・。考えたら、こういうもの他にもある。メロン。シーズンになると一個80円なぁーんてな感じで、またしても、むくむくと脳内錯乱心の成金と化す。ピフテキ、鳥の丸焼き、ワイン・・・、笑いが止まらんっ！

そういえば、うちの親父が、「俺が子供の頃は、おやつに数の子食ってたんだけどな」。実家が裕福だったと言う意味ではないですよ。もっとも「安価な食べ物だった」そうです。

なんか、新しい楽しみを発見してしまった気がしている。名付けて「心の成金ゲーム」。

さっ、いちご、食おっとっ！

なんてやっていると、うちの妹からリベンジ写真が来るのである、

「お兄ちゃん、残念だねえー、これ、食べれないもんねえー、可哀想だねえー、フランスにないもんねえー、OO屋の肉まん」。

2014.04.01 Tue

沖(至)師匠と(佐藤)真師匠との十年振りのコンサート、その1が無事に終わった。その2、その3と、すでに予定が入っている。十年前のそれは、カワイのエレピだったから、本物のピアノでのトリオは本邦初公開だったわけだ。レベルの差を必至に埋めようとはしたけれど、歴然とした差は致し方なし。I did my best. 最後に、沖師匠に、ちょっと、怒られてしまった。「枯葉」を俺はEmで弾き出した。沖師匠はGmで考えていたからズレた。拙いと思いピアノを止めて、真師匠は客席でデュオを聴いていたから、なんとなく咄嗟にスティックなしでドラムを叩いた。結果、沖師匠のトランペットソロにド下手ドラムとなり、なんか、おちゃらけになってしまった。当然、終わって怒られた。すいません、師匠。どうしてか、俺は変な自衛本能みたいなものがあり、ヤバイと思うと、咄嗟にちゃらけるのである。ダンディーな沖師匠は、こういうちゃらけを嫌うのである。再度のお辞儀です。

実は、その日のために、猛練習を重ね・・・。

なんとなく、指先の痺れ。なんとなく、指が震えるような気がする。じっと、見ても震えてはいないのだけれど、そんな感じがする。医者に行った。「先生、とうとう、依存症からアル中になりました」と言ったら、「君、ピアニストだよな」「はい」「どれどれ・・・」「先生、包み隠さず、どうぞ、本当のことを・・・」「君、ピアノ、少し自制しなさい。上半身の筋肉が炎症を起こしている」「えっ」「ちょっと、休みなさい」「と言われても、仕事なもので・・・、コンサート近付いているし・・・」「それはそうにしても、オーバーワークだ」と、取り合えず、炎症を治める薬を貰って帰宅したのである。

当日、風邪気味、筋肉の炎症と、風邪薬、炎症抑制剤、胃薬。

沖師匠の飴飴飴の合間の鞭語録の中に、「体調悪い時あるけど、コンサート前にはなるべく言うな、そういうことは」があるから、当然、俺は笑顔で「絶好調です」。そして、当日の鞭語録は、「ペダル使い過ぎ」「フレーズ、出来る限り長く。お前、淡白過ぎ、ひつこくひつこく」。

さすがに、翌日、ピアノを触る気がまったく起きなくなっていた。

ねっ、ミュージシャンもシビアだよおー。当日の地下鉄に向かう帰り道、沖師匠に、「イサオ、最近、なんか、凄く大人しくなっていない？」と言われてしまった。見抜かれているのだ。心の中で、「師匠、たぶん、ブログ執筆のせいだと思います」と返事をしていた。

おっと、たまに写真入れちゃおうっと！

一部と二部のインターバルの時に、ジャズクラブ「バビロ」のオーナー、シィファルが撮ってくれた。右から、沖師匠、真師匠、俺。当日の演奏は、YouTubeってね。



2014.04.02 Wed

菩提樹

今日は、4月1日なんだけれど、赤ワインパワーで記事書き溜め。っても、二つ目ね。下書ノ山がなくなってきたのね。別に、書き始めてしまえば、愚脳垂れ流しだから、大丈夫マイフレンド。ちゃうちゃう、俺の展望台サロンの真下中央の、つまり、俺の家が建てられた1900年に植樹された菩提樹の、赤ちゃん葉っぱが本日、出てきたのである。かわゆい。くるくるしてて。お花は切ないけれど、葉っぱは元気になる。どっちも好きだけれど、葉っぱは、日光を吸い込むためにある元気印そのもの。かわゆいねえー。ばんばん、でかくなってけれってよ。まっ、若者と一緒だよ、どんどん、行ってくれっ！ ミュージツちゃんなんて、押し退けてしまえっての！と言いつつ、あっ、俺けえ？ Gちゃんだったよ。

ほほほほほおー、あれっ、ワイン切れだな、こりゃー。書きたいこと忘れたよ。加トちゃん、ペっ(お若い方々、知らんだろうなあー)。

その翌日……。やっぱ、なにを書きたかったのか、「忘れちゃったあー」(ローラ)。ってのは嘘。俺んちの菩提樹、母屋から、約2.5m離れていて、俺の家の幅が5mでしょ、ってことは、5x5mのど真ん中に、いる、ある、生えている？ わけなのだよ。この菩提樹様は、なんか、俺たちを守っているガードマンなのかしらねえー、ずう————とそういう気がしてんだよ。家を拡張して、俺のピアノ室を作ろうかと、いつも思うたんびに、いつも思うんだけど、この菩提樹様を切ると、たぶん、俺の家もなくなるような気がしている。いいよなあー、樹木って、彼、彼女？ 今年で、114歳だよ。

今日は、4月3日。なっ、なんと、圧倒的な筆力、更新力を誇る裕センス。3日掛かって、この記事だよ。なにが、起きたの？ 下書きもなくなっちゃったし……。いよいよ、とうとう、更新の危機かしらあー！

2014.04.03 Thu

私の展望台サロンから、芽吹き始めた木々が見えるのだけれど、まだ、幹だ枝の基本構造が確認できる状態にも関わらず、その木の形が、薄い黄緑色。黄緑色の吹雪状態。もう、木々さんたちが、わあちゃーと、騒いでいる音まで聴こえそう。と、なんだか分からん描写だよなー、こういうの・・・。

やはり、デジカメ買って、ブログに写真入れようかしら・・・。

写真、私、全然、駄目なのである。なんだか、美術を止めてしまった虎馬なのかもしれん。色だの構図だの被写体だの考え出すから、永久にシャッターチャンスはこないという超絶偏屈カメラマンと化すので、どうも、写真は駄目なのだよなー。変人28号。

あっ、ジャズピアニストじゃなかったら、何になりたいか？

ずばり、「庭師」または、園芸店の店員とか、植物関係の仕事がいいなー。まったく、植物の名前とか分からないのに、植物、取り分け、樹木が好きなのである。正確には、樹木および果物、野菜。お花は、好きなんだけれど、咲き乱れるお花の真下にいると、ちょっと、息苦しくなる。なんとなく、怖くもなる。どうしても、桜の花を見ると、梶井基次郎を思い出してしまう。

あっ、お気に入りブロガーさんの記事を読ませて頂いて、ちょっと、植物の名前を覚え始めた。もう、お恥ずかしいことに、梅と桜の違いさえ分からない。なんか、三島由紀夫が取材先で、現地の案内役の方に、「あの木はなんですか？」と聞いた話を思い出す。案内の方、やや、戸惑い、「あっ、あれ、ですか？ 松の木です」。これに、ほぼ近いのである、私は。はははははっ、三島由紀夫なんて出してくると、この無知ぶりが、なんだか高尚な感じになりませんか？

そして、フランスなんだけれど、日本の桜の花に似た花々が沢山あるのだけれど、日本桜と同じではないはずだから・・・。うおーと、結局、なんの木なのか分からないのだ。林檎と梨とか果樹は分かるんだけどねー。

もう、毎日、葉っぱ見酒をやりながら、ピアノの練習しているわけね。

2014.04.04 Fri

なんか、少し、おかしいタイトル？ 頭痛が痛い。腹痛が痛い。ちょっと、似ている気もする。と、久しぶりに、腰を据えて記事を書き始めた。うーん、くなとんな(逆さ言葉です)、ブログ書き、飽きている。のかも知れない。意欲が湧いてこない。しかし、である。たとえば、である。私のお気に入りブロガーさんが記事の更新を止められる、もっと、極端にブログを閉鎖される。これは、私にとっては一大事。寂しくて、手が震えると思う。インターネットの皮膜を通り越し、もはや、友情と呼んでも差し支えないのであるから、手の震えも尋常ではないと予測できる。もしかすると、その逆もありえる。とすれば、である。多少の責任感も芽生えても来る。とりわけ、マニャック中毒系愚ブログである。禁断症状、副作用等々、ちょっとバヤイ(業界用語)。

ところで、随分前に一度書いたのだけれど、深沢七郎のエッセイの中だったと思う、「本当に幸せな人は、少し寂しげに見える」という件があった。たとえば、私の心の心電図を文章化してみると、躁⁺、鬱⁻、真ん中にゼロレベルの線を引くと、通常は、やや⁻の辺りである。大切なのは、大幅⁻にはならない。ほぼ、毎日、安定した「やや⁻」のところ。私は、気分の上下があまりない、安定型なのだ。そして、たとえば、ブログを書き出すと、やや⁺から、時々、十分⁺の辺りに針が行く。料理している時、庭弄りをしている時、こういう時も、かなり⁺方向。ピアノ、おっ、これはである。とりわけ、本番の時は、⁺のレッドゾーンへ、となる。

でも、たとえば快晴の春の日。まず、⁺ゾーンへ行き、また、マイナスへ。咲き乱れる花々を真下から見上げている時なんか、ちょっと、⁺に針が行き、その後、結構⁻の方へ行く。

と、結局、せかせかとなにかをしていない時は、随時、やや⁻の位置に心がある。やはり、深沢さんの言葉は、正解なのであった。恒常的な至福感のオーラに包まれていると、こういう位置になるのである。恒常的な至福感、マルセル・デュシャンの晩年のインタビューの中に出てきたはずである。「はい、私は、とても幸せです」。

2014.04.05 Sat

「旦那あー、ちょっと、待ってくれっ！ あんた、何者なんでえー」

ヤマハピアノ教室から、一人の中年の男が駆け出してきた。

薄いサングラスをした1(いち)が振り返る。

「あっ、あんな演奏聴いたことねえー、あんた、何者なんでえー」

「通りすがりの者でやんす」

「あの偏屈連中、蹴散らしちゃってえー、あんたは、ただもんじゃねえー、あっしは、センキチ、しがねえー、ピアノ教室の生徒。いつまで経ってもよおー、バイエル。すっ、すげえー演奏、あんたは、ただもんじゃねえー。旦那、泊まるどころ、あるのかい？」

男は何も答えない。「良かったらよおー、あっしんちに泊まれば。ピアノ屋でよおー、店に、スタンウェイあんだけど・・・」。1の目が薄いサングラス越しに、キラッ。「お世話になるかな・・・」。

「旦那、パリ帰りってのは本当かい？ この町じゃー、スタンダードが幅を利かせてんだ。フリーやろうもんなら、ショバ代だなんだと、取立てが厳しいんだ。ジャズクラブ、フリーってのあんだけど、取り立てで火の車。あっしはよおー、こう見えても、フリージャズ振興会の会長なんだ。旦那がいりゃー、鬼に金棒だぜって！」

男は、なにも答えない。

「旦那っ、あっしんち行く前によ、フリーに行ってみよっ、マスターに紹介するぜって。カミサに電話しとく、旦那連れて帰るってよ。ふはふはふは・・・」

ジャズクラブ「フリー」

「おおーー、センちゃん」

「マスター、凄え人連れてきたっ、あの偏屈連中、一瞬で蹴散らしちゃったんだよ、この旦那。もう、あのスピード、マッハだよなあー、スタンダードがよおー、なんだってんだよっ、この旦那の凄げえーの聴いちゃうとよおー」

裕1は、カウンターに座り、ゆっくりと、アサヒスーパードライを飲んでいた。

2014.04.06 Sun

植物

植物の名前がちっとも分からない。それから、若い頃って、そんなに草木に興味があったのかしら？ 思い出せないけれど、まあ、年のせいなのかねえー、人間見ているより、樹木とか見ている方が、段々と良くなって来ている。私の敬愛する詩人、作家の富岡多恵子さんの長編小説のタイトルに「植物祭」というのがある。買った時、素敵なタイトルだなあーと思ったけれど、昔の話である。なんだか、分からん文章だよな、これ。

ところで、この記事、実は書き終わって推敲していたんだけど、ツゲの木についてグーグルで調べて、記事に戻ろうとしたら、記事が消えてしまった。結構、長文の記事で、珍しく腰を入れて書いたのに……。村の方には、なんか、本文なしでピング送信されてしまって、さっき、削除しました。思い出しながら、もう一度書こうとしたら、もう、忘れてる、なにを書いたのか……。あーあ。原文は流麗華麗重厚な文体で書かれていたとだけ、おことわりしておこう。この記事は記憶のパッチワークだから、原文とは比較にならないのである。本当かしらねえー？

あっ、ちょっと、思い出した。そうそう、家の縦長の庭の木々の名称。半分以上自分で植えたのに、良く分からないのである。では、手前から行きます。西洋菩提樹。これは、我が家が建てられた1900年に植樹されたはず。その時に同時に植えられたと推定できるのが、ツゲの木とローリエ。あれ、そうか、それ以外は、自分で植えたんだね。葡萄x2。黄色い花の咲く蔓系。低木x3。赤オレンジ色のちょっと細目の朝顔みたいな花が咲く。どばっと咲くから、綺麗だよおー。畑の手前の低木x1。マロニエに似た白い花が咲く。畑の横、梨の木x3。剪定が拙いみたいで、なかなか実がならない。間もなく、畑に、トマト、ミニトマト、インゲンを植える、撒く。畑の後方に、どばっと咲いている黄色い山吹。今が見頃。とっても綺麗である。ツゲの木をもう少し縦長にしたような低木x3。生垣を自分で作ったわけ。その後ろが自宅内のピクニックスペース(なんか広大な庭と勘違いされそうだな、単に長あーーーいだけ)。林檎の木x2。二年前ぐらいに誘引という、つまり、枝を水平に伸ばすように誘導したら、昨年から林檎がどばっ。手前の木はシロアリに幹の根元を食われてしまい元気がなかったけれど、私がシロア리를駆逐。植物性の粘土で食べられたところを埋めてあげて、庭に行くたんびにお話。

「お前よおー、元気出せよなあー、俺がついとるからよおー」と、幹を軽く叩いたり撫でたりしていたら、段々と、幹の太さが二倍ぐらいになった。明らかに、私の声を聞いているのである。このメソッドは人間にも適応可能と推測している。

しかし、右隣のお庭、じえんじえん手入れしてくれないから、私の敷地上空に、どんぐりの木が覆い被さり、ローリエの大きな木の半分が侵入し、なんだか分からん木々がどうどうと飛び出し、蔓系が我が家の石壁の方へ侵入し……。一回、珍しく穏やかにクレームしたらね、逆切れされちゃった。とほほほほほ。変な論理でね、「我々が先に住んでいる。君たちは新参者である。だから、余計なことはいわんといて頂戴」だって。

あっ、そうだっ、もうひとつ書いたんだよ。そう、庭の一番奥に移植した桜の木があったのね。あまりに大きくなり過ぎて、忍びなかったけれど、逆にだからこそ、自分で切ったのです。かなりの巨木を一人でやったから、とんでもない作業になった。危うく、幹の下敷きになるところだったけれど、なんとなく、自宅の桜の巨木の下敷き。吝かじゃないようにも思ったりしちゃったわけね。

2014.04.07 Mon

はい、本日は、フリーブログ。なァーのテーマもない。

「お気に入りブロガーさんたち」

幸いにして、私のその方たちは健筆である。約一名、うわァー、師匠が休筆して居られる。早期の復帰を願うばかりなのである。日ごとの手の震えが酷くなって来ているので、お願い、再度のお願いに伺う所存でございます。このインターネットというバーチャル世界で、私は、諸々(超少数)のブロガーさんの記事を拝読し、本当に少数の方々へは、友情さえ感じている今日この頃。まんざらでもなかったねえー、この世界も。面識なんぞ、やっば、いらんのではないのか！ 文識だけで、十分な気さえしている今日この頃。皆さん、お元気ですか？

大体、面と向かってしゃべっている相手に、情愛なんて、あんま、込み上げてはこない。フィクションの方が、ノンフィクション。倒錯世界が、ずっと前から始まっている。えーとえーと、何年から？ 知るかっての！

「信仰」

信じることは、いいことだと思う。それぞれ、もちろん、なんでもいいのである。たとえば、私が信じるもの。音楽、仲間、友情、マイルス・デイビス、マルセル・デュシャン、草木、高性能の製品、とこんな感じで、あまり、私自身は信じていない。自動車って、信じないと乗れないよ。そうでしょ？ やっば、旦那とかカミサンを、まず、信じないとねえー。それが基本だよ。

「芝刈り」

地面の床屋さん。さっき、やったよ。いいねえー、本当。庭仕事をしていると、雑念が湧いてこない。これが、すんごくいい、のである。すでに、書いたけれど、「裾刈り」ね、これが、ばっちいと、ばっちい。しゃきっとせんのだよ、視覚的に……。家事も、手抜きは、やだね。ってわけじゃなくて、たとえば、掃除機、年に二回しか、あたくしは掛けない、しかし、掛ける時は、それ相当の覚悟を持って、お掛けさせて頂く所存である、と、この気概が大切ということ。

「オジギャグ」

私は、大変に、嫌っていたのだけれど、これはこれで、なんだか「いい感じ」になってきたのは、なぜだ？

編集部、「はい、あなたが、オジサンだからです」。

「重いもの」

うん、いろいろとある。書かない。けれど、書かない。

うん、私は、それをピアノに封じ込めているから。

2014.04.08 Tue

芝刈り

カリスマ芝刈り師。略して、芝カリ。と、相変わらず、くだらない。と、この記事のアップがいつなのか自分でも行方不明。で、4月5日(土曜日)に芝刈りをした。なぜかと言えば、もちろん、少し、マイガーデンがぼさぼさのボサノバし始めたし、わたくし、ピアノの練習のし過ぎで、左腕が動かなくなった。なぜか……。先日の両師匠とのコンサートの後、わたくしは、沖師匠に、「俺のレベルでは、無理です」と、マジなメールを入れたら、師匠から、どばあーとメール。「馬鹿垂れっ、俺が教えたるっ。お前のピアノ、いいところが沢山ある。共演は、止めんぞっ」。師匠からのメールは、すべて、ワードにコピー。なんども読み返し、うるうるした。ジャズジャイアントからの直々のメール。凄いことになっている。それで、猛練習。共演、その2が近付いているのである。肩こりを通り越し、首は回らない、左腕上がらないと、全身腱鞘炎と化した。しかし、ここで、めげない。荒治療。つまり、普段、使っていない筋肉に刺激的な大刺激を与えれば、レザレクションか、病院行きか。と、一か八かの賭けに出た。わたくしの人生って、いつも、こういうことをしている。

で、刈った。そこまではいいのだけれど、石壁および、畑の木製の仕切りの周り。この「細部への拘り」は、絶対的に日本人である。二軒先のお隣の芝は、いわゆる、「丸く刈られている」から。壁際がばっちい。掃除機をこのように掛けている方々、いるけれど、その方の人生観だから、それは、いいのである。でも、わたくしは、ヤなのであるって言うかね、俺が、やる時は、ヤなので、他人は、好きにして頂いて、まったく構わない。なんか、さまあーずの大竹さんに、俺は似ている気がしている。石壁の裾の部分が綺麗になっていると、庭全体が、びしっ、となるわけです。絵の額縁と一緒に、端が綺麗じゃないと、すかん、のだ。おっ、やな、旦那っ？

ちやうちやう、「自分に厳しい」わけね。

で、家の幅五メートル。庭全長六十メートル。これで、すでに、百三十メートルの「裾」がある。畑、花壇の裾を入れると、推定、百五十メートル。しかも、畑部分は、両サイドだから、計百六十五メートル。

と、芝刈り機で刈った後に、剪定用の巨大鋏で、これをちょん切ったっ！ 巨人の星状態になっていた。畑の耕しまでは、力尽き、帰省中の筋肉隆々息子に頼む。わたくしは、ぜいぜい言いながら、鍬で土の塊を割り、熊手で、掻き均す作業。

その翌日、なっ、なんと、肩こりがなくなっていたっ！

セントレイニーホスピタル医師団

良い子の皆さん方に、このような荒治療は、お薦めして居りません。絶対に、真似しないように

。ジェームズ・ボンド「スカイフォール」、悪役が、「君の趣味はなんだね？」ダニエル・クレイグ「それは、レザレクション(復活すること)だ」。こういうの、大好きっ！ 男の子の心意気だぜってよ！

2014.04.09 Wed

これって、陽気のせいなのかも知れない。ここ近々、著しく低下している。のに、毎日毎日、切磋琢磨更新をしている。っても、予約投稿というやつで、腰を据えての思考の果てに搾り出された重厚な記事、こういうものは、当然にしてない。私のブログ、私なりに分析してみると「笑っていいとも化」しているような気がする。でも、あちらは、生放送だった。こっちは録画だね。

私はタモリさんの大ファン。元々、ジャズの先輩でもあるし、デビュー当時のアングラのノリをとりわけ愛していた。デビュー当時はたけしさんより、タモリさんの方が好きだった。三十数年後、お二人ともビックと呼ばれているが、その存在感は際立って違う。おもしろい。現在は、どちらも敬愛している。

タモリさん、芸能界、芸能人、芸人とする、本当に独特なデビューの仕方だし、その位置も、実に特殊。自己流芸、または、素人芸のままプロになった稀なケースだと思うなどど書いているが、某、パリ在住の名前は伏せるが某Yなんぞのピアノ芸も、同じなのでは？ 自己流芸のまま有料化したのだからねえー・・・。

たけしさんの方が、エネルギー、カロリーの消費量が相当に多い感じだし、三十二年間、同じ番組を続けるという感じはない。タモリさんの、あの穏やかな騒がしくない不思議に地味な感じが長く続くコツなのだと思う。あの番組、良く考えたら、私が日本を出たその翌年から始まったのである。うわあー、そう考えると長いねえー。

おっ、私のピアニストとしてのキャラは、タモリさん、たけしさん、さんまさん？
正解は、次号で・・・。なんだそりゃ。ははは、たけしさんである。

あれ、なんかタイトルと例によって、じえんじえん呼応していない。まっ、いいか。あっ、そうそう、この記事のアップ日も分からないので、近々に、ちと、小旅行に出る。紙パンツしか持っていないから、当然、ブログはお休み。一週間ぐらいね。

たとえば、ぐわあーと詩神様にとりつかれた時にのみ記事を書けばよろしい、というスタンスもあるのだけれど、私は中毒系なので、そのほどほどというのがでけんののである。毎日かゼロかと、こういう体育会系の結論になってしまうのだよねえー。なんなんだろねえー？ 間もなく、ブログタイトルも「笑っていてもいいとも」とかに変えんと拙いかも・・・。

2014.04.10 Thu

うちのカミサン、息子、文科系脳。二人とも、なんか、いつも、本を読んでいる。サロンだの、お庭だの、あちらこちらで、本を読んでいる。カミサンは、主に小説。古典から現代作家、前衛と、なんたらかんだらと読んでいる。そのせいではないのだけれど、テレビのクイズ番組の正解率はダントツ。息子は、詩、小説、哲学書とかを読んでいる。不思議なのは、超絶難解な哲学書を推理小説のように読んでいる。これは、謎である。と、息子と娘が我が家に住んでいる時のお話。今は、老夫婦二人なのだよ。と、書いていたら、お庭、たんぽぽの綿帽子の吹雪状態だっ！

はい、俺、娘、理科系脳。本を読まない。俺、ユーチューブ。娘、テレビ。それ以外は、俺、ジャズの和音の分析解体とかやっている。娘、複雑な工学の検証とかをしている。

昔、フランスで自動車学校に通っている頃、一番、最初の先生。「君、体で覚えろっ」。フランスは、初日から公道で走る。生まれて初めて車を運転する俺に、助手席で怒鳴る。「あんたみたいな頭でっかち系が、一番、覚えねんだって!」。二回目のレッスンの後、校長へ、「あの、糞親父っても、俺より若い、あの馬鹿垂れ先生、変えてくれたまえ」。三回目のレッスン。お婆ちゃん先生。

「運転以前に、あなたは、車の機能を把握しなさい。アクセルの意味、ブレーキの意味、クラッチの意味と構造。その意味を理解してこそ、運転は楽しい。では、まずは、ギアの意味から、始めましょう」

ざまぁーみろっての、体育会系教師っ、俺は、交通法規一発で合格。実技二十二時間で一発合格。二十時間がマストだから、ほぼ、最短である。だぁーらよぉー、頭で理解しないと、体が理解しない人種もいるんだぜっての！ よく分かんねえーのは、うちのカミサンも、ほぼ、最短組なのである。その回答……。試験官が同郷だった、以上。痛っ。

2014.04.11 Fri

孤高のピアニスト

首、肩、腕と全上半身腱鞘炎状態である。先日も、主治医にピアノを少し自制しろと言われてしまった。

自制しろと言われても……。神経痛の薬を飲みながら、ピアノににじり寄る。

超絶技巧は、飛躍的に身には付いては来た。それはそれで良いのであるが、音楽にはノリ、リズムと、単に譜面通りであればよしと言う訳ではない。ジャズがと言う訳ではないけれど、その要素はかなり強い音楽である。アドリブ、即興パートが物凄く多いから、家で練習した演目をご披露して、うっしししとは行かないのである。そう言う意味では、かなり、一回性の音楽とも言える。

和音の分解展開、その押さえ方、それを習得し、超高速で澁みなく出来るように肉体訓練をする。そして、師匠からのご教示が来る。ペダル(増音)はないと思え。水平フレージングを出せる限り長く。お前の持ち味であるスピード。その上に成り立つスイング。以前のようなハッター音も大切である。アクションパフォーマンスで圧倒するetcetc。と、びしばしと指示が来るから、自制しろってと言われても……。

なぜに、このように這ってでもピアノににじり寄るのか？ もう、私のブログの総タイトルが、その答えなのである。わっはははははあー、また、会おうっ！ と、ブログもピアノも、ちょっと、お暇を。

2014.04.13 Sun

記事を書いた日と、アップ日が、どんどんと懸け離れて行く。そこまでして、ブログ執筆に固執せんといかんのかつと、言われれば、当然にして、ない。でも、ちょっと前に書いた、はずだけれど、私は、やるか、やらないか、と言う二者選択系なので、書くなら書くっ！ ネタなんぞ、そこいら辺に、ごろごろしている。目線を変えれば、なんでもネタになってしまうし……。なんかねえー、やっぱ、その内、「ブログ更新のギネスブック入り」なの？

この記事がアップされる頃、私は小旅行中のはず。超絶出不精の私と旅行大好きカミサン。私は、「君、脳内を変えれば、それでいいのであって、旅行なんぞの必要は、私は、ない」と四六時中言っているのであるが、首根っこを掴まれて、飛行機に乗り、一日中歩き、見たことのない風景を見て、結局、美術文学音楽感性に大刺激を受けて、ご帰宅するのである。

大体、たぶん、世界一に近いぐらいの出不精なのに、住んだ国、住んだ町、列記すると……。マレーシア、イギリス、フランス、と、すでに三カ国。これ、住んだ国です。行った国、覚えてないよ。えーと、えーと、先記以外だと、スペイン、イタリア、ベルギー。ドイツ、ルクセンブルグ、モナコ……。住んだ町、クワラルンプール、ロンドン、ボルドー、パリ、リヨン、リール……。

あれあれっ？

私は、ピアノとパソコン、四畳半ってな感じでいいのである。脳内で旅しているから……。そうね、書くこと、書いている状態、これって、やっぱ、私には、旅なんだけれど……。

2014.04.14 Mon

ピアニスト

寝しなに、ベッドの中で、いつもの様に、志村けんさんの「ばか殿」を見ていた。いろいろとチャンネルを見たのだけれど、たぶん、ほとんど、見てしまっている。と、急に脳内に「マッコイ・タイナー」という人名が浮かび、ユーチューブった。出てきた。なんか、マッコイ・タイナーおよび、その一流のジャズピアニストの動画集のようなチャンネル。見てみることにした。しかし、正直、布団の中でまで、あまり、ピアノのことは考えたくない。

最初の動画、マッコイ・タイナーのソロピアノ。二番目、キース・ジャレットのソロピアノ。

どちらも、分かり易く書いてしまうと、東京芸大ピアノ科をご優秀なご成績でご卒業系である。東京芸大では、もちろん、ないけれど、アメリカの優秀な音大を優秀な成績で卒業。三歳ぐらいから、ピアノの英才教育。

もちろん、ジャズジャイアントである。素晴らしい。凄い。技巧点は、十点満点で満点。異論はない。と、ここまでは、実に素直に、「おええー、彼らがピアニストということはだね、裕センセはなんなの？」「はい、ピアノの操作員かしらあー」と、ごく普通に感じた。卑下じゃないよ。圧倒的なのである。まあ、フランツ・リストがジャズだと、こんな感じいーという感じいー。

マッコイの重いリズム、重低音、スピード、かつ、完璧だし、俺が世界でジャズピアノが一番上手いのだっ、という存在感も凄まじい。キース、俺が一番感は、とんでもなく出ている。上手い。ピアノのスパイダーマンっ！

で、突然、私がピアニストになろうと十四歳の時に思ったビル・エバンス・トリオの、その思った曲の動画が突然出た。七三頭、背広、無表情。技巧点は、七ぐらい。超絶技巧は、ない。しかし、途轍もなく色っぽい演奏。痺れた。

昔、沖師匠と、リヨン芸大出身者だけの世界的ユニット「アルフィー」について、ちょっと、お話をした。師匠が、しばしば共演しているので。「あー、イサオ、あいつら上手過ぎてさ、辟易しない？」と、おっしゃられたことを思い出す。

マッコイとキース、ビルの後に聴いたら、ピアノでサーカスしている、という感じに印象が変わってしまった。技巧が前面に出ると・・・、やはり、そういう感じになる。

で、裕センセの技巧点は、客観的に、三ぐらい、です。

2014.04.15 Tue

理科系ピアノ

理科系脳という記事を書いた後、その2を書こうとしていた。で、ど忘れ。思い出せないので、放置新聞。で、さっき、家の工事、かなり、上級大工仕事をしていたら、思い出した。この間、3日ぐらい経っている。放っという頂戴っ！ こういうことが、頻繁に起きるのだった！

でね、以前、ピアノという楽器は、理科系向きと書いた。文系では弾けないのか、そんなことはない。

ピアノ。これは音楽コンピュータ。随分な昔に開発された、初期的なコンピュータなのである。一人、オーケストラが出来てしまう、恐ろしいコンピュータ、です。

西洋文化がぎっしりと詰まっている。

暇潰しには、ベストだよ。人生、長いからねえー。

2014.04.16 Wed

狂氣的更新

明日から、小旅行。ピアノもブログもお休み。やはり、星裕馬君にも、こういう時が必要である。一日中、ひたすら歩き回り、食べて飲んで寝る。上半身の筋肉さんたちもお休み。ブログ中毒も治療中・・・。

そこで、溜まっている下書ノ山を整理し、予約投稿へとやっていたら、なっ、なんと、帰ってくる翌々日の分まで書いてしまっている。一週間分の記事が、すでにあった。いつの間にか書いていたんだろう？

もちろん、単に更新すればいいものではないのだけれど、もう、アップ待ち記事がある。結局、休筆はなくなっちゃった！ もう、狂氣的更新と化してませんか？ 読まされる方も大変だっ！ 大好物だって、毎日毎日食べさせられたら辟易する。毎日毎日、伊勢海老なんてやられたら、倒れてしまう。のに、ファーストフード的愚記事が延々と続くわけだから、この辟易度は天文学的。「更新のない日を楽しみにしている読者」という恐るべき倒錯が始まっているのかも・・・。

やはり、少量ながら「有難味のあるブログ」。こっちにしようかしら？ たとえば、突発的に、月に一、二回、記事のアップがある。流麗華麗重厚な記事が、ぽっと、アップされる。皆、嬉し泣きで目頭を押さえながら読む。そのような方向？

ありやりゃー、脳自体を取り替えないとねえー、その場合は・・・。

2014.04.17 Thu

リスボン

ただいまぁー。

今、リスボンから帰ってきました。

リスボン？ ポルトガルの首都？ はい、そうなのですが、私には、フェルナンド・ペソアの国
なのです。ふむ、プログラミングフィールも、ちと、変わるかしんない。変わらんかも・・・
。すいません、不在中のご愛読、深謝致します。

2014.04.17 Thu

日付のあるブログ

今日は、4月18日2014年。

昨日、リスボンから帰ってきた。メールのチェック、来週からのコンサートの打ち合わせ、プロモート等々、やらなければならないことが、山積とまではいかないけれど、いくつかある。ややぼーとしているけれど、ぼーとしたまま早起きをし、今、お気に入りブロガーさん方の不在中の全記事を拝読した。

この記事は、本日の夕方にアップする。予約投稿ではない。アップ待ちの下書きが、まだ、二編あるけれど、後日とした。

やはり、きちんとリスボン、ポルトガル、フェルナンド・ペソアについて書きたい気がしているけれど、旅行の後、消化期間を過ぎないと書く焦点が定まらないから、これも、後日にしよう。現時点では、素敵な小旅行でした、と、そのままの感想しか湧いてこないのである。

フェルナンド・ペソア。日本国での知名度がどの程度なのか良く分からない。ポルトガルでは、国民詩人、作家である。私の考える「作家」に最も近い作風である。「小説家」ではない。ある意味、日記、ブログ的と言っても良いかも知れない。生前は、ほとんど無名の存在でもあった。トランク一杯の詩、日記、覚書のようなものが残されていた。前後があるようなないような。彼の、その書き残したものの、その内容、その書き残し方に、私は魅了されているのである。リスボン、彼が生まれ、彼の思索の中樞を担った町。行きつけの二軒のカフェ。その当時のまま、現在でも、カフェとして営業されている。その内部空間。彼の世界そのものであったとだけ書いておこう。

ポルトガル。2010年のGDPのランキングを見てみたら、38位。もちろん、人口との兼ね合いが大きいので、鵜呑みにはできない。上位は、皆さんご存知の通り、アメリカ、中国、日本、ドイツ、フランス、イギリス……。私が住むフランス。私はロンドンの美術学校出身。ドイツは、比較的、小旅行で行っている国である。ヨーロッパ内の大国に私自身は馴染みが深い。そうではないヨーロッパの国に行ってきたのは、今回が初めてということになる。

メインストリートの建物の外壁でさえ、かなり老朽化していた。町全体のメンテナンスが、パリのようになされていない。財政難が目にもそのまま映る。経済力と言う力を感じない。グローバル化と言う今風の単語もそぐわない。かつての大国であった面影。過去の栄華の郷愁が温暖な気候の中に漂う。ポルトガル人の温厚な雰囲気。身の丈に合った生活振り。なんか私たちとは別の時間を生きているのだろう。心に染みるものがあった。フランス人たち特有のストレス、イライラ、他人の批判、ペシミズム、シニカル、アイロニー、個人主義とこう言うイラついた

空気がどこにもない。

追記

と、ここまで書いて、私は庭の畑に、トマト、ミニトマトの苗を植え、いんげんまめを等間隔に、撒いた。いつもは、娘とやる作業を一人でやった。娘は東京にいるから……。でも、娘が帰ってくる頃には、大きな実がなっているはずだ。そして、ポルトガルの海を見ながら、ヘンリ・ミラーのギリシャ紀行「マルーシの巨像」のことを考えていた。物質文明、アメリカ文明にノーを突き付けた、もう一人の巨人のことを……。ペソアの著作、ミラーのそれ、非常に「ブログに似ている」、このことを、ずっと、考えていた。「小説」と言う人工世界とは違う、随筆とエッセイの間のような書き物……。ミラーのハレーション文体が、唯一、「マルーシの巨像」の中にはない。この謎が、たぶん、解けたのだと思っている。

2014.04.18 Fri

日付のあるブログ2

どうして、このタイトルが浮かんでくるのか、自分でも、少し分からない。ブログの一番下に、日付とアップされた時間が表示されている。

私の家には、文学書がぎっしりと詰まった大きなダンボール箱がふたつある。日本から、三十三年前に持ってきた本と、少しずつ買い足したもの。フェルナンド・ペソアの書籍を探した。それは、すぐに出てきた。私は、本をほとんど読まない人間になってしまったのだけれど、心の中を担う、担っている書籍は、ぎっしりと、ふたつのダンボール箱に詰まっている。十分なのだ。そういう意味では。その直ぐ横に、ヘンリ・ミラーの「マルーシの巨像」もあった。

まだ、出てきたそれを読んではいない。「不穩の書、断章」思潮社。翻訳者、澤田直。

ペソアは四十七歳で肝硬変でなくなっている。たぶん、私の推測では、アルコール中毒と思われる。彼が、生前、ほとんど無名に近い存在であったと昨日書いた。つまり、私と同じような境遇にいたのであろう。実に不思議な感じがする。私が無名に近い存在であること、これは、身の丈に合っている。なんの不満もない。当然の帰結というもので、大した話ではないと考える。しかし、ペソアが同じ状況にあった。これは解せないし、怒りさえ込み上げてくる。どうして？

素敵な表紙の真ん中に、ペソアの書いた一行がある。

「もうずいぶんまえから、私は私ではない」

もし、詩にご興味があり、小説とは違う、文学のエッセンスが凝縮された散文、昨日、書いた通り、非常に「ブログ的な書物」、ペソアのそれと、ヘンリ・ミラーの作品群、非常に興味深いと思っている。日本国に、私の言う「作家」が不在の意味がお分かり頂けるようにも思うのである。文学とは言葉の技巧ではない、と、考える。

2014.04.19 Sat

菜の花畑

私は韻など気にしない。

隣りあった二本の樹が同じであることは稀だ。

フェルナンド・ペソア「不穩の書、断章」思潮社より。

黄色い菜の花畑に、水中眼鏡と海水パンツ姿で、ドボンと飛び込み、クロールで泳いだ。
向こう側に出た。

人間の形の黄色い塊になっていた。

裕イサオ

私は進歩しない。旅をするのだ。

フェルナンド・ペソア「不穩の書、断章」思潮社より。

2014.04.20 Sun

マルセル・デュシャンの代表作。ご存知の方はご存知の通り、通称、「大ガラス」である。

この作品、輸送中に、右下から上の方へ、細々と割れた。で、マルセル、怒ったのか？ 「物は壊れるものです。ヒビがとっても綺麗ですね。偶然の産物。我々の意図が入っていない、自然の産物、私は、とても美しいと思います。前より、ずっと、良くなった」。

この高貴なコメントには、皆、項垂れる。この人は、自我を超越しているのである。二十代中頃から、三十代半ばまで、制作に八年を費やしている。この作品に、彼の思想が凝縮されている。のに、この反応。素敵である。

で、さっき、私も上級大工仕事、つまり、庭のテラス上部の磨りガラスの交換を行っていた。高所恐怖症の私には、三メートル五十の位置での作業、とんでもなく怖い。でも、男の子である。メソメソはできん。十キロ近い磨りガラスを左手で抱えながら、梯子を上り、長さ百五十センチのガラスを設置しようとした。ほんの一瞬、集中力が切れた。私から見た右上、「ぱりiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiん」、割れた。日本円換算で三千八百円が、「ぱりiiiiiiiiiiiiiiiiiiiiん」。私、二十八秒、放心。ミスの少ないわたくしへ、心の打撃。ジェームズにミスは許されない。三十分後、心のレザクシオン。

参った。突然に、美術作品、この割ってしまった磨りガラスで作ったろう、と、思ってしまった。

2014.04.21 Mon

陽気のせいなのか美術脳に、少し点火しているところが、ちょっと、怖い。

最後に展覧会をしたのは、十七年前。ちらほらと、作品を作ろうかなっ、と思ったことはあるけれど、具体的に、どうのこうのはなかった。ピアノの方は、これは、このブログ総タイトル通り、である。小説も、細々とは書いている。でも、美術は・・・。

現代美術家。これは、私がフランスに入国した時の、オフィシャルな職業であったから、そんなに、安易に復帰などはできないし、趣味でやっていたわけでは当然にしてないから、作るのであれば、意味のあるもの。美術史の延長線上にあるもの。つまりは、新しいものを作らないといけない。これを考え出したら、止まらなくなった。

- コンセプト 1 家にあるものを使う 新規にお金は使わない 割ってしまったガラスを入れる
- その2 「視覚的に装飾としても機能する」作品にする
- その3 展示する時に、まず、危険のない形で展示できるものにする

私の、今が視覚化されるのであろう。裕イサオ名で作った作品はないのだから。

タイトル? 「レザクシヨ 11.04.2014」

追記

この記事で在庫はなくなった。冒頭部分、4月12日に書かれたものなので、時系列的に内容が前後してしまっている。削除した。球体に表裏がないようにブログに前後はないとか屁理屈でお茶を濁そうとも思ったけれど、止めにした。昨晚からフェルナンド・ペソアのなんども書いている「不穩の書、断章」思潮社を再読し始めた。前半の断章部分を一気に読んでしまった。八年前に読んだ時の記憶と印象が蘇ってきた。淡々とした読み易い文体である。難解な書き物ではない。しかし、そこに書かれている、その内容は、淡々とした文章の狭間から、ほとんど無限大の宇宙を思わせる。もう、ほとんど、全文引用したい誘惑に駆られるけれど、あまりしつこい引用も、押し付けがましい。止めにした。ただ、その断章形式は、やはり、ブログに似ている。そのせいなのだろう、当然にして、物を書くこと、ブログを書くという行為自体を、嫌でも再考させられてしまう。

2014.04.22 Tue

愚脳の停止

セントレイニーホスピタルH診療室

「国木田先生、人気絶大なる閑散ブロガー、裕一茶夫先生がお見えです」

「あっ、国木田先生、お元気でいてはらへりましたか？」

「あっ、裕先生は？」

「それがですな……。愚脳が突然、停止してしもたやなのでごわす」

「えっ、その優秀な愚脳が？ ですか？」

「もう、頭にオシメして寝ていたぐらいやんすからねえー。それがピタッとピタゴラス」

「ふむ、両師匠との大きなコンサートが近付いているせいなんでは？」

「そんなことははられりのぱたれりです。音的愚脳の方は……」

「って、ことは、ブログのご執筆に多大なる支障をきたしているということですね？」

「先日、頭にリボン付けてリスボンに行って来ましたのや。大衆食堂で、鯛の塩焼きを食べましたんや。ワインリスト、もろうてみましたんや。赤はこれやろ思うたんですわ。二百円と三百二十円としか書いておらんのですわ。量がわからへんから、三百二十円とこ指さして、グランデグランデのビッグワン、ポルファボールのストライクといたしましたんねん。ほたら、赤ワイン一本出てきた。スーパーより、レストランの方が、安いんや」

「ははあ——、裕先生、少し、ブログはお休みなさった方がよろしいようですな。それは、元文学青年系ペソア病です。ストップブログリン、一日三回食後に……。それからホタラミンをお昼に一錠。食後に……。それと、寝しなにポルトをグラス一杯。一週間ぐらい様子を見て、愚脳機能の回復が見られない時は、愚脳自身が治癒したということで、めでたしめでたし」

どうでもいい追記

因みにポルトガル語で「ありがとう」は、「オブリガード(男性の場合)」。何度か、咄嗟に間違えて「アリガトオー」と言ってしまったのだけれど、まったく支障なく通じていたのであった。ポルトガルは日本語さえ通じる懐の深い国と申せよう。

2014.04.23 Wed

義弟

私の義弟、つまり、家のカミサンの妹の旦那。義弟なんだけれど、私より確か八歳上である。三年前に定年。

料理、ガーデニング、大工仕事のセミプロである。フランス人男性、全員とは言わないけれど、比較的多いはずである。私も、セミセミセミミンミン蟬プロぐらいではある。

定年後、なんだか、前より更に忙しくなったんじゃないか、というぐらいに、いつもなんかやっている。風呂場の工事、天窗の取り付け、おトイレのタイル張り、畑の土作り、花壇の手入れ、弓の練習、ウォーキングの会。

先日、久しぶりにイースターだし、お昼でもというのでカミサンと遊びに行った。酒飲みの義理の兄貴(私)が来るのを、毎回、楽しみに手ぐすね引いて待っているのである。午前11時半。ウイスキー、パスティス、シャンパン、ロゼワイン、赤ワイン・・・と二人で飲み始めた。私は、シャンパン、赤ワイン。義弟は、ウイスキー、ロゼ、赤。流石に、ちゃんぽんはお互いに避けている。義妹が台所に立つ度に、どぼどぼとお酒が注がれるから、私たちのグラスは、いつ見てもたぶたぶ状態。空瓶は、いつの間にか、ガレージの隅に行っているから、どれぐらい飲んでいるのか、傍目からは分からない。午後三時ぐらいに、私たちは、テレビを見る振りをしながら、ソファでこっくりこっくり。外には菜の花畑が広がっている。セッションオー————ンっ！

2014.04.24 Thu

二台の車

今、東京にいる娘の車。スズキスイフトDDISのマニュアル黒2012年。そのパパの車。ホンダシビックハッチバックSIだったかしら・・・メタリックグレー1997年。

娘の車、75馬力。パパ、110馬力。

まず、パパの車。なんか、鉄の塊をハイパワーで動かして居りますのデスダスという感じ。左右、カミサンが、中古で買った6ヶ月後にギョわあ————んとやってきて、パパが、素人板金で直したのだけれど、路上駐車中に、あっちらこっちらぼこぼこ。トランスミッションの修理。フロントライトの交換。ブレーキパッドの交換・・・。あっちらこっちら修理の修理。と言っても、そんなに頻繁ではないところが、日本車である。日本人は丈夫なのだ。とはいえ、その鉄の塊ではあるけれど、あっちらこっちらが「よぼよぼ」である。

娘の車。ハンドルの遊びはないし、キョクツと曲るし、ピタッと止まる。フットワーク。で、まず、鉄感がない、アルミとか真鍮のキューブってな感じ。軽い軽い、ビシバシ走っても、ガソリン食わない。軽い軽い軽い、フットワークの塊である。

はい、車は乗り手に似る？

2014.04.25 Fri

セントレイニーホスピタル

セントレイニーホスピタルH診療室

裕「国木田先生、先日、ユーチューブ見とったら、須藤元気が火星にピラミッドあるちゅーねん。ナサの写真まで、入ってまんねん。その時、わしは、気付いたんや……」
国木田先生「イサオちゃん、その、なんだか分からない関西弁のようなもの、止めて、くれない」

「あっ、デゾレ。ドンク、ジェルがデ、ユーチューブ、イリヤピラミッドおマルス、エス癖背ぶれ？」

「よけい、分かりませんっ」

「でね、ふと、気が付いたのですよ、私がね、生まれた時に、実は、その、わっわっわっ、あんまり、重たい言葉は嫌々の山本リンダなのですが、その、つまり、去る、つまり、消滅する日が、その、つまり、最初から、決まっているのではないのかっ！ ということなのです」

「イサオちゃん、そういうやばいお話はブログに書かないでね。KGBに抹殺されるのですよ、我々は……。でも、本当に本当に本

当に……

・知りたいの？ 真実を？」

「国木田先生、目が寄り目になってるけど……。うん、知りたい」

「本当に本当に本

当に……？」

」

「うん」

「イサオちゃん、いいのね、本当のことを言っても？」

「うん」

「ここだけのお話にして頂戴ね、ブログには駄目駄目、KGBに抹殺されちゃうの」

「先生、なんか、女言葉になってませんか？」

「あらっ、やだわ、ちょっと、緊張しているのかしら、あたし……」

「あっ、先生、オカマンベール？」

「ほほほほっ、なに、言わせんでえー。でだな、イサオちゃん、うん、そうなのだよ。私は、担当患者のそれをすべて把握して居る。で、イサオちゃんの、その消滅日時は、2084年の……

」

「2084年？」

「そう、125歳に肝硬変で……」

「俺、55なんだれど……。後、70年？」

「そう、社会的な、そのサクセスは、102歳の時だよ……」

死は、道の曲がり角。

死ぬとは、姿が見えなくなるだけのこと。

フェルナンド・ベソア「不穩の書、断章」思潮社より。

2014.04.26 Sat

つまらない人生

私は、慢性的な鬱病である。朝、起きる。つまらない。なんで、起きなければならないのか、意味を見出せない。つまらないつまらないと言いながら、煙草とコーヒーを飲む。ああ——、なんて、つまらないの。と言いながら顔を洗い、歯を磨く。ちゃかちゃかと台所を片付け、庭の草むしりをし、芝刈りをし、はあ—はあ—言っている。なあんてえ—、つまらんのだ、人生はっ！ 昼食の支度をする。なんで、私は、食事をするのだ？ などど、暗い想念に囲まれながら、ソーセージと卵焼きとスパゲッティーとグリーンサラダ。つまらんつまらん……。最上階のホールに梯子を掛けて、チャップリンみたいな格好でペンキ塗り。うわあ——、つまらん人生と言いながら、一服してピアノの練習。なあ——————————んて、つまらんのだっ、と言いながらピアノを弾きまくる。

十分に、詰まってねえ—！

ペソアの断章では、「死は、道の曲がり角みたいなもの」とのこと。で、俺の、その道を見てみる。横道がねえ—。真っ直ぐ、天国だか地獄だか、雲の彼方まで、真っ直ぐなのだ。「死は、単に、姿が見えなくなること」と言うことは、俺のケースは、その突き当りの、雲の方ってことかよお——、長げえ——————！ 鬱君、仲良くやろうぜってなっ！ はははっ、俺が見えなくなると、おめえ—も、見えなくなっちゃうんだよっての！

あ——、つまんないねえ—。

2014.04.27 Sun

ackenbush。パリの南近郊Malakoffにある素敵なコンサートホール。ミュージシャンにとっては、「いつか出演したいなあー」という場所である。建築家Benoit SPINGAさんとAnne TAYEBさんがアソシエーションとして運営なさっている。その素敵な場所に、私の両師匠とのトリオで出演してきた。裕イサオ、佐藤真、沖至。

沖師匠のここ近々のアドバイスは、「増音ペダルは、もう、ないと思え」、「ホリゾンタルフレーズを出来る限り長く」、「昔のようにハッター音、アクションで聴かせてしまうのも必要」等々。当日の指示は、「各自がソロしている感じで、絶対に合わせるな」。

私は、生意気なわりに、非常に素直で真面目人間でもあるから、師匠の指示を相当忠実に守った。

この日の演奏は、ノーカットでユーチューブの私のチャンネルへアップした。七十五分と結構長い動画ですが、もし、ご興味のある方は、ご覧下さいませ。最後に、一曲だけ、フランスジャズピアノの大御所François TUSQUESがゲスト出演してくれました。あー、恐ろしいー！

それで、この日の私の演奏を自分で聴いてみた。ずばり、四十歳の頃の演奏に良く似ている。満員御礼だったお客様方、コンサート終了後、なんかいつになく興奮している感じが伝わってきた。何人かに日本語で、「すごい」と言われた。この日本人だけのトリオ。三人が固まりになって音が出てくる。この固まり感に圧倒されたとも言われた。うん、今回の企画は私が立てたのだけれど、やはり……。狙い通りであった。このコンサートのタイトルは本来は「日本ジャズ」となっていたのだけれど、真師匠から「イサオ君、俺たちが日本人である。十分じゃん。どう思われるのかは、お客さんの判断だから……」。結局、三人の名前だけにしたのである。

2014.04.28 Mon

ピアニスト裕イサオの全貌

ちょっと、仰々しいタイトルにしてしまった。さっき、69本のユーチューブ動画の整理をしたのである。ブログ記事は、確か、これで511のはず。まあ、私のブログと私のピアノは、当然にして少し似ている。ブログほどではないにしても、ピアノも複数の音体があるので、その傾向ごとに再生リストを作成したのである。ピアノソロが好きという方、私は、シンセサイザーが好きと、当然、聴かれる方々の好みがある。いきなり、どばっと69本では、わあちゃーーとなるので……。裕さん自身が好きという女性ファンの方々は、名乗り出るように。

「ピアノソロ」 ピアノ好きの方へ

「即興ピアノ」 フリージャズファン向き

「ピアノソロライブ」 フリージャズファンおよびピアノマニア向け

「シンセサイザーソロ」 あはははははあー、私はこれを良くBGMとして聴いているのである
まっ、商業ベースの音楽かしら？ 今も、それを聴きながら書いているのだ 我ながら、格好いい あっ、音だけ聴いているせいもあるかもねえー ワールドオーダーなんかが出てきて踊ったら、超格好ええー

「詩」 もちろん、詩にご興味ある方へ

「グループでのライブ」 これは、相当長時間なので、筋金系フリージャズファン向けです

「リールの仲間たち」 マニアック向け クラシックギターの名手クリスチャン・バツサー
ルは、彼のチャンネルの方をお聴き下さいませ 素敵なギター演奏が沢山入ってます

以上、豊かなシニアライフをお届けするスピーダーマンレコード有限公司がお届け致しましたあー

「裕イサオ インタビュー」 by スイング邪頭、下田記者

「裕さん、この度は、ユーチューブ、再生リスト作成おめでとうございます。既にユーチューブのオフィシャルパートナーでもある裕さんですが……。いかがですか？ 出来栄は？」

「下ちゃん、ずっと、お座敷掛からないから拗ねてたのよおー、うで、脛齧ってたの、世も脛ねえー、なんちゃって」

「裕さん、そういう古いギャグ、止めて頂けません？ 大体、シンセソロの再生リスト、映像なしで聴いていると、三十五歳ぐらいのイケメンのシンセ奏者にしか聴こえません。だっ、だからこそ、そのようなギャグは……」

「きゃははは、そうなんだよおー、下ちゃん。あのさあー、フランスの天気予報のおばさんに、ブリジット・シモネットという方がいらした。きゃははは……。うで、おめえーは映像がない方がえいぞおーというとるわけな。しくしく。そうなのよ、下ちゃん、憂いの横顔といえは格好

いいのだけれど、よぼよぼの横顔、出さん方が打算的よね」

「羽毛っ、裕さん、オジギャグ、いい加減にしてくださいよっ！」

「まっ、下ちゃん、そう、カッコしないです。うで、出来栄えねえー、まっ、その三流の親しみやすい感じはあるよね。大体さあー、一流のピアニストってさあー、ターミネーターみてえーでよおー、サインなんかもらう気せんじゃん。うで、俺みたいな三流になるとよおー、親しみばっかでよおー、サインなんてもらう気せんのだ。ほれ、メビュウス現象。結果は一緒じゃけん

なあー」

「なんだか分かるような分からないような・・・」

「まっ、見てくれと一緒にようおー、超ハンサムなんて、飽きるのだよ。俺みたいに2.7枚目ぐらいで、丁度ええー」

「そうですねえー、裕さんがジェームズ・ボンドやってもねえー、手拭で前隠してモナコの手海へ・・・」

「じゃかあーしいー、下田っ」

「あっ、言ってしもだ」

まっ、私の動画見て聴いて、暗くなる方はいないと思いますよ。えっへん。へっ、これから、夜の職場へ。

動画70作目を記念して作ったプロモートビデオ。1分39秒。フリーズジャズ狂向けです。私の全盛期、15年前ぐらいの演奏に感じが似ています。

2014.04.29 Tue

日本ブログ村のエッセイ・随筆部門の参加人数、619名と表示されていた。私の印象では599---620ぐらいの間を変動している。二十名ぐらいの方々が退会、入会をなさっている計算になる。私も一度、短期間だけ退会したことがある。閲覧数が3なんていう日が続き、流石に嫌になり、なんとなく「酔った勢いで」退会してしまった。

参加なさっている方々の中で、私のような「更新狂気」の方は、それほど、多くはないと思う。私のような内容のない記事を単に更新する。ある意味、愚の骨頂でもある。なんだか、四六時中、パソコンの前でブログを書いているのではないのか？ という錯覚を与えかねない。実際は、なんとなく、週一、二回、ピアノの練習の後に、気持ちが高揚して、パシパシとパソコン。その前までピアノの練習をしていたし、私は日本語直打ちだから、愚脳を全開させると、わんさかと凄いスピードで書き捲くる。五つぐらいの記事を一挙に書いてしまい、後は暇をみて予約投稿。そして、私自身がなにを書いたのか忘れてしまっている記事が毎日更新される。いいのか悪いのか？ 私にも判断が付かない。

私が勝手に「兄貴」「ブログ師匠」「ブロぐる文学振興会会長」と呼ばせて頂いている久保はつじ(曝脳雑記)兄貴。3月29日の記事を持って消えてしまった。久保の兄貴の天才的多面体ブロぐる文学ブログとの出会いは、以前にも書いた通り「酔った勢いでブログを書いてみた」(2012年12月2日付け記事)を注目記事欄で発見して依頼である。それから毎日、爆笑したり感動したり考え込んだりと兄貴の記事を楽しみにしていたのである。第一、兄貴との出会いとなった記事のタイトル、それは、そのまま、私のブログに当て嵌まる。ピアノの練習および赤ワインちびちびの、その勢いで記事を書いているのである。たぶん、一つには音でパッパラパーの脳味噌に、あっ、やばあ——、このままでは脳禁治産者じゃん、ちと、言葉を注入・・・、という自己治療の要素も多分にある。

そして、その原動力になっていたのが兄貴のブログだったのである。早期の復帰をお————、兄貴っ！ でも、この私の記事、読むことができる環境、状況なのかしら……。パソコン、ブログは二の次なので、お元気でいらっしゃれば、まずは、よしと考える。けれど、禁断症状が……。

2014.04.30 Wed

フランスにアリエル・ドンバルという女優、歌手がいる。年齢は非公開なんだそうだけれど、六十半ばのはず。かつて、世界一の美女とフランスでいわれていた。で、現在も、宇宙人なの？ というぐらいの美女である。二、三年前にクレージーホースでヌードダンスまで披露しているから、とても、地球の人とは思えない。まあ、うちのカミサンにいわせると、美容整形、整形美容、四十六時間ポディービル・・・でしょ、だって。整形しているのかは知らない。していたとしても、元もとの土台が相当いいはずである。で、整形って、日本の芸能人は公開しながらないらしいのだけれど、別に本人の顔、体を本人の意思でいじくってんだから、とりたてて隠すこともない。顔をいじって、心まで美男美女なら、いいんじゃないのおー。と思うのである。

アリエルの先輩に当たるのが、カトリーヌ・ドゥヌーブ。ドゥゴール空港で、そうとは知らずに、スーツケースをカウンターまで運んだことは、随分前に書いた。やはり、宇宙人的美女であった。けれど、最近の映画、しがないおばちゃん役に、彼女は挑戦している。新境地というやつで、絶世の美女系は役柄に限界がある。カトリーヌ、見てくれのせいとか、とつき難い、けれど、テレビのインタビューを見ると、愛煙家の酒飲みの気さくなおばちゃんであろうと推定できる。そのおばちゃんの外見が絶世の美女、だから、逆に本人が大変なような気がする。

シモオーニュ・シニョレ。イブ・モンタンのカミサン。デビュー当時は美女で売っていた。晩年、酒煙草でぼろぼろのしわしわ。でも、なんだか、泣かせる女優さんだった。しわしわぼろぼろ。これは自然の経緯であって、女優だからこそ、私は、そのままでいいのだと思っている。そういう職業なのだ。俳優とは。柄本明さん、なんともいかしている。俺？ ジャズ屋が整形？ 土台がいいから土台無理だぜってよ！ 渋みがでないのって、お金ないから・・・。
はははっ・・・・・・・・・・はあーーー？

2014.05.02 Fri

はい、今晚は。今、こちらは午後の九時半。本来的には、ぼちぼち、志村けんの動画でも・・・という時間でありますが、昨日「も」コンサート。ちょっと、立て込んでいて、脳がへめらも。そんなに、毎晩、ジャズ神様に取りつかれての名演奏とは、普通はいかないけれど、私は、また、私の共演者、皆、真面目人間だから、そうは蒲団やさんが卸さない。で、やっぱ、皆、へめらもになってくるけれど、皆、真面目だから、毎晩、ジャズ神様に取りつかれる。そう、毎日、ベスト演奏をやっているわけで、日常脳がへめらも。うで、昨日のコンサートの動画編集、つまり、レジスター中で、パソコンの移動がでけんから、うな、ブログ記事書えちゃえとなった。うで、ピアノの前に座っている時だけ、しゃきっ——。離れると禁治産者の好々爺。でれえ——ん、ピアノ、しゃきい——、好々爺、ピアノ・・・。仕方がないので、庭の「草むしり」じゃなくてね、「タンポポむしり」をした。うちの庭、芝君より、苔君、蒲公英軍団に侵食されていて、芝生なのか苔生なのか、蒲公英のあのぎざぎざ葉っぱの邪悪な敷物なのか、判別が付かない。

おお——、邪頭と蒲公英は似ている。

解説 はい、裕センセはですね。タンポポの可憐な黄色いお花の下の、ぎざぎざで厚ぼったい宇宙服みたいな葉っぱと、地中深く侵食している根っこ綿帽子がですねえ——、ジャズ菌に似ているとのたもうておられるのである。あっ、昨晚、サンラザール駅終電の窓越しに、Xマンの広告が、上下に移動しているのを、ぼお——と、裕センセは見ておられた。脳内は、空、であった。

2014.05.03 Sat

インスピレーション

やはり、ユーチューブの再生リスト=カテゴリ整理をして良かった。再生リストごとに、一枚のCDのように聴ける。シンセサイザーソロをまとめたリストは、もろ、BGMとして聴けるし、ピアノソロ集は、自分で聴いてみても、下手なりの味わいはある。プロにも、やはり、一流二流三流とあるわけで、私は、2.7流ぐらいの感じ。まあ、それはそれで悪くはない。フリージャズ、即興系は、ちょっとマニアックなファンじゃないとしんどいと思うけれど、そっち系の方が聴くと、もしかすると、1.7流ぐらいに聴こえるかも知れない。元々、ピアニスト裕イサオの持ち味は、「暴力的エモーショナル超絶スピード」とこんな感じが売りだったから、シンセとかピアノソロを元々のファンの方が聴かれると、「おりゃ?」「上手くなり過ぎ」「丸くなり過ぎ」「商業主義」「墮落退廃」等々のシビアなご批判を受けちゃったりもするのである。しかし、「寄る年波」はジャズ屋にもくるから、ごめんちゃい。自然には逆らえないのだ。

しかし、まったく、インスピレーションなしでピアノを人前で弾けるのか？ 弾けなくはないけれど、私の音楽の性格上、それをすると非常にいかさない演奏になる。つまり、「芋」と呼ばれてしまう。これは、やっぱ、致命的だから、インスピレーションを搾り出す。本当に、コンサートが立て込んでくると、雑巾を絞っている感じになってくる。「ああ——、庭の草むしりをしたい。ジャズ屋なんかになるんじゃないなかった」などと、好々爺ベクトルの方に行こうとする気持ちをひっ捕まえて、「おいっ——、待てえ——、演奏演奏お——」とセルフ鼓舞。そして、ぎゅっと絞る。コンサート終了後、もぬけの殻状態と化す。しかし、フリージャズ界の花形満。「うお——」と中一で立ち上がる。昨日は、流石にピアノを弾く気になれず、庭仕事に精を出した私。

フリージャズなんちゅう不定型の音楽をやるから、こういうことになっちゃうわけね。でも、定型という鑄型に嵌められちゃいたいなどと言いながら、絶対にそうはならん人種もいるのである。げっ。

2014.05.04 Sun

さっき、ユーチューブの動画の管理画面を見ていたら、「動画のプレを直しますか？」の表示。「はい」をクリックしたら、オリジナルと変更後のプレビュー画面が出てきた。「あれれれれえー？」、コンサート前の雑談風景。「わっちゃー、やっ、やばあー」、オリジナルビデオ自体をアップしてしまっていた。ミュージシャンの名前も、なあんもなく、いきなり、コンサート前の雑談、セッティング風景。まあ、別に、映っていても差し障りはないけれど、やっぱ、背広姿なのに、ズボン穿くの忘れちゃったあー、僕、という間抜け感は拭えない。良かった、ベースのヨラムが見ただけだったから、直ぐに、編集後のやつと差し替え中。

私は、あんまり、そういうちょんぼをしない方ではあるけれど、たまには、やはり、ある。よねって。

と、読み返したら、なあーんか、本当に、どうでもいい記事である。雉は食べられるけれどねえ。で、その差し替えたやつを聴きながら、これ、つまり、追記している。やっぱ、格好いい。そりゃそうだって、ジャズジャイアントとその卵みたいな三人に囲まれて弾いている。格好良くねえーと、俺が、やばいって！

ここに、ジャズの名句を刻ませて頂きたいと思う。

芋 一人

おっわあー、字足らずだけれど、芋=いかさない最低ジャズ屋。これになると、やばいのだっ！大丈夫、クリアーしてる、俺。この下の動画は、ジャズ狂でなくても、いける感じ。ちょっと、覗いて頂戴っ！

2014.05.05 Mon

今日は、5月5日2014年であるのであるけれど、下書きが後二編あるから、予約投稿をしようかしら、と、一瞬、思いつつ……。まず、天気が最高に良い。夕方なのに、外気温22度。人間という動物の理想的な気温なのである。脳には、どうかしらねえー。南国の人にぶっとばされそうだけれど、重い重い重い物書きは、寒い国方面に多い、という印象。じゃ、ボルヘス、ガルシア・マルケスは？ と聞かれると、やはり、ごめんなさい。おおー、フェルナンド・ペソアもいる。すいません、撤回致します。お辞儀。と、つまり、関係ないみたいねえー、外気温は……。そうかあー、私が、東北生まれの東北育ちだから、思い入れちゅー、やつだね。

はい、それでね、500を超えたブログ記事をどうしようか？ またまた、考え始めた。「未分類」だけでも、320もある。読み返す気力と、そもそもの意味があるのか分からない。どうすっぺかなあー。でも、書き流しも、やはり、？ なのだ。

先日、ユーチューブの動画の整理をした。またまた、シンセソコを聴きながら、これを書いている。これは、まず、作者の私自身が便利である。書きながら、音分析をしたりしているのである。脳の隅の方でね。で、ついでに、使いこなせなかったのか、私の安物パソコンのせいなのか、きちんと機能しないまま放置していた「ピナクル」という映画ソフトを、再インストール。再トライだね。

だから、このブログ記事の整理、どうすっぺえ。カテゴリーごとに、電子書籍、無料のやつにすっぺえかな、とか、考えてんだけど……。そして、結局、最初の問いに戻る。私はミュージシャンだから、本来的なブログは、その宣伝、でしょ？ なのに、私のブログは、なんなのってのっ！ うん、おっ、ブンガクかよおーって！ マジすかあー、となる。この記事のタイトル自体、なんなのっての！

2014.05.06 Tue

今日は日曜日。といっても、相変わらず予約投稿野郎と化しているので、日付は書かない。5月初め、ね。コンサートも一息だから、カミサンとセーヌ河畔をお散歩してきた。っても、パリじゃねーよ、田舎の方のセーヌ川。お天気いいし、セーター姿で、ちんたらちんたら。私の家から、30キロぐらいのところだけけれど、地図をみたら行ったことない所があった。ビューポイントマーク、しかも、セーヌ川つき。絶対に、外れないことは知っているから、昼食後行ってみたわけです。「おおーい、写真写真写真入れて頂戴っ、愚文はいいからあーい」という読者様のお声が聞こえてくるけれど、写真駄目人間なのです、ごめんちゃい。華麗なる文章でカバーしちゃうから、ゆるちてね。あっ、だれかの文体だっ。

では、本日は、華麗なる随筆と致そう。

わしは、家内のちよとセーヌ河畔を着流しで歩いてきた。ほんの少しのところに、中洲が見えた。中洲にむかって太鼓橋が架かっていた。ちよとわしは、その太鼓橋を渡った。フランス語で「ポピエテプリベ」と書かれていた。豪邸らしきものが、芽吹いた若葉の狭間から垣間見える。

「あら、ポピエテプリベ？ 徒歩ならいいのでは？」

「ちよ、この厳重な警備をみなさい。ここから先は、お金持ちの方々の土地なんじゃろ。警備員が、あっちこっちにおるのじゃろおーて」

わしは、ちよとふたりに引き返す。ふと、対岸から覗いてみようという助平心が、わしの中に芽生えた。

対岸のベンチに座り、その中洲をちらちらと覗いてみた。一軒ではなく、複数の家があることが分かった。庭で談笑する人々。川岸に向かう階段の横のボウト、バアーベエキューの臭い。

「ほほおーい、金持ちは、どこにでもおるのじゃのおー」

裕先生、すいません、オチ早くしてもらえませかあーい、忙しいんだからっ！

「あっ、ごめんごめん、今日、いんげんの芽が出たわけ。4月18日に蒔いたのだけれど、いきなり、寒くなって雨雨でねえー、心配してたの。よかったあーい」

本文の意味って、なんか、あったんすかあーい？

「あっ、ごめんごめん、豪邸って、掃除大変だろうねえーって、カミサンと話したわけ」
その、豪邸にお住まいの方は、自分では、なさらないのでは？ 「えっ、そういうことなの？」

2014.05.07 Wed

来賓祝辞

えー、本日も、ご来店、誠に誠に、ありがとうございます。えー、裕イサオ君の愚ブログ記事も、鬱陶しいことに500記事を突破致しました。この鬱陶しい切磋琢磨にご来賓の方々より、お祝いのお言葉を頂戴致したく……。では、裕君の小学校時代の校長先生、二ノ宮先生より、お願い申し上げます。

「えー、裕君は、小学校時代より、学業スポーツ人格と、なにをとっても金太郎飴のごとく、一番でありました(半分本当の話)。しかも、それを一切鼻に掛けず(しっかり、書いているのに?)、低姿勢謙虚なお人柄(単にお金がないから、そうなる)は、このブログにも、むんむんと出ているのではないかと……(むーんむんむーんむん、イサオちゃあーんだよおー)。わたくし、当時の校長と致しましても、この子は日本国の未来を変えるのではないか、偉大なる人物に間違いなくなる子だと、確信して居りました(大袈裟ねえー)。ないしは、その美貌(わっははは、自分で書いているから、いいのだ)をいかし、映画界に旋風を巻き起こすのでは……。などど、一人むひひひひとほくそ笑んで居りました。しかし、あらまっちゃん、しがないピアノ弾きとなられ、失望の念を、わたくしは禁じえないのでございます(ここまで大袈裟ではないにしても、そういう風なご意見は多々あると推測している。げっ!)」

「はい、ありがとうございました。それでは、元虚人軍監督横島重雄様より、お言葉を」

「あーー、裕君は、そうね、野球部時代の、そのなに、統率力っての? スンバラしかったねえー。その運動能力および閃きプレーは、まっ、イチロー君が出る前だったけれど、それを彷彿とさせるものがあったのにねえー、しがないピアニスト? わけわかりませえーーんねえーー」

「それでは、お茶山賞作家、三島由紀子さんより、お言葉を」

「はい、裕さんは、そのおーー、初期の頃の著作を読ませて頂くと、日本文学の地平を変えるのでは、という、かすかな予感に、わたくし、打ち震えて居りましたが、三十代半ばに、ジャズピアノを始められてから、お笑いおちゃらけ文へと移行なされましてえー、それ以降の……。ちょっと、わたくしには……」

「はい、ありがとうございました。それでは、ジャズ評論家の内股先生より一言」

「えー、イサオちゃんのミュージックは、ヘタウマ」

「はい、ありがとうございましたあー。それでは、共演者代表として、ジャズドラマーはまへりさんより、一言」

「イサオちゃんのヤノピ、最高よっ! ふんっ!」

異常を餅まして、宴会も竹縄、実況中継をこの辺で……。この放送は、豊かなシニアライフ・スピーダマン・レコードおよび弛んだお肌に優しい健忘、元気澆刺ナナミン製薬の提供にてお送り致しましたあーー。

2014.05.08 Thu

あー、びっくり

先ほど、調べ物があり「裕イサオ」をグーグル検索していたら、あれっ、ある方のブログが出てきた。その方の記事の中に、私の名前が出てきているので、グーグル検索エンジンにヒットしたわけである。当然にして、「あー、私の愚ブログへのご不満か、またまた、賛辞か・・・」と思い開いて見た。あらまっちゃん、私の某記事が、全文出てきた。こういうことがあることは、他のブロガーさんの記事にも出てくるので、「あらあー」と。

私の率直な感想は、「なんでまた、私の愚記事を・・・」。なんとなく、その全文掲載してしまいたい誘惑に駆られたということなのだから、なんとなくこそばゆいし、嬉しい気もしなくもない。でも、ちょっと、理解に苦しむのは、私の記事の中に、「わたくし裕イサオは・・・」という件があるから、ここの部分をそのままにしていると、「裕イサオ」の検索エンジンに引っ掛かるわけだ。

そのブログは、ランキングサイト等へ参加しているものではなかったし、地方都市のコミュニティーブログで、私の名前さえなければ、私の目には留まらなかった。

まあ、大した記事でもないし、抜粋、引用、全文掲載、私自身は、それほど目くじらを立てるほどのことだとは・・・とも内心思いはしたけれど、「しかし」と思い返した。私だって一端のブロガーだと思えば、やはり、「いいんじゃない」という反応は無責任過ぎる。全ブロガーさんのスタンスにも、微小ながら波及すると急に、昔の中間管理職の感触が戻ってしまった。

そして、さきほど、お願いコメントを、そのブロガーさんへ送ったのである。

「私の記事の抜粋、引用、全文掲載は構いませんが、出典は、明記願います」と、要点はそれだけであるけれど、そのブロガーさん自体のブログの継続に支障をきたすことがないように祈るばかりである。

2014.05.09 Fri

老化とピアノ

「裕君、また、馬鹿な記事書いてえー、老化に立ってなさいっ！」

「はい、先生。っても、もう、ずっと前から立ってるけど・・・」

「う？」

この記事のタイトルの、真ん中の「と」を取ると、一体なんなの？ となるので、一応、「と」を付けた。

なあーんていうのは、本意ではない。私は老化しているがピアノ「だけ」は進化しているのである。正確には、私の、つまり、裕イサオ君のピアノ演奏は、確実に進化している。

でね、小山ながら、ピアニスト人生の、その最盛期ってのが、やっぱ、ある。第一期は、三十代後半。二期は四十代半ば、うで、はっははははあー、今だっ！ で、私自身は確実に老化現象。でも、こちらだけ、高度経済成長。やはり、高齢化社会に裕センスは、絶対に必要と分析しておるのであるのである。「明るい初老のプロトタイプ」、どうだねって！

小山君1 三十代後半

なんだか、ぎんぎらぎん。人前で弾くのが楽しくてショウガナイ。もてもて(だったような気がしている)。自己顕示とナルシスの藤原の塊。じえんじえん、ジャズ理論など知らずに、「俺は世界一だっ」と、本当に、半分(以上)ぐらいは思っておった。飛び入り出演とかも、やたら、やった。この頃の演奏は、カセット、少ししてミニディスクとして結構残っている。たまあーに、聴いてみる。下手といえはそうだけれど、なんか、その熱い思いがそれをカバーしていて、それなりに聴けるのである。当時から、指だけは、やはり、速かった。

小山君2 四十代半ばだったと思う

やっぱ、行き詰る。出鱈目の限界がくる。元々理科系だから、ちと、ジャズ理論を覚えよう。いつものパターンでね、以前書いたけれど、たとえば、フランス語、結構、へらららべららら状態になってから文法書を読み、「なあーる、ほどおー」と「後で理解する」という裕センスの突撃学習。うで、ついでに、老いの繰言、以前書いた、これも、あんたは、なぜにフランス語を習得したいのじゃ？ はい、ナオン(女)を口説くためであるという数式が成立するのだけれど、答えが出る前に、もう、口説いている。というわけ。ジャズの理論書を買って、読み捲り分析した。「おっ！」。私の座頭市ピアノは、なっ、なんと、ジャズ理論上、出鱈目ではないことが判明したのである。これには、自分でも驚いた。音感と手探りだけで、モード奏法をしておったのである。天才っ！ といいたいけれど、そうではなくて、ず

っと聴いていたジャズ音を指さんたちが、ピアノ鍵盤上で探っていたわけである。十四歳の時から聴いていたから、脳と指さんが、なんらかの音を蓄積しておった模様。で、理論を習得し始めたら、演奏がぎこちなくなった。おもしろいのだ、この現象。

小山君3

おっとお——、「今」、なのだよ。自己顕示欲、ふむ、あんま、ない。これは、あまり良いとはいえない。職業柄、「俺が一番」とか「俺の音楽を聴けっ！」とか、こういう鬱陶しい心のベクトルは必要である。けれど、実際、あんま、ない。人様に是非是非、お聞かせ、全然ない。これも、あまり良くない。コンサートの予定表を見ても熱くならない。立て込んでくると、「げっ」などと内心思ったりしている。なのに、弾いちょる。ふむ、ほとんど、「自分のために弾いている感」が、やっぱ、強い。これを、やっぱ、「孤高」っていうのでねえーべかって！

と、1から3の心の位置、じえんじえん違う。やっぱ、心の老化なの？ まあ、そうなのかも知れんが、ピアノを弾くこと、コンサート、絶対に止めることはない。ピアノの技術の進化、もう、これ自体が、私の人生っていうことなだからねえー。ブログは書いても書いても進化しない。どきっ！ ああ——あ。

2014.05.10 Sat

と、いう訳ではないけれど、「ブログを書く」、ちょっと、飽きてしまっている。今見たら、この記事の番号が519(記事在庫ゼロ)。その内、カテゴリー分けされていないBlogger時代の記事が320。私は、整理整頓系、同じことだけれど几帳面系だから、「この未整理」というのが気になる。ユーチューブの動画はカテゴリー分けをし、カテゴリーごとに再生リストを作成したから、今度はブログ記事が気になりだした。それと、原稿用紙三十枚でストップしている「小説 シニアマン」、こっちも気になりだした。やはり、記事ではなく「作品」、出来が悪いにしても晴れ姿の作品であるから、執筆推敲の集中力はまったく違ってくる。

書くこと自体は楽しいのだけれど、別にブログである必要は、やっぱ、どう、分析してもない。じゃ、詩を書こうっても思わない。それぞれの中にそれがあればいいし、ない方は、別になくても日常生活が円滑であれば、ノープロブレム。

おっ、考えてみるにピアノを弾けない弾かない方々の人口の方が多いであろう。ブログ、小説、詩と、これも一緒であろう。要は、なくたってなんの支障もないもの。少なくとも白物家電の方が、ずっと、必要度便利度は高いのだ。「ちょっと、はっつあん、なに、三キロ先のセセラギ川までよ、冷やしビール取りにいー、いっちくれんか?」、やはり、不便だ。

と、私の心は秋の空ってな訳で、またまた、ちょっと、過去記事整理方面へ……。たまに、新記事? などと、揺れ動きつつ、

やはり、ここにブログの名句を刻みたいと思う。

更新を 育てる

よおーっ！ 自分で拍手っ！

2014.05.11 Sun

ピアノ狂との再開

羽毛っ！ ブログは、昨日の記事で、ひっそりこっそりと、週二回更新などと、思っていたら、私の記事の完コピが目に残ってしまったり(全然、そのブロガーさんに他意はありません。ブログ、続けて下さいね、出展明記してもらって、ばんばん、行って頂戴、私の愚記事に関しては・・・)、励ましのコメント、ちょっと、字が違うけれど、頂いたり(うんうん、ブログはいいよおー、うんうん、イイヨナオジサンで返礼)、それから、ぐっぐっていたら、一年半前にコメントしたブロガーさんから、知らぬ間にご返信、しかも、リンク付き。こちらは、ご無沙汰モードになっていたのである。すかさず、りんくるくるしてしまった。

私は、もちろん、ブロガーさんたちでも、その、わたくしの更新力の原動力になって下さっているブロガーさんは、愛おしい。うんうん。それから、この楽器奮闘記、とりわけ、ピアノは私の問題でもあるから、これについて書かれているものは、愛おしい。むしゃむしゃと読んでしまう。

で、そのブロガーさんの性別も年齢も、じえんじえん分からないのだけれど、書かれている内容は、ピアノ弾きだから、よおー、分かる。そして、裕センセのちゃらちゃらブログを読むと、「ピアニストであることの大変さ=楽器の習得が、いかに大変か=日々の努力および理論の把握、その理論を体に覚えさせる=切磋琢磨=人には言わない努力の結晶=涙ぐましい日常=巨人の星的バックグラウンド、つまり、尊敬に値する、その人格」は、まったくもって、またたくまに、木村拓哉であるから、その真意は暗喩と隠喩と隠微の彼方・・・。この方のブログを読ませて頂くと、私自身が、おおー、そうだそうだと「再」理解をする。先ほど、全記事、拝読致しましたあー。はい、本文、右下、23.221cmの辺りです。

2014.05.12 Mon

宇宙戦艦トトマ

「今オキタ艦長、準備が整いました」

「ふむ、主役の木村君とメイサちゃんも、ちゃんと、乗ったってことね？」

「はい、しかし・・・」

「なんだ、下田」

「警備室の話だと、木村君とメイサさんが、二度、乗船している・・・」

「勘違いじゃろって」

「いや、そのですね、二回目の木村君はすげえー老けていて、メイサさんは、ぎよわあー、しっ、失礼を致しました。親馬鹿の背中にいー、小馬鹿を乗せてえー、はい、艦長っ、二回目の方が、もっと、さらに、綺麗だったっ！」

「はあー？」

その頃、木村拓哉になりすました裕イサオは、宇宙戦艦トトマのプログラミングの再編成をしておったのじゃ！ その時の、映像じゃ！ 裕イサオ、英国重宝部員007、コードネーム、zzja。

2014.05.13 Tue

当初は、ブログ記事として書いた、訳の分からないSFもどきの記事を、推敲して原稿用紙五十枚ぐらいの読物にしようと思っていた。でも、そのコンセプトを吟味した。スーパーマンになってしまったオジサンの愛と笑いとペーソスの物語という形に纏めようとして、ブログ記事を下敷き書き始めた。文体は、少しだけ、ブログ記事より重め。

原稿用紙三十枚ぐらいまで書いたら、行き詰る。ブログ記事のアホパワーも捨てがたい。逆に、当初の記事より辛気臭い。

ここで、方向性が二分する。アホパワーに徹するのか、その笑いとペーソス系にするのか、となる。まあ、こういうところはピアノに良く似ている。しんみり系なのか、ぎんぎら系なのか、どこに音のポイントを置くのか、とか。

途中まで書いて、続かないものは、私は勤勉人間だから、元々のコンセプトに「無理がある」という結論となる。

さっき、じいーと、考えて、もし、笑いとペーソスのオジサン物語にするのであれば、「シニアマン化する、その前の部分」、つまり、五十五歳のおっさんの物語から始めないと、スーパーマン化した、その後のお笑いが導き出せない。ある意味、導き出す必要もない。突然、スーパーマンに「なるまでのお話」。カフカの「変身」の逆パターンでもある。

うーーん、難しいけれど、こういうこと考え出すと、止まらんのである。美術作品「復活(仮題)」、これも、もよもよと脳内で蠢いていて、うーーん、楽しいね。芸術芸能系人間、つまり、余生系だね。よせい、やいって！

2014.05.14 Wed

フランス語は難しい

先日、いつものショッピングセンター内のタバコ屋へ。いつものオバさん(つても私より年下だろう)に、いつも通り「ベンソンアメリカン三箱」。オバさん「あら、ごめんなさい、切らしている(わ) 作者解説、この「わ」っているのかしらねえー、男の女言葉じゃんって思うのですけれど・・・」。私、スペインの煙草フォーチュナにしようかと一瞬考えたけれど、ちょっと、別のことと思い「ラッキーストライク」と言ったら、オバさん「パードン」、もう一度言ってみたら、オバさん「ごめんなさい、どれ?」。結局、指差しでゲット。「オバさん、これさあー、フランス語で、みんな、なんて言ってるの?」「あっ、それね、ルッキーね」「おりゃ?」と、二十五年振りぐらいに通じないという事態。おおー、懐かしい。

私がフランスに上陸したのは、1983年。ロンドンからやってきた。その時、知っていたフランス語はふたつだけ。「トレビアン」と「コンビアン」、以上。タバコ屋へ行く。「ピーターステュイベサント」と言っても、売り子、眉間に皺、通じない。結局、指差しゲット。しかし、単語ふたつだけで上陸したんだから、まあ、無謀と言えはいえる。

で、きちんと勉強を始めたのか? これが、まったくのまったくで、耳学問「だけ」でなんとかしようとしたのだから、無謀である。でも、やはり、当時、ピアノを再開してはいなかったけれど、元々のミュージシャン体質。なんとなく、一年ぐらいで、日常生活はできるようになった。と言っても、面白いのは、「初対面のフランス人には通じない」という現象が起きた。満遍なく通じるようになったのが三年後ぐらいで、ジョークを言えるようになったのが五年後ぐらい。たぶん、その頃に文法書を読んだはずである。順序が逆である。先日も書いたけれども、ピアノの習得も、まったく同じで、人前で弾き捲くりお金まで頂くようになってから、ジャズの理論書を読んだ。脳機能が逆さなのである。

上陸して三十年が経過した現在の私のフランス語。お恥ずかしいレベル。読みはまあまあ。書きは全然駄目。最低である。今以て、日本語訛り剥き出しで、Rが言えない。デリシュー(超美味)、これも、ちゃんと言えない。でも、不思議と通じている。どうしてか? 私の周りのフランス人の分析では、「エスプリがフランス人しているので、お前のフランス語は良く分かる」だって。それと、下ネタ方面、ジョーク、ミュージシャンのスラングと、教科書に書いてない方面ばかりを習得してしまっただけで、良く言えば「自然なフランス語」なんだって。まあ、耳学問の成果かしらねえー。でも、三十年も住んでいるのに、なんだ、ちみのフランス語はっ! と言われると、お辞儀するしかないのである。作者解説 なんとなく読み返すと「自慢話」にも読めるけれど、そのまま読んで頂戴。うな、自慢するほど、フランス語、上手くはないのである。率直に、ね。

2014.05.15 Thu

書き散らす

今日は、5月12日なのですが、記事を書き散らし、16日まで、予約投稿のセットをしてしまった。ブログは、「夏休みの宿題」なのか？ という、素朴な疑問さえ浮かんでくる更新狂である。

なんども書いたけれど、更新「だけ」すればいいのか？ もちろん、そんなこたあーないのであるが、でもでも、それは大事なことでもある。心のリズムみたいな感じだから、更新力は生き力(いきぢから)かも知れない。とはいえ、もう少し、マシな記事は書けんのか、あんたはっ！という自問自答もしている。

突然の文体チェンジ・・・。

先ほど、わしは、ピアノの和音分析を終え、買物センターへと赴いた。脳が破裂寸前である。センター内を行き来する人々が水族館の魚のように見えた。わしも、この一員なのかと、急に、喜びのようなものが込み上げて来たのである。わしは、世間という概念は嫌いじゃが、人間は、それほど嫌いではないことが分かった。

多少マシかしら？

ところで、なんか、雨晴れ曇りと一日の中で天候が甚だしく変化する毎日が、三週間ぐらい続いているせいなのか、軽い鬱状態である。やや目が虚ろ。なんの悩みもストレスもないし、ピアノはここ近々、ぐおっとレベルアップしているしと、その理由がどこにも見当たらない。こういうノー天気なおっさんが鬱では、鬱病に申し訳ないのである。人間心理はなかなか厄介で、カンカン照りの真夏日に、突然、「百年の孤独」的、妙な感慨が込み上げてきて鬱のベールに覆われてしまったりすることもあるのだ。まあ、この不安定な天候と、ひとつにはピアノの技量が小山ながら、自分なりの満足地点に到達しているという軽い虚脱感、つまり、私の命名であるけれど「宴の後症候群」と自己分析している。

2014.05.16 Fri

更新を育てる

4日分の予約投稿、完了。ラジャーっ！ 「ブロぐる文学振興会」の、そもそもの基本は、「一に更新、二に更新」と、久保(はつじ)会長が書かれて居った。兄貴っ、早く、復帰して頂戴っ！

振り絞り 振り絞り ああー更新狂

ブロぐる心 見たことないけど 最上川

古頭 ブログ飛び込む ネタの音

ブログ書いても ひとり

更新狂 しめそかな？ 四面楚歌なり

適当に 振り絞ったら 一記事できた やったぜ 字余り

我 泣き濡れて 愚脳と戯る

「裕センセ、くだらん、俳句のような短歌のような和歌のようなものは結構ですっ！」

「井上和香、知ってる？」

「なんの関係もないっ！」

2014.05.17 Sat

フランス人男性が送りそうな週末の一日

朝、起きる。コーヒーをたてながら、夕飯の冷凍お魚コロッケといんげんを冷蔵庫から出す。お昼は、昨晚残ったフランスパンで、ホットドックにしようと、二秒ぐらい考える。コーヒー、煙草、顔を洗う。トイレに入る。すっきりする。二杯目のコーヒーと二本目の煙草。一杯目のコーヒーはカフェオレで、二杯目はブラックである。メールをチェックし、返信する。お気に入りブログ

ガーさんたちの記事を読む。次のコンサートのポスター、フライヤーを作成する。メール送信する。娘のスズキスイフトのアンテナが盗まれてしまった。といっても、棒の端切れみたいなものである。その辺で、代替品は見付かると踏む。それから、前々から気になっている左側のフロントガラスウォッシャー液が出なくなっている。ススギに電話する。ギャランティー内なのか？、ギャランティー内ではないとの返事。「自然的老化であり、メーカー責任ではない」という見解。庭の芝はぼうぼうである。と、芝刈りと車の修理を「自分でしないとイケない」という結論になる。グーグルするも、スイフト2の記事しか出てこない。検索の仕方を変える。出てこない。イメージが湧いてこない。変な風な修理は、壊すことであるから、いろいろと検索。それはいいのであるが、スイフト3のウォッシャーノズルは、フロントガラスの下部のプラスチック部分に内臓されている、この部分の名称が、まず、分からない。解体するといっても・・・。

フロントデッキパネル

ウインドシールアンダーフィラー

フロントカウルトップガーニッシュ

解体の手順が、どこにも出てこない。唯一、上記の部分に消音材を入れた方のブログが出てきた。それを参考に、やってみた。上手くいったのである。アンテナはスーパーで買ったアルミアンテナ五百円が代替できることが分かった。その後、汗だくで芝を刈り、石壁の縁の部分を剪定用の巨大鋏で切る。冷水で顔を洗い、ピアノを弾き捲くった。

2014.05.18 Sun

楽器

まだ、推敲していない記事が、またまた、溜まり始めている。先日、記事の在庫整理をしたばかりなのに……。では、そちらを整理してから、新しい記事を書けばよろしいのであるが、なんとなく、アイスコーヒー、煙草、青空とこの流れの中で、おっ、たまに楽器について書いてみようと思っただけである。

職業柄、いろんな方に、ピアノとか電子ピアノ、シンセサイザーを購入したいのだけれどといったご質問を頻繁に頂く。私の答えは、「出来る限りいい楽器を」以上なのである。なんか、どうせ子供の、しかも、将来、ピアニストになるわけでもない子供の練習用だから、安いピアノ、さらにもっと安い電子ピアノ……はどうかしら？ という主旨の質問。

もし、ピアノの演奏をしたいのであれば、当然、電子ピアノではなくピアノがベターである。弦楽器と打楽器を兼ね備えた楽器がピアノであるから、電子ピアノとは基本的に違うものと考えた方が理に適っている。奏法とか指の筋力という意味で、ピアノを弾いている人が電子ピアノを弾くことは、それほど、難しくはないけれど、逆はきつい。オートマとマニュアル車の関係に似ている。そして、当然にしていいピアノに越したことはない。ちゃちな音が脳内インストールされてしまうから、出来る限りいいものが、いい、けれど、スタンウェイ、1200万円っ！ 弾く前に倒れている。

ピアノの演奏ではなく、もっと、音、コンポジション、オーケストレーションを楽しみたいということであれば、ピアノではなく、電子ピアノかシンセサイザーの方がベター。ピアノとは違う空間芸術みたいな音世界を楽しめる。当然、ピアノの奏法とは違って来る。因みに、私が使っているのは、ローランドのステージピアノと呼ばれるもので、RD-700GX。一番安いアップライトピアノぐらいの値段だから、結構、高価ではあるけれど、こういう散財はピアノ弾きだから当然である。ヤマハの同レベルの電子ピアノにしようかと迷った。ヤマハの音源はヤマハのコンサートマス

ターランドピアノGFX。ローランドは、ドイツのベエゼンドルファー。ふーむ、となった。決め手は、重量。ヤマハ32kg。ローランド25kg。コンサート時の移動を考えると軽い方がベターなのである。もし、電子ピアノの購入を考えて居られる方がいらしたら、このステージピアノはお薦めである。といってもスピーカーが内臓されていないので、別に高性能のアンプを接続しないとイケない。こちらも、かなり高価。でも、レベルアップしても楽器が高性能なので飽きない。安物買いのなんとか……にならない、これは利点のひとつ。黙々と練習していると、時に、楽器の性能を自分の技量の方が超えてしまうから、先行投資かな？

オルガン、エレクトーンに関しては門外漢です。

あと、私が所有しているのは、スタッグのポケットトランペット。これは、一番安いトランペット。私のレベルには丁度良し。一番安い、パーカッション。一番、高い、ドイツ製のリコーダー。ピアノは、イギリス製のヤマハの中級者用のサイレントピアノ。これは、私の家の小さなサロンとの兼ね合いで、これぐらいがベスト。U-1というプロ用のアップライトが欲しかったのだけれど、私の家のサロンでは、音が響き過ぎるので、パス。

2014.05.19 Mon

過去記事のカテゴリー整理

この記事が525番目のはずである。これを書き出す前に、もう、記事タイトルだけを見て、強引に「未分類記事のカテゴリー分け」をしてしまった。ずっとBloggerで記事を書いていた。つまり、カテゴリー分けが出来なかったから、350ぐらいの記事が、FC2へ引越し後、「未分類」となってしまった。もともと、引越した理由が、「記事の整理」だったのに、過去記事を読み返す気が湧いてこない。一時期、新記事を書くことを中止して、それに時間を割こうとしたのだけれど、それも飽きてしまった。そもそも、ブログを書くこと自体、やはり、少し、飽きている。どうも、この「垂れ流し状態」がいけないのであろうと推測はしている。そうなると、過去記事を整理して電子書籍化するとか、なんか、纏めないとあーあーと思いつつ、結局、めどうになるし、うな、纏めるほどの記事なのかい？ とも思っちゃう。だったら、この垂れ流しは即刻中止して、作品である小説シニアマンに取り組む方がいいのでは・・・、という結論もちらちらと脳内に蠢く。

ブログを初めて一年と九ヶ月ぐらいになる。「筆トーク」「脳内シンコペーション」「ピアノは私だ」、そして、「ピアノは私だ2」。すでに、ブログの総タイトルが四回も変わっているし、問題は、変わるたびに、そもそもの裕イサオのブログコンセプトは薄らいでいく。第一、「筆トーク」、つまり、三十記事ぐらいでブログはお仕舞いと考えていたのに530っ！ ピアニストの、「その」宣伝を目的としていたミュージシャンブログだったのである。今じゃー、横丁の親父の戯言ブログになっちゃった！。潮時かしらあーあー？

それで、さきほどカテゴリー分けしてみて気が付いたというより、しみじみと・・・。

タイトルから、その記事内容が、書いた本人さえ推測できない=カテゴリー分けがタイトルから導き出せない。げっ。全部、読み返さないと、わからんのたんたらりん、なのである。自業自得。とほほほほほお。

引越しの際に、改行等が、へめらもになっている記事もある。読み返し、再編集かよおーあー！

そして、我ながら・・・。一記事内にお笑い、馬鹿、突然、文学等々、読み返してもカテゴライズがでけん記事ばかりなのである。私の愚脳錯乱脳の、その高性能振りに仰け反ったっ！ 読み返しても、じえんじえん、カテゴライズができないのですよおーあー、ばっかじえねえーのって！ うな、愚錯乱記事530の整理なんぞっ、私は、やらんっ！

「愚痴」

ユーチューブ動画は、総再生回数が7000回に近付いている。ピアノは、ぐわっと、進歩したとい

うのに、私のブログは、なんじゃらほい、なのである。このブログの責任者と是非ともお話しをさせて頂きたい所存である。作者を出せっ！ 大体よおー、最近はよおー、裕センセのコンサート案内さえ出てこないっ！ ミュージッシャンブログらしく、して頂戴って！ ところで、先週末は来客があり、ピアノを二日間触らなかった。休筋日である。ちょっと、酷かった背骨神経痛が、やはり、治まっている。やっば、休筆日も必要なんだろうねえー。正確には、私は記事書き溜めしているから、ノンアップ日ということかなあー。それより、一旦、この記事でこの連綿ブログは閉鎖して、別の始めようかしら・・・。ちょっと、考える。

2014.05.20 Tue

裕イサオブログデータ

本日、過去記事の本格的な整理を開始した。この記事は、私自身の覚書である。

「裕イサオ 筆トーク」9月12日2012年---10月10日2012年

私の本来的なブログコンセプトが鮮明である

「裕イサオ 脳内シンコペーション」10月21日2012年---11月30日2013年(この日をもってBlogger終了)

ある意味、ブログらしい。一年強と一番長期に渡る。あとがき等の記事はなく、たぶん、Blogger終了をもって、このタイトルは消えた模様。私の記憶も、すでに曖昧である

「裕イサオ ピアノは私だ」12月3日2013年---2月9日2014年

FC2にて執筆を開始。この時点で、ブログの総タイトルが変わったと思う。全記事のテンプレートが変わってしまったので定かではないが、タイトル変更の案内記事等見当たらないので、そうだったと推測する

「ピアノは私だ2」2月10日2014年---5月20日2014年

一旦、これで上記複数ブログは完結していると考え。ただし、同一ブログとして機能してきたので、先記のようにテンプレート、総タイトルが「ピアノは私だ2」に統一されてしまった。作者自身、525記事を再読し再編集、きちんとしたカテゴリー分けをしたい意向も少なからずあるけれども、正直、手に余る。Bloggerからの引越し時に、改行および画面サイズがおかしくなっている記事も複数ある。

1.上記、四つのブログを、ブログごとに電子書籍化する。選択肢の一つではある

2.私のブログ自体および、それを執筆することを一度、再考したい気持ちも強い。込み入ったブログ機能は良く分からないので、本記事の後、つまり、527番目の記事から「新装ピアノは私だ2」としようとも考えている。書き流しではなく、腰の入った書き物、私の考えるエッセイといったものにしようかと……。今まで、私が書き散らした記事の脳内再構成オムニバスバージョン。私のブログの集大成？ といった考え方もある

3.放置している小説十一作目シニアーマンをどうするのか？ という自問自答も続いてはいるけれど、そもそも、私はピアノ弾き。どうして物を書くことに執着し、拘っているのか？ これは謎ではあるけれど、一つの人生観なのであろう。私は、諸々の素材を通して、自分なりに世界を理解しようとしている。音であり、言葉であり、オブジェでありと、私は、一つの定規で世界を透かし見ることは、あまり、好きではないのである。私なりの、存在していないかも知れない自由という概念を探る一つの手段なのである

20.05.2014

2014.05.21 Wed